

静岡県立美術館年報

令和 4 年度

2022

静岡県立美術館年報

令和 4 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2022

静岡県立美術館年報

令和 4 年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2022

目 次

自己評価システムの体系	5
令和4年度 美術館の評価活動	6
【基本方針A】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
【重点目標1】収集方針に従い持続的に作品を収集します	
新収蔵品	9
収集品点数一覧	12
【重点目標2】コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	
収蔵品展	14
移動美術展	16
図書資料の収集・整理	17
館蔵品の貸し出し	18
美術作品の補修	20
保存活動	21
【基本方針B】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	
展覧会活動 展覧会一覧	23
観覧者数一覧	24
大展示室展	25
兵馬俑と古代中国展	26
絶景を描く展	28
みる誕生 鴻池朋子展	29
近代の誘惑展	31
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
（調査研究活動）	
紀要の発行	32
研究活動	33
研究会	34
各種資料整理	37
博物館実習	38
【基本方針C】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します	
（一般向け）	
ギャラリーツアー	39
実技・鑑賞講座	40
（子ども向け）	
実技・体験	42
学校連携普及事業（美術館教室）	44

【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します

講演会	49
美術講座	50
対外活動	52
ロダン館展示・イベント	54

【重点目標3】地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します

美術館ボランティア・広報サポーター	55
友の会活動	58

【基本方針D】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます

広報活動（ホームページ）	63
デジタルアーカイブによる情報発信	64
美術館ニュース「アマリリス」	66

【重点目標2】観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

新たな広報チャンネルの開拓	68
---------------	----

【基本方針E】環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます

【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます

施設利用状況（年度別）	69
県民ギャラリー利用状況	70

【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます

来館者のアクセス満足度	71
-------------	----

■付帯資料

令和4年度主要記事	72
-----------	----

（展覧会 出品目録）

兵馬俑と古代中国	74
絶景を描く展	80
みる誕生 鴻池朋子展	83
近代の誘惑展	90
収蔵品展	93
移動美術展	97

（管理運営）

関連法規	99
組織・名簿	108
歳入・歳出決算	109
建築・設備概要	110
利用案内	115
奥付	

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。
そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。
その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1	収集方針に従い持続的に作品を収集します	1	作品購入件数・価格
		2	コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	2	作品寄贈件数・価格
B	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	3	収蔵品の公開件数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	4	収蔵品展のみの観覧者数
C	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	5	ロダン館の観覧者数
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	6	収蔵品に関する調査研究の発表回数
		3	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	7	コレクションを活用した教育普及プログラム数
D	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	8	修復したコレクションの件数・費用
		2	観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	9	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
E	環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	展覧会の来館者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	運営基盤を強化します	12	作品やテーマに興味を持った人の割合
				13	展覧会に対する外部評価【定性】
				14	調査研究の発表回数
				15	内部セミナー・研究会・研修の回数
				16	他の美術館や大学と連携した取組件数
				17	調査研究に関する外部評価【定性】
				18	学校教育と連携した取り組み数 うち特別支援学校と連携した取り組み数
				19	鑑賞系プログラム数
				20	webを活用したプログラム数
				21	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
				22	講演会等の開催件数
				23	学芸員のフロアレクチャー等の数
				24	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				25	地域住民等と連携した取組数
				26	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
				27	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				28	デジタルアーカイブによる情報発信件数
				29	ホームページのアクセス件数
				30	facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数
				31	facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数
				32	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				33	教育機関への情報発信件数
				34	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				35	美術館利用者数
				36	鑑賞環境に対する満足度
				37	レストランに対する満足度
				38	ミュージアムショップに対する満足度
				39	来館者のアクセス満足度
				40	運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】

令和4年度 美術館の評価活動

■ 美術館自己評価 総括

A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

【成果】

- 76点の作品をご寄贈いただき、コレクションを充実させることができました。
- このうち70点の現代美術作品を寄贈くださった太田正樹氏（令和4年度没）からは、15年に及ぶ継続的なご寄贈により計106点の作品を頂戴しており、太田正樹コレクションは当館を特色づける重要な一面を占めることとなった。これまでの美術館および担当学芸員との信頼関係の賜物と考える。
- 収蔵品による企画展を2本開催し（「絶景を描く 江戸時代の風景表現」、「近代の誘惑―日本画の実践」）、企画展を通したコレクションの魅力発信を重点的に行った。
- 特集展示「瀬川図と蘭亭曲水図」にあわせて関連シンポジウムを開催した。発端となった《瀬川図巻》は、企画展開催を機にご寄贈いただいたもので、3カ年に渡る修理を経て適切な状態で展示ができるようになり、修理後の初公開を記念してシンポジウム開催に至ったものである。さらにこの成果は記録集として刊行する。調査研究・収集・保存・公開という美術館の根幹をなす活動を高いレベルで結びつけ、大きな成果を挙げたものといえる。

【課題】

- 収集方針に則った継続的な収集活動のために、購入予算の確保が切実な課題である。
- 予算逼迫は修復予算の縮減にも表れているが、コレクションの適切な保存管理、後世への継承のために、メリハリの効いた予算の確保・執行の仕組みを整える必要がある。

B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【成果】

- 改修工事後の枯らし期間を利用して、美術館の隠れた諸機能を紹介する「大展示室展」を開催した。作品が一切無い変化球の展覧会であったが、担当者の工夫と努力により美術館の知られざる一面を分かりやすく効果的に示し、好評を得た。
- 兵馬俑を中心とする中国古代の歴史・文化を紹介する展覧会を開催、中国文明に関心を持つ人々の期待に応えることができ、多くの観覧者数に結び付いた。全日予約制を導入することで、安全に来場者を迎えることができた。

- 先鋭的な現代美術作家鴻池朋子の展覧会を開催、展示室だけでなく美術館裏山をも活用した新たな視点に基づく展示によって、美術および美術館を問い直す刺激的な内容となった。

- 学芸員による調査研究の発表回数は増加傾向にある。

【課題】

- 予算縮減のなか、魅力的な展覧会をいかに作っていくかは工夫のしどころであるが、充実した展示のためには適切な予算確保はどうしても必要である。本庁と連携してこの点の改善に努める。
- コレクションを活用した企画展を2本開催できたことは当館のこれまでの収集活動の成果であるが、他機関からの借用に基づく展覧会を継続して開催し、そのノウハウを蓄積していくことも充実した展覧会企画のためには必須であり、そうした機会を作る必要がある。
- 企画力の強化のための研修・発表機会を今後とも積極的に作っていく。

C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

【成果】

- 感染症への対策をとりつつ、当初予定していた教育普及事業についてはすべてを無事に実施することができた。
- 一旦中止していた事業についても感染状況を注意深く見ながら少しずつ再開させることができた。
- アーティストによるトークや専門性の高いシンポジウム、障害のある方を対象としたプログラムなど、多様な普及事業を工夫して実施した。
- デジタルアーカイブを活用した学校向けオンラインプログラムについて、小中学校と連携して開発、試行を行い、5年度当初の本格稼働に結び付けた。

【課題】

- アフターコロナにおける学校との連携について、旧に復すだけでなく、ウェブの導入や新たな実施方法での活用の促進など、学校とコミュニケーションを取りつつ推進していく。
- 学校向けオンラインプログラムの拡充を図るとともに、一般向けのプログラムについても整備し、代替手段としてではなくWebを積極的に活用した普及事業を進める。
- 合理的な配慮のもと幅広い利用者に安心して利用してもらえるよう、研修等で受入側の準備を整える。

D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- ・本年度からデジタルアーカイブの公開を始め、コレクションおよび美術館の所蔵資料に関する情報公開について大きく前進させることができた。コンテンツが増えたためウェブサイト全体のアクセス数も前年度より増加した。
- ・県内大学への大学事務局を通したメール配信を行った。また大学への出講機会の増加に伴い展覧会情報の発信の機会を得た。

【課題】

- ・デジタルアーカイブにおける図書情報の公開が一部に留まるため、データの整備と公開のための予算確保が課題である。現代美術関連情報については、ボランティアの尽力により週及入力が進められており、今後とも連携を強化して推進していきたい。作品作家情報の更新も含めて、公開後のデジタルアーカイブの充実を日常業務に落とし込みながら継続的に進めていく必要がある。
- ・SNSについては効果的な発信のための体制づくりが課題である。
- ・広報体制の拡充は手つかずであり、各職員が業務の一部として実施している。戦略的に広報を行うには、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。
- ・コロナ禍で滞っていた観光業界等との連携について、観光需要の回復にあわせて推進していく必要がある。

E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます

【成果】

- ・大勢の来館者を迎えた「兵馬俑と古代中国」展においても、全日時間制予約を導入し来館者の分散を図ることで、安全、快適な鑑賞環境を提供することができた。
- ・中期維持保全計画に基づいて施設の改修・整備を適切に行った。
- ・レストラン、ミュージアムショップに対す満足度は高い数値を維持している。
- ・タカシマヤ文化基金の助成を獲得し、シンポジウムの成果を元にした記録集を刊行することができた。

【課題】

- ・開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進める。
- ・経営者協会との連携を進め、館長および学芸員による会員向け講座を計画していたが、感染状況の悪化により中止となった。引き続き連携の維持・強化のための働きかけを行っていく必要がある。

■ 前史

平成13年度から館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、あわせて利用者の満足度調査を行った。平成14年度は、ベンチマークスの改訂作業を進めるとともに、利用者アンケート調査

等を行い、指標の現状値を把握したうえで業務改善に取り組んだ。

これらの成果を踏まえ、平成15年度には「静岡県立美術館評価委員会」が設置された。2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に評価委員会による最終報告「提言：評価と経営の確立に向けて」が出された。これを受けて、同年4月よりミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始め、平成18年度には、前年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

使命－基本方針－重点目標の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定して自己点検を行い、業務改善につなげる仕組みであり、調整を加えながら現在まで継続して取り組んでいる。

■ 令和4年度の活動

・評価シートにもとづく自己点検評価および外部評価

引き続き、自己評価システムに基づいて自己点検評価を行い、設置者による取組とあわせて第三者評価委員会による評価を受けた。

令和4年度静岡県立美術館第三者評価委員会

8月5日 於 当館講座室

- ・県立美術館の令和3年度自己評価結果について
- ・設置者の取組について
- ・令和3年度第三者評価委員会での主な意見と対応状況について

・研究活動評価

展覧会および学芸員の調査研究に関する定性的な評価を行うため、研究活動評価委員会を設置しており、利用者アンケートでは把握しきれない学術面での達成について、下記5名の委員から評価を受けた。

(1) 研究活動評価委員

金原 宏行【日本画・日本洋画】／名都美術館学芸参与

潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学名誉教授

榊原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館・おかざき世界子ども美術博物館特任館長、群馬県立女子大学名誉教授

山梨絵美子【日本洋画】／千葉市美術館館長

栗田 秀法【西洋絵画】／名古屋大学教授

(2) 活動記録

①委員会開催 9月15日（木） 於 当館講座室

令和3年度 研究活動評価について

令和4年度 研究活動評価について

今後の研究活動についての意見交換

②「絶景を描く」展の視察と展覧会および図録に対する評価・提言 9月15日（木）

評価委員：金原委員、榊原委員

- ③「みる誕生 鴻池朋子展」の視察と展覧会および記録集に対する評価・提言 11月6日（日）、11日（金）
評価委員：潮江委員、山梨委員
- ④「近代の誘惑―日本画の実践」展の視察と展覧会に対する評価・提言 3月3日（金）、8日（水）
評価委員：金原委員、榊原委員
- ⑤『静岡県立美術館紀要』第38号掲載論文の評価
評価委員：（新田論文）潮江委員、栗田委員
（喜寿論文）金原委員、山梨委員

（参考）静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員(以下「委員」という。)を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

令和4年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとした作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法
1	秋野不矩	葡萄	1950年代 (昭和25-35頃)	紙本着色	42.5×50.5	星戸圭子氏寄贈 (星戸國男氏旧蔵)
2	秋野不矩	芥子	1967 (昭和42) 年	紙本金地着色	60.7×42.5	星戸圭子氏寄贈 (星戸國男氏旧蔵)
3	斎藤義重	作品	1965 (昭和40) 年	合板、油彩 (ドリルを使用)、ナイロン糸	45.5×53.0	太田正樹氏寄贈
4	アンディ・ウォーホル	ドル記号	1982年	キャンヴァス、ポリマー絵具、シルクスクリーンインク	50.8×40.6	太田正樹氏寄贈
5	荒川修作	BOTTOMLESS No. 1	1965 (昭和40) 年	キャンヴァス、インク、油彩	149.7×120.0	太田正樹氏寄贈
6	李禹煥	線より	1975 (昭和50) 年	キャンヴァス、顔料、膠	130.0×162.0	太田正樹氏寄贈
7	李禹煥	点より	1976 (昭和51) 年	キャンヴァス、顔料、膠	162.0×130.0	太田正樹氏寄贈
8	李禹煥	点より	1979 (昭和54) 年	キャンヴァス、油彩	6.7×110.0	太田正樹氏寄贈
9	李禹煥	照応	1998 (平成10) 年	キャンヴァス、顔料	45.8×53.0	太田正樹氏寄贈
10	李禹煥	照応	2005 (平成17) 年	キャンヴァス、油彩	162.0×130.0	太田正樹氏寄贈
11	村上隆	何時かきっと出会える！でも、今は別次元を2人彷徨う	2016 (平成28) 年	キャンヴァス、アクリル、ブラチナ箔、アルミフレーム	150.0×150.0	太田正樹氏寄贈
12	村上隆	未知なる次元への旅立ち	2016 (平成28) 年	キャンヴァス、アクリル、ブラチナ箔、アルミフレーム	180.0×240.0	太田正樹氏寄贈
13	大庭大介	RING	2016 (平成28) 年	パネル、綿布、アクリル	180.0×180.0	太田正樹氏寄贈
14	大庭大介	THE BATTLE STAGE	2016 (平成28) 年	パネル、綿布、アクリル	180.0×180.0	太田正樹氏寄贈
15	大庭大介	ONE	2017 (平成29) 年	パネル、綿布、アクリル、ガチョウの卵の殻	120.0×120.0	太田正樹氏寄贈
16	石川欽一郎	奥多摩浅川	1942 (昭和17) 年頃	紙、水彩	37.7×45.4	大越久雄氏寄贈
17	李禹煥	Untitled	1979 (昭和54) 年	紙、水彩	58.0×76.0	太田正樹氏寄贈
18	李禹煥	Untitled	1979 (昭和54) 年	紙、水彩	58.0×76.0	太田正樹氏寄贈
19	李禹煥	From Line	1979 (昭和54) 年	紙、鉛筆	58.0×76.0	太田正樹氏寄贈
20	宮島達男	Count Down	1993 (平成5) 年	紙、鉛筆	24.0×32.0	太田正樹氏寄贈
21	宮島達男	Count Down	1995 (平成7) 年	紙、インク	50.0×70.0	太田正樹氏寄贈
22	宮島達男	Count Down	1995 (平成7) 年	紙、インク	50.0×70.0	太田正樹氏寄贈
23	宮島達男	Color Structure for Floating Time V1-03-02	2000 (平成12) 年	紙、コラージュ、鉛筆、カラーペン	55.0×75.2	太田正樹氏寄贈

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法
24 宮島達男	Color Structure for Floating Time V1-03-03	2000 (平成12) 年	紙、コラージュ、鉛筆、カラーペン	55.0×75.2	太田正樹氏寄贈
25 宮島達男	Color Structure for Floating Time V1-03-07	2000 (平成12) 年	紙、コラージュ、鉛筆、カラーペン	55.0×75.2	太田正樹氏寄贈
26 イ・ブル	モンスタードロ잉	2001年	紙、アイシャドウ、墨	37.5×28.0	太田正樹氏寄贈
27 イ・ブル	モンスタードロ잉	2001年	紙、アイシャドウ、墨	37.5×28.0	太田正樹氏寄贈
28 イ・ブル	モンスタードロ잉	2001年	紙、アイシャドウ、墨	37.5×28.0	太田正樹氏寄贈
29 イ・ブル	モンスタードロ잉	2001年	紙、アイシャドウ、墨	37.5×28.0	太田正樹氏寄贈
30 名和晃平	Chain Drawing #38	2005 (平成17) 年	紙、顔料	101.0×65.0	太田正樹氏寄贈
31 名和晃平	Moment#65	2015 (平成27) 年	紙、アクリル	130.0×82.0	太田正樹氏寄贈
32 棟方志功	谷崎歌々板画柵 花見の柵	1956 (昭和31) 年 (1958年摺)	紙、木版・彩色	33.5×30.5	星戸圭子氏寄贈 (星戸國男氏旧蔵)
33 棟方志功	基督の柵	1956 (昭和31) 年 (1970年摺)	紙、木版	57.5×26.0	星戸圭子氏寄贈 (星戸國男氏旧蔵)
34 棟方志功	瘋癲老人日記板画柵 颯子の柵	1963 (昭和38) 年 (1963年摺)	紙、木版	20.2×30.4	星戸圭子氏寄贈 (星戸國男氏旧蔵)
35 難波田龍起	リトグラフィ集1990 人と自然の形象	1990 (平成2) 年	紙、リトグラフ	各60.0×82.0 (全5点内4点)、 82.0×60.0	太田正樹氏寄贈
36 李禹煥	オリジナル石版画集『点より線より』	1977 (昭和52) 年	紙、リトグラフ	各50.0×65.5 (全8点)	太田正樹氏寄贈
37 李禹煥	項 A	1979 (昭和54) 年	紙、木版	73.5×105.5	太田正樹氏寄贈
38 李禹煥	項 B	1979 (昭和54) 年	紙、木版	73.5×105.5	太田正樹氏寄贈
39 李禹煥	オリジナル銅版画集『FROM LINE』	1981 (昭和56) 年	紙、ドライポイント	各45.7×56.0 (全12点)	太田正樹氏寄贈
40 李禹煥	オリジナル銅版画集『FROM POINT AND LINE』	1982 (昭和57) 年	紙、ドライポイント	各50.5×65.7 (全6点)	太田正樹氏寄贈
41 李禹煥	オリジナル銅版画集『廃墟へ』	1986 (昭和61) 年	紙、ドライポイント	各65.0×54.0 (全6点)	太田正樹氏寄贈
42 李禹煥	都市の記憶より	1989 (平成元) 年	紙、リトグラフ	各80.3×60.5 (全6点内5点) 60.5×80.3	太田正樹氏寄贈
43 李禹煥	出港地 A	1991 (平成3) 年	紙、リトグラフ	190.0×130.0	太田正樹氏寄贈
44 李禹煥	出港地 B	1991 (平成3) 年	紙、リトグラフ	190.0×130.0	太田正樹氏寄贈
45 李禹煥	出港地 C	1991 (平成3) 年	紙、リトグラフ	190.0×130.0	太田正樹氏寄贈
46 李禹煥	出港地 D	1991 (平成3) 年	紙、リトグラフ	130.0×200.0	太田正樹氏寄贈
47 李禹煥	Avec l'espace (1) 空間とともに	1992 (平成4) 年	紙、リトグラフ	56.5×77.0	太田正樹氏寄贈
48 李禹煥	Avec l'espace (2) 空間とともに	1992 (平成4) 年	紙、リトグラフ	77.0×56.5	太田正樹氏寄贈
49 李禹煥	Avec l'espace (3) 空間とともに	1992 (平成4) 年	紙、リトグラフ	56.5×77.0	太田正樹氏寄贈
50 李禹煥	銅版画文集『東の扉』	1998 (平成10) 年	紙、アクアチント	各50.0×38.0 (全8点)	太田正樹氏寄贈
51 李禹煥	Desert GINZA-1	1999 (平成11) 年	紙、ドライポイント	47.0×58.0	太田正樹氏寄贈
52 李禹煥	Desert GINZA-2 (German edition)	2000 (平成12) 年	紙、ドライポイント	47.0×58.0	太田正樹氏寄贈

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法
53 李禹煥	Desert GINZA- 3	2000 (平成12) 年	紙、ドライポイント	47.0×58.0	太田正樹氏寄贈
54 李禹煥	Desert GINZA- 4	2000 (平成12) 年	紙、ドライポイント	32.5×49.6	太田正樹氏寄贈
55 李禹煥	ある黙示録より 1	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
56 李禹煥	ある黙示録より 2	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	74.0×60.0	太田正樹氏寄贈
57 李禹煥	ある黙示録より 3	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
58 李禹煥	ある黙示録より 4	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
59 李禹煥	ある黙示録より 5	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
60 李禹煥	ある黙示録より 6	2003 (平成15) 年	紙、リトグラフ	74.0×60.0	太田正樹氏寄贈
61 李禹煥	ある黙示録より 7	2004 (平成16) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
62 李禹煥	ある黙示録より 8	2004 (平成16) 年	紙、リトグラフ	60.0×74.0	太田正樹氏寄贈
63 李禹煥	黙 1	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	92.0×110.0	太田正樹氏寄贈
64 李禹煥	黙 2	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	92.0×110.0	太田正樹氏寄贈
65 李禹煥	黙 3	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	92.0×110.0	太田正樹氏寄贈
66 李禹煥	黙 4	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	110.0×92.0	太田正樹氏寄贈
67 李禹煥	黙 5	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	55.0×65.0	太田正樹氏寄贈
68 李禹煥	黙 6	2006 (平成18) 年	紙、リトグラフ	49.0×58.0	太田正樹氏寄贈
69 宮島達男	Life Face Vol. 1	1991 (平成3) 年	紙、モノタイプエンボス	57.5×76.5	太田正樹氏寄贈
70 アニッシュ・カプーア	Monochrome (Garnet)	2015年	FRP、塗料	188.0×188.0×39.0	太田正樹氏寄贈
71 ジュリアン・オピー	Shahnoza dancing in tartan mini, left	2007年	ビニール、木枠	229.0×122.6	太田正樹氏寄贈
72 宮島達男	Opposite Harmony No.7651 /No.26886	1990 (平成2) 年	LED、IC、電線、アルミニウムパネル (2ユニット)	各11.6×26.0×3.5	太田正樹氏寄贈
73 宮島達男	Monism / Dualism No.12	1999 (平成11) 年	LED、IC、電線、スチールパネル	163.5×9.0×5.5	太田正樹氏寄贈
74 宮島達男	Changing Time with Changing Self No.6	2001 (平成13) 年	LED、IC、電線、鏡、ステンレス鋼パネル	94.0×94.0×5.6	太田正樹氏寄贈
75 宮島達男	C.F. Lifestructurism - no.13	2009 (平成21) 年	LED、 IC、 電線、金具	44.5×44.5×6.5	太田正樹氏寄贈
76 名和晃平	PixCell-Deer #47	2016 (平成28) 年	ミクストメディア	136.1×69.5×58.5	太田正樹氏寄贈

■収蔵点数一覧（令和４年度末現在）

購入作品数

（百万円）

年度		日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
												点数	金額
昭和55							5					5	74
56		14	14	4	7	58		3	1			101	287
57		9	5	3		3	2					22	563
58		10	6	2	1	60		1				80	483
59		3	10			27		2				42	597
60		7	10	2		5		11				35	669
61		4	4	1		16		2				27	240
62		3	6			85		2				96	242
63		5	3			1		7				16	499
平成元		5	2			3		3		33		46	392
2		2	1		3	43		5		13		67	598
3		1	8	2		268		9				288	675
4		3	4			4		12				23	768
5		5	3	2		68		13			3	94	557
6		8	8	1		27		1			4	49	395
7		4	8	1	1	152						166	397
8		3	2	4							4	13	137
9		5	4	1		2						12	146
10		5	4	1		52						62	120
11		4	3	2		37						46	88
12		1	3	2							1	7	46
13		2	1	1		9		1				14	39
14		3	4	1		9						17	45
15		7	2									9	52
16		3	2			60		1				66	56
17		2				22					7	31	41
18				2				2				4	6
19			1								1	2	30
20		1	1			1						3	13
21		1										1	20
22		1	1			1						3	12
23		1										1	5
24			1			1						2	5
25												0	0
26		1										1	16
27												0	0
28						2						2	3
29			1			1						2	0
30		1	1			2						4	10
令和元		1	2									3	10
2		4										4	10
3		2	1			2						5	10
4												0	0
合計	点数	131	126	32	12	1,021	7	75	1	46	20	1,471	
	金額	1,720	2,842	311	68	371	80	2,811	3	8	142	8,356	

寄贈作品数

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
昭和55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
平成元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
29		1							5	1	7
30	3	1								3	7
令和元		1			10					5	16
2		2								1	3
3		3	1		4					1	9
4	2	13	3	13	38					7	76
計	223	145	23	106	382	340	14	8	18	79	1,338

【基本方針A】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
【重点目標2】コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます

収蔵品展

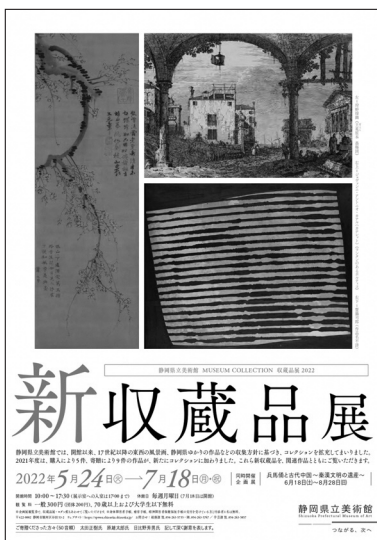
第7展示室において当館の所蔵品・寄託品による収蔵品展を開催し、下記4つのテーマ立てにより計144点の作品を展示した。

無料でご利用いただける本館1階エントランスの名品コーナーにおいても常時3点の作品を展示し、多くの方に鑑賞いただいた。

■収蔵品展スケジュール

5月24日（火）～7月18日（月・祝）

新収蔵品展



静岡県立美術館 MUSEUM COLLECTION 収蔵品展 2022

新収蔵品展

静岡県立美術館では、開館以来、17世紀以降の東西の美術品、静岡県ゆかりの作品などの収蔵品を展示し、コレクションを発見してまいりました。2022年現在、鑑賞しうる収蔵品の数が増え、観覧しうる作品の幅が広がりました。この機会に、収蔵品の新たな価値を発見し、広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます。

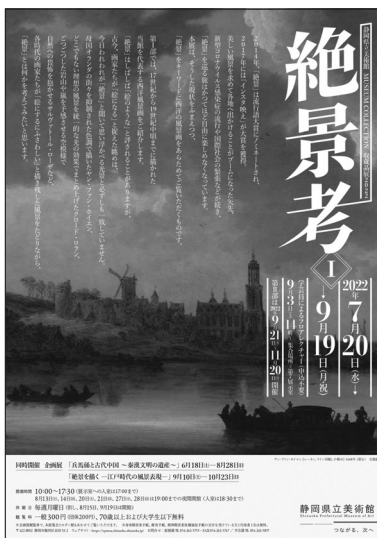
2022年5月24日（火）～7月18日（月・祝）

開館時間 10:00～17:30（入館は17時までに） 休館日 7月19日（火）

※ 本展は、静岡県立美術館の収蔵品、寄託品による展示です。収蔵品の展示は、収蔵品の状態や展示の都合により、一部変更となる場合があります。詳しくは、静岡県立美術館のホームページをご覧ください。

静岡県立美術館

7月20日（水）～9月19日（月・祝）
絶景考Ⅰ



絶景考Ⅰ

静岡県立美術館では、開館以来、17世紀以降の東西の美術品、静岡県ゆかりの作品などの収蔵品を展示し、コレクションを発見してまいりました。2022年現在、鑑賞しうる収蔵品の数が増え、観覧しうる作品の幅が広がりました。この機会に、収蔵品の新たな価値を発見し、広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます。

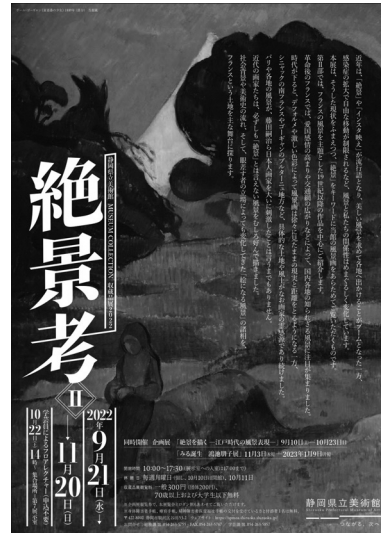
2022年7月20日（水）～9月19日（月・祝）

開館時間 10:00～17:30（入館は17時までに） 休館日 7月19日（火）

※ 本展は、静岡県立美術館の収蔵品、寄託品による展示です。収蔵品の展示は、収蔵品の状態や展示の都合により、一部変更となる場合があります。詳しくは、静岡県立美術館のホームページをご覧ください。

静岡県立美術館

9月21日（水）～11月20日（日）
絶景考Ⅱ



絶景考Ⅱ

静岡県立美術館では、開館以来、17世紀以降の東西の美術品、静岡県ゆかりの作品などの収蔵品を展示し、コレクションを発見してまいりました。2022年現在、鑑賞しうる収蔵品の数が増え、観覧しうる作品の幅が広がりました。この機会に、収蔵品の新たな価値を発見し、広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます。

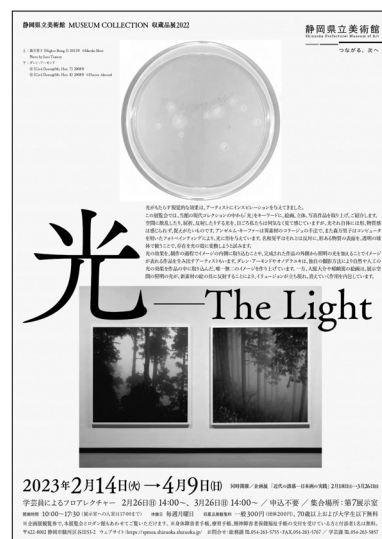
2022年9月21日（水）～11月20日（日）

開館時間 10:00～17:30（入館は17時までに） 休館日 7月19日（火）

※ 本展は、静岡県立美術館の収蔵品、寄託品による展示です。収蔵品の展示は、収蔵品の状態や展示の都合により、一部変更となる場合があります。詳しくは、静岡県立美術館のホームページをご覧ください。

静岡県立美術館

2023年2月14日（火）～4月9日（日）
光—The Light



光—The Light

静岡県立美術館では、開館以来、17世紀以降の東西の美術品、静岡県ゆかりの作品などの収蔵品を展示し、コレクションを発見してまいりました。2022年現在、鑑賞しうる収蔵品の数が増え、観覧しうる作品の幅が広がりました。この機会に、収蔵品の新たな価値を発見し、広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます。

2023年2月14日（火）～4月9日（日）

開館時間 10:00～17:30（入館は17時までに） 休館日 7月19日（火）

※ 本展は、静岡県立美術館の収蔵品、寄託品による展示です。収蔵品の展示は、収蔵品の状態や展示の都合により、一部変更となる場合があります。詳しくは、静岡県立美術館のホームページをご覧ください。

静岡県立美術館

- ※4月2日（土）～5月15日（日）は「大展示室展」を開催。
- ※11月22日（火）～2023年1月9日（月・祝）は「綱川図と蘭亭曲水図」展を開催。
- ※11月3日（木・祝）～2023年1月9日（月・祝）は名品コーナーに「みる誕生 鴻池朋子展」の作品を展示。

■デザイン

ウェブチラシおよび入口看板：坂本陽一（mots）

■出品目録

pp.93～95参照

《輞川図巻》修理後初公開 静岡県・浙江省友好提携40周年記念 輞川図と蘭亭曲水図

会 期：令和4年11月22日（火）～令和5年1月9日
（月・祝）

■概要

2018年に収蔵された「輞川図巻」の3年にわたる修理が終了したことを記念し、「輞川図巻」の全巻初公開を行うとともに、中国の明代に、蘇州で制作された関連する新出作品などを展示した。あわせて、静岡県・浙江省友好提携40周年を記念して、浙江省にある蘭亭に注目し、重要文化財・池大雅「蘭亭曲水図屏風」ほか、当館所蔵の江戸時代の大作3点に加え、その作者の関連作品を展示した。

また、タカシマヤ文化基金を取得し、「輞川図巻」をはじめとする本展出品作について研究を重ねてきた、第一線で活躍する研究者を招聘するシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、輞川図と蘭亭曲水図という二つのテーマから、東アジア絵画史の幅広い研究内容を横断し、その全体像に深く切り込む発表と議論が行われ、多くの成果が得られた。

本展およびシンポジウムの成果をもとに、『輞川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響』と題した書籍を、勉強出版より令和5年5月に出版した。

■関連事業

・記念シンポジウム

「輞川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」

日 時：12月3日（土）13:00～17:30

場 所：当館講堂

内 容：

第一部「輞川図と明代蘇州の庭園（園林）画」

板倉聖哲氏（東京大学教授）

「模倣？複製？贋作？—『蘇州片』をめぐる」

呉孟晋氏（京都大学准教授）

「静岡県立美術館本からみる輞川図の展開」

植松瑞希氏（東京国立博物館研究員）

「明代蘇州の王維憧憬」

第二部「蘭亭曲水図と江戸時代の庭園画」

佐藤康宏氏（東京大学名誉教授）

「蘭亭曲水図—明末から江戸中期へ」

野田麻美（当館学芸員）

「久隅守景『蘭亭曲水図屏風』試論—江戸狩野派の

蘭亭曲水図にみる遊宴図像の展開」

横尾拓真氏（名古屋市博物館学芸員）

「大雅作品に見る烹茶場面の添景について—静岡県立美術館所蔵『蘭亭曲水・龍山勝会図屏風』を中心

に—」

総合討議 司会・ディスカッサント：塚本鷹充氏（東京大学教授）

・学芸員によるフロアレクチャー

日 時：12月17日（土）14:00～

場 所：第7展示室

■デザイン

チラシ、出入口看板：坂本陽一（mots）

■出品目録

p.96を参照



▲チラシ

図書資料の収集・整理

■収集

令和4年度の新たな受入により、当館蔵書は104,044冊となった。その累計内訳は、刊行図書 46,010冊、美術雑誌24,394冊、美術館等刊行物33,640冊である。

■分類・整理

令和4年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、データベースに入力、配架した。

②定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物の目録を新たなデータベースに移行した。新規受入分を、順次、分類表に則って分類し、当該データベースに入力、配架した。

③ 書庫整理

学芸室に新たに設置した書棚に、美術館・博物館が発行する要覧類、研究紀要、目録、報告書などを配架し、書庫2階の各種定期刊行物の配架スペースを拡充した。閉架書庫にあった現代美術関連の叢書や絵本などを閲覧室に新たに配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書利用のための閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。閲覧室のパソコンから収蔵図書の検索が可能となっており、利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧することができる。蔵書の一部は当館デジタルアーカイブからも検索できる。

館蔵品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	Bunkamuraザ・ミュージアム、東京新聞	ミロ展—日本を夢みて	2022/2/11- 2022/4/17	Bunkamura ザ・ミュージアム	2022/2/1- 2022/9/14
2	建部綾足	梅鳥図	板橋区立美術館、東京新聞	建部綾足展 その生涯、 酔たるか醒たるか	2022/3/12- 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2- 2022/4/27
3	楳取魚彦	梅花図	板橋区立美術館、東京新聞	建部綾足展 その生涯、 酔たるか醒たるか	2022/3/12- 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2- 2022/4/27
4	楳取魚彦	酒泉狸々図	板橋区立美術館、東京新聞	建部綾足展 その生涯、 酔たるか醒たるか	2022/3/12- 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2- 2022/4/27
5	カール・アン ドレ	鉛と亜鉛のスクエア	川村記念美術館、愛知県 美術館、兵庫県立美術館 ほか	ミニマル／コンセプチュ アル：ドロテ&コンラ ート・フィッシャーと19 60—70年代美術	2022/3/26- 2022/5/29	兵庫県立美術 館	2021/9/30- 2022/6/8
6	香月泰男	冬鳥	宮城県立美術館、神奈川 県立近代美術館、新潟市 美術館、練馬区立美術館、 足利市立美術館	生誕110年 香月泰 男展	2022/4/5- 2022/5/29	足利市立美術 館	2021/6/24- 2022/6/8
7	ジャック・リブ シッツ	母と子	大阪中之島美術館、読売 新聞社	モディリアーニとその 時代	2022/4/9- 2022/7/18	大阪中之島美 術館	2022/3/30- 2022/7/28
8	司馬江漢	七里ヶ浜図	九州国立博物館、西日本 新聞社ほか	北斎	2022/4/16- 2022/6/12	九州国立博物 館	2022/4/6- 2022/6/22
9	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	愛知県美術館、中日新聞 社ほか	ミロ展—日本を夢み て	2022/4/29- 2022/7/3	愛知県美術館	2022/2/1- 2022/9/14
10	作者不詳	富士三保松原図屏 風	サントリー美術館	歌枕 あなたの知ら ない心の風景	2022/6/29- 2022/8/28	サントリー美 術館	2022/6/19- 2022/9/7
11	狩野探信守政	井手玉川・佐野渡 図屏風	サントリー美術館	歌枕 あなたの知ら ない心の風景	2022/6/29- 2022/8/28	サントリー美 術館	2022/6/19- 2022/9/7
12	狩野探信守道	井出玉川・大堰川 図屏風	サントリー美術館	歌枕 あなたの知ら ない心の風景	2022/6/29- 2022/8/28	サントリー美 術館	2022/6/19- 2022/9/7
13	山本探川	宇津の山図屏風	サントリー美術館	歌枕 あなたの知ら ない心の風景	2022/6/29- 2022/8/28	サントリー美 術館	2022/6/19- 2022/9/7
14	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	富山県美術館、北陸中日 新聞ほか	ミロ展—日本を夢み て	2022/7/16- 2022/9/4	富山県美術館	2022/2/1- 2022/9/14
15	円山応挙	木賊兎図	福岡市美術館、高山寺、 西日本新聞社、TVQ九州 放送	国宝 鳥獣戯画と愛 らしき日本の美術	2022/9/3- 2022/10/16	福岡市美術館	2022/8/24- 2022/10/26
16	狩野永良	親子犬図	福岡市美術館、高山寺、 西日本新聞社、TVQ九州 放送	国宝 鳥獣戯画と愛 らしき日本の美術	2022/9/3- 2022/10/16	福岡市美術館	2022/8/24- 2022/10/26
17	狩野山雪	富士三保松原図屏 風	山口県立美術館・読売新 聞社ほか	雪舟と狩野派	2022/9/16- 2022/10/16	山口県立美術 館	2022/9/6- 2022/10/26
18	狩野安信	猿曳き・酔舞図屏 風	山口県立美術館・読売新 聞社ほか	雪舟と狩野派	2022/9/16- 2022/10/16	山口県立美術 館	2022/9/6- 2022/10/26
19	狩野芳崖	寿老人図	山口県立美術館・読売新 聞社ほか	雪舟と狩野派	2022/9/16- 2022/10/16	山口県立美術 館	2022/9/6- 2022/10/26
20	岡田半江	洋人富士山遠望図 屏風	三重県立美術館	岡田米山人・半江展	2022/9/23- 2022/11/6	三重県立美術 館	2022/9/13- 2022/11/16
21	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度 之懸図屏風	公益財団法人馬事文化財団	江戸狩野派と馬	2022/10/1- 2022/12/4	馬の博物館	2022/9/20- 2022/12/14
22	狩野探信守政	井手玉川・佐野渡 図屏風	公益財団法人馬事文化財団	江戸狩野派と馬	2022/10/1- 2022/12/4	馬の博物館	2022/9/20- 2022/12/14
23	狩野探幽・安 信・常信ほか 狩野36家合作	牛馬図	公益財団法人馬事文化財 団	江戸狩野派と馬	2022/10/1- 2022/12/4	馬の博物館	2022/9/20- 2022/12/14

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
24	横山大観	春園の月	名都美術館	横山大観一心によりて筆生ず	2022/10/14-2022/12/11	名都美術館	2022/10/ 4 - 2022/12/21
25	鈴木其一	干瓢干し図	壬生町立歴史民俗資料館	大名家の献立一文化二年壬生御献立帳一	2022/11/ 5 - 2022/12/18	壬生町立歴史民俗資料館	2022/10/25-2022/12/28
26	黒田清輝	富士之図 (1)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
27	黒田清輝	富士之図 (2)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
28	黒田清輝	富士之図 (3)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
29	黒田清輝	富士之図 (4)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
30	黒田清輝	富士之図 (5)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
31	黒田清輝	富士之図 (6)	静岡市美術館、毎日新聞社	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022/11/19-2023/ 1 /29	静岡市美術館	2022/11/ 9 - 2023/ 2 / 8
32	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	東京ステーションギャラリー、大阪中之島美術館、読売新聞社	佐伯祐三自画像としての風景	2023/ 1 /21-2023/ 4 / 2	東京ステーションギャラリー	2023/ 1 /11-2023/ 7 / 5
33	作者不詳	都鄙図屏風	掛川市二の丸美術館	徳川家康と掛川三城ゆかりの武将物語	2023/ 1 /28-2023/ 3 /12	掛川市二の丸美術館	2023/ 1 /18-2023/ 3 /22
34	伝 狩野光信	源氏物語図屏風	掛川市二の丸美術館	徳川家康と掛川三城ゆかりの武将物語	2023/ 1 /28-2023/ 3 /12	掛川市二の丸美術館	2023/ 1 /18-2023/ 3 /22
35	作者不詳	三保松原図屏風 (「三保松原・厳島図屏風」のうち)	静岡市、静岡市美術館	東海道の美 駿河への旅	2023/ 2 /11-2023/ 3 /26	静岡市美術館	2023/ 2 / 1 - 2023/ 4 / 5
36	司馬江漢	長沼村富士眺望図	静岡市、静岡市美術館	東海道の美 駿河への旅	2023/ 2 /11-2023/ 3 /26	静岡市美術館	2023/ 2 / 1 - 2023/ 4 / 5
37	原在正	富士山図巻 第4巻・第13巻	静岡市、静岡市美術館	東海道の美 駿河への旅	2023/ 2 /11-2023/ 3 /26	静岡市美術館	2023/ 2 / 1 - 2023/ 4 / 5
38	作者不詳	東海道図屏風	静岡市、静岡市美術館	東海道の美 駿河への旅	2023/ 2 /11-2023/ 3 /26	静岡市美術館	2023/ 2 / 1 - 2023/ 4 / 5
39	速水御舟	芍薬図	茨城県近代美術館	速水御舟展	2023/ 2 /21-2023/ 3 /26	茨城県近代美術館	2023/ 2 /11-2023/ 4 / 5
40	速水御舟	鍋島の皿に柘榴	茨城県近代美術館	速水御舟展	2023/ 2 /21-2023/ 3 /26	茨城県近代美術館	2023/ 2 /11-2023/ 4 / 5
41	狩野探幽	白鷗図	山梨県立博物館、山梨日々新聞社、山梨放送	印章一刻まれてきた歴史と文化	2023/ 3 /11-2023/ 5 / 8	山梨県立博物館	2023/ 3 / 1 - 2023/ 5 /18
42	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	Musée du Luxembourg (リュクサンブール美術館)	Léon Monet, frère de l'artiste et collectionneur (レオン・モネ、芸術家の兄弟にして収集家)	2023/ 3 /15-2023/ 7 /16	Musée du Luxembourg	2023/ 2 / 1 - 2023/ 8 /31
43	ポール・ゴーガン	家畜番の少女	国立西洋美術館、TBSテレビ	憧憬の地 ブルターニュモネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷	2023/ 3 /18-2023/ 6 /11	国立西洋美術館	2023/ 3 / 8 - 2023/ 6 /21
44	椿椿山	山海奇賞図巻	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/ 3 /18-2023/ 4 /16	板橋区立美術館	2023/ 3 / 8 - 2023/ 4 /26
45	椿椿山	蕃殖図	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/ 3 /18-2023/ 4 /16	板橋区立美術館	2023/ 3 / 8 - 2023/ 4 /26
46	椿椿山	春蘭為畦図	板橋区立美術館、東京新聞	椿椿山展	2023/ 3 /18-2023/ 4 /16	板橋区立美術館	2023/ 3 / 8 - 2023/ 4 /26

美術作品の補修

修復作品

- ・丹羽勝次《NO HOOKS》固着、クリーニング、整形、補強、補填、補彩
- ・石川欽一郎《奥多摩浅川》クリーニング、額装改善
- ・イ・ブル《モンスタードロイング》マット装改善
- ・イ・ブル《モンスタードロイング》マット装改善
- ・イ・ブル《モンスタードロイング》マット装改善
- ・イ・ブル《モンスタードロイング》マット装改善
- ・ロダン館及びブリッジ・ギャラリー彫刻清拭

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

今年度も大規模な修繕が行われ、監視カメラやバックヤードのファンコイルの更新が行われた。《地獄の門》第三試作の設置されているロダン館の低天井部分は、従来の特殊な形状の蛍光灯を廃し、新たにLED照明を導入した。調光装置、ライティングレール、ピクチャーレール等も増設することが出来たため、光環境の改善のみならず、このスペースをより柔軟かつ多様な目的で活用できるようになった。

今後、全館の照明器具更新に合わせ、お客様のお入りになるスペースの光環境改善を目指していきたい。

今年度も、新型コロナの防疫が大きな課題となった。

各展覧会や実技室イベントでの対策は、担当者が原案を立案、学芸総務両課の職員によるコロナ対策チームでこの案を検討した後、管理職等の承認を経て実施した。

入館時検温用サーモグラフィーの維持管理、入場制限時の人員整理、展覧会への日時指定導入等は、総務課が主導した。エントランスホールに設置したデジタルサイネージは、来館者への周知事項等をきめ細かく改訂できる点で、有効であった。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ブンガノン炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

また、鴻池朋子展終了後、本館展示室ガラスケース内及び名品コーナーのみのブンガノン殺虫作業を実施した。また、エキヒュームによる作品の殺虫作業も行なった。

環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法である窒素置換法による低酸素濃度殺虫は、必要となる事態が無かったため、今年度の実績は無かった。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガス

の開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また屋外の生物環境の調査を、昨年度に引き続き実施した。館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

また、ブリッジ・ギャラリーの空調機に不具合があり、温湿度の管理に問題が発生する可能性が大きくなったため、本館第7展示室とブリッジギャラリーとの間に、仮設の間仕切りパネルを設置した。手動の扉もあり、歩行者も車椅子の方もここを通ることができる。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなりかねない。作品の収集は美術館本来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。

高気密のキャビネットと調湿剤、ガス吸着剤との併用による作品収納スペースの拡張は、概ね順調に進んでいるが、ガス吸着剤の交換を視野に入れ、庫内空気環境の変動を注視している。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。

今年度は企画展として、展示室等のファシリティを紹介する「大展示室展」を開催し、更に普及に努めた。

■防災

今年度は、職員による大規模な防災訓練を実施することができた。展示室等で監視に当たるミュージ・スタッ

フには、事前に災害を想定した図上訓練を実施、発災時の行動や動線を確認した上で、総務課や学芸課の職員、警備センター、中央監視室等の職員も参加した訓練を実施することが出来た。

静岡県博物館協会事務局としては、会員各館で実施している新型コロナ対策を書き込むためのスレッドを引き続き活用、情報を共有した。

全国美術館会議東海ブロックでは、愛知、三重、岐阜の各県と共に、防災についての協議を継続しており、2023（令和5）年度から2年間、当館が幹事館となる予定である。

■主な保存活動の経過

4月2日（土）～5月15日（日）

「大展示室展」開催

5月19日（木）～21日（土）

ブンガノンによる展示室等殺虫業務

5月30日（月）～6月6日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1回目

8月15日（月）～22日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2回目

8月中旬

台風8号の後、静岡県博物館協会事務局として、会員館園の安否確認を実施。結果は会員専用掲示板にアップ

9月12日（月）

ミュージスタッフのための災害図上訓練実施

9月26日（月）

ブリッジギャラリーの空調不具合に伴い、本館第7展示室とブリッジギャラリーとの境目に、仮設の間仕切りパネルを設置。

9月下旬

台風15号の後、静岡県博物館協会事務局として、会員館園の安否確認を実施。結果は会員専用掲示板にアップ

11月28日（月）～12月5日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3回目

1月12日（木）～16日（月）

エキヒュームによる作品殺虫燻蒸

2月11日（土）、12日（日）

本館展示室ガラスケース及び名品コーナーのブンガノンによる殺虫実施。

展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4 / 2（土）～ 5 / 15（日） 大展示室展						
5 MAY							5 / 24（火）～ 7 / 18（月・祝）
6 JUNE	6 / 18（土）～ 8 / 28（日） 兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～						新収蔵品展
7 JULY							7 / 20（水）～ 9 / 19（月・祝）
8 AUGUST							絶景考Ⅰ
9 SEPTEMBER	9 / 10（土）～10/23（日） 絶景を描く―江戸時代の風景表現―						9 / 21（水）～11/20（日）
10 OCTOBER							絶景考Ⅱ
11 NOVEMBER	11 / 3（木・祝）～ 1 / 9（月・祝） みる誕生 鴻池朋子展						11/22（火）～ 1 / 9（月・祝） 《輞川図巻》修理後初公開／ 静岡県・浙江省友好提携 40周年記念 輞川図と蘭亭曲水図
12 DECEMBER	1 / 10（火）～ 2 / 13（金） （設備改修工事のため全館休館）						
1 JANUARY							2 / 14（火）～ 4 / 9（日）
2 FEBRUARY	2 / 18（土）～ 3 / 26（日） 近代の誘惑―日本画の実践						光―The Light
3 MARCH							

観覧者数一覧

展覧会		会期		観覧者 見込数	観覧者数							
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	大展示室展	4 / 2 ～ 5 / 15	39	1,708	3,935	666	1,012	741	150	612	7,116	416.6
	兵馬俑と古代中国展	6 / 18 ～ 8 / 28	63	72,000	36,969	3,050	5,750	8,873	725	7,887	63,254	87.9
	絶景を描く展	9 / 10 ～ 10 / 23	38	7,000	1,793	377	488	507	116	1,440	4,721	67.4
	みる誕生。鴻池朋子展	11 / 3 ～ 1 / 9	54	8,000	3,746	761	933	638	271	2,293	8,642	108.0
	近代の誘惑展	2 / 18 ～ 3 / 26	32	7,000	2,245	475	344	667	64	1,666	5,461	78.0
	小 計		226	95,708	48,688	5,329	8,527	11,426	1,326	13,898	89,194	93.2
収蔵品展		5 / 24 ～ 3 / 31	235	10,292	3,861	604	615	876	322	2,018	8,296	80.6
合 計			274	106,000	52,549	5,933	9,142	12,302	1,648	15,916	97,490	92.0
移動美術展	富士市	11 / 9 ～ 11 / 27	9	12,000	-	-	-	-	-	-	1,371	11.4

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成17年度	129,768
昭和62年度	174,031	平成18年度	222,608
昭和63年度	214,156	平成19年度	184,535
平成元年度	229,258	平成20年度	190,669
平成 2 年度	233,904	平成21年度	101,792
平成 3 年度	190,361	平成22年度	264,207
平成 4 年度	173,665	平成23年度	126,626
平成 5 年度	218,921	平成24年度	163,533
平成 6 年度	410,182	平成25年度	139,428
平成 7 年度	245,028	平成26年度	94,664
平成 8 年度	178,701	平成27年度	110,310
平成 9 年度	127,299	平成28年度	146,498
平成10年度	153,099	平成29年度	157,323
平成11年度	107,977	平成30年度	73,452
平成12年度	146,833	令和元年度	113,362
平成13年度	207,340	令和 2 年度	137,276
平成14年度	170,390	令和 3 年度	45,109
平成15年度	184,095	令和 4 年度	97,490
平成16年度	146,706	累 計	6,356,342

大展示室展

主催：静岡県立美術館

会期：令和4年4月2日（土）～5月15日（日）

休館日：毎週月曜日（5月2日（月）は特別開館、翌3日（火・祝）も開館）

■概要

作品を展示するための「ハコ」である美術館の展示室には、安全に、そして快適に作品をご覧頂くために、様々な工夫がこらされている。本展は、昨年度工事後の枯らし期間を利用し、これら展示室のファシリティをご覧頂く展覧会であった。作品を入れるケース、壁、台車、道具、照明、バックヤードの一部等々、普段は目に付かないよう隠してある部分を、敢えてご覧頂いた。

併せて、建設基本構想検討時の模型や図面、完成予想のパース等、静岡県立美術館創設期の資料を展示した。

■関連事業

- ・ボランティア講座

日時：4月2日（土）14：00～

- ・フロアレクチャー

日時：4月3日（日）、13日（月・祝）各日14：00～14：30

講師：新田建史（当館上席学芸員）

- ・学芸員美術講座「静岡県立美術館の記憶について」

日時：4月9日（土）14：00～

場所：当館講堂

講師：新田建史（当館上席学芸員）

- ・静岡県博物館協会会員向けフロアレクチャー

日時：4月11日（月）、13日（水）各日14：00～

- ・館長美術講座

日時：5月3日（火・祝）14：00～

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

- ・関連ワークショップ「展示室の秘密を探れ！」

日時：5月4日（水・祝）、5日（木・祝）

午前の部 10：15～12：15

午後の部 13：30～15：30

場所：当館展示室

Grand Exhibition Room Exhibition
知られざる展示室の魅力を大公開！

大展示室展

2022年
4月2日（土）～5月15日（日）

展示室の機能が主役の展覧会です！

目の前にあるものは、かえってよく見えないものです。バスや電車を規則正しく運行するための仕組みや、何気なく手に取る商品を毎日届けてくれる流通システム。そういったものの仕組みや生活を支え、豊かな暮らしを変えてくれています。どうやって動いているのか、ふだんはあまり気にしないかもしれませんが、美術館でも、作品や皆さんの安全を守り、快適に作品をご覧頂くために、実は様々な工夫をこらしているのです。いつもはさりげなく隠してあります。この展覧会では、これらの工夫をご紹介します。併せて、この美術館創設当時の様子、模型や資料を公開します。見たことのない美術館のすがたの数々、この機会に、どうぞご覧下さい。

会期中イベント

学芸員によるフロアレクチャー
4月3日（日）25日（金・祝）
14：00～14：30 展示室にて
※当日は入場無料となります。

学芸員美術講座
「静岡県立美術館の記憶について」
講師：新田建史（当館上席学芸員）
4月9日（土）14：00～ 講堂にて
※当日は入場無料となります。

館長美術講座
「美術館とは何である」
講師：木下直之（当館館長）
5月3日（火・祝）14：00～ 講堂にて
※当日は入場無料となります。

大展示室開館ワークショップ
「展示室の秘密を探れ！」
5月4日（水・祝）5日（木・祝）
●午前の部 10：00～11：30
●午後の部 13：00～14：30
※当日は入場無料となります。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。

開館時間 10：00～17：30（展示室への入場は17：00まで）
休館日 毎週月曜日 5月2日（月）は特別開館、5月3日（火・祝）も開館
観覧料 一般300円（団体200円）、70歳以上および大学生以下無料
※当日は入場無料となります。

※当日は入場無料となります。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。

※当日は入場無料となります。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。当日は入場券が必要です。

▲チラシ

令和4年度静岡県立美術館年報 25

兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～

主 催：静岡県立美術館、テレビ静岡、中日新聞東海
本社、陝西省文物局、陝西歴史博物館（陝西省文物交流中心）、秦始皇帝陵博物院
後 援：外務省、中国大使館、公益社団法人日本中国友好協会
協 力：一般財団法人日本中国文化交流協会、東海大学情報技術センター
協 賛：DNP大日本印刷
静岡展特別協賛：セキスイハイム東海
監 修：鶴間和幸氏（学習院大学名誉教授）
会 期：令和4年6月18日（日）～8月28日（日）
夜間開館日：8月13日（土）、14日（日）、20日（土）、21日（日）、27日（土）、28日（日）は午後7時まで開館

■概要

本展は、日中国交正常化50周年を記念し、兵馬俑に焦点をあて、古代中国を紹介する展覧会である。当館にとって、古代中国の文物を展示する企画は、「よみがえる中国歴代王朝展」の開催以来、18年ぶりとなる。展示構成は時系列に沿って3章立てになっており、秦始皇帝の兵馬俑10体含む計36体の兵馬俑や、青銅器や金、玉、陶などで作られた文物を展示し、古代中国の歴史に迫った。古代中国において西に位置した秦が統一国家を作り、その後の漢王朝は秦の統治制度を引き継ぎ、都も秦のものもの跡に築かれた。展覧会は、そうした地政学的な点にも着目し、時間軸だけでなく、空間的な広がりの中で理解することを促す内容だった。

また、原泰久によるマンガ『キングダム』を通して歴史を体験できる特設展示も行い、幅広い年代の方が楽しめる展示となった。

■関連事業

- ・特別講演会 「兵馬俑と古代中国の歴史」
日時：6月25日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：鶴間和幸氏（学習院大学名誉教授、本展監修者）
- ・館長美術講座 「兵馬俑と埴輪ひとがたの話」
日時：7月10日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：木下直之（当館館長）
- ・学芸員スライドトーク
日時：7月2日（土）、23日（土）14：00～

場所：当館講堂

- ・実技講座「切り絵ワークショップ 集めて並べて自分兵馬俑」
日時：7月30日（土）13：00～16：00
場所：当館実技室
講師：福井利佐氏（切り絵アーティスト）
- ・ちょこっと体験講座「シルクスクリーン」
日時：8月10日（水）～8月14日（日）10：00～12：00、13：00～15：30
場所：当館エントランスホール
- ・夏休み子どもワークショップ「粘土で挑戦！自分を兵馬俑にしてみよう」
日時：8月20日（土）～8月21日（日）10：00～16：30
場所：当館実技室
講師：堀園実氏（美術家）

■図録

監修：鶴間和幸
編集：鶴間和幸、東京新聞
発行：東京新聞、フジテレビジョン
執筆：鶴間和幸、鈴木舞（東京大学附属図書館助教）、杉浦仁誼（学習院大学人文科学研究科史学専攻博士後期課程）、千葉恭子（香麗志安 和漢香文化研究所主宰）、菊地大樹（蘭州大学歴史文化学院考古学及博物館学研究所教授）
執筆協力：青木俊介（学習院大学講師）
地図作成：邊見統（学習院大学講師）
イラスト作成：福島恵（日本大学文理学部史学科准教授）、荒見愛（学習院大学人文科学研究科史学専攻博士前期課程）
翻訳：唐啓山、周昀
デザイン：馬面俊之
制作：アイメックス・ファインアート
印刷：大日本印刷
仕様：A4判変形 208頁
内容：「展覧会の開催にあたって——兵馬俑の発見と発掘」鶴間和幸
図版
第Ⅰ章 統一前夜の秦——西戎から中華へ
第Ⅱ章 統一王朝の誕生——始皇帝の時代
第Ⅲ章 漢王朝の繁栄——劉邦から武帝まで
人物略伝

挿図出典一覧
出典作品リスト

■出品目録

pp.74－79を参照

秦始皇帝の中国統一 漢王朝繁栄の秘密

日中国交正常化50周年記念

兵馬俑と
古代中国
— 秦漢文明の遺産 —

2022年
6/18[土]－8/28[日]

開館時間 10:00～17:30 (最終入館17:00まで)
夜間開館 8月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日) 10:00～19:00 (最終入館18:30まで)
休 日 月曜休館、ただし7月18日(月)・祝日は開館し、翌日休館。8月15日(月)は開館。
観 覧 料 一般1,500円(1,300円)、70歳以上・大学生・高校生400円(700円)、中学生以下 無料
※1 小児の持参品は2歳以下は無料。
※2 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※3 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※4 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※5 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※6 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※7 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※8 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※9 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※10 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※11 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※12 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※13 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※14 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※15 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※16 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※17 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※18 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※19 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※20 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※21 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※22 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※23 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※24 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※25 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※26 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※27 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※28 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※29 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※30 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※31 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※32 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※33 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※34 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※35 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※36 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※37 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※38 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※39 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※40 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※41 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※42 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※43 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※44 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※45 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※46 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※47 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※48 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※49 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※50 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※51 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※52 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※53 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※54 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※55 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※56 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※57 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※58 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※59 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※60 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※61 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※62 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※63 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※64 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※65 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※66 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※67 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※68 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※69 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※70 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※71 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※72 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※73 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※74 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※75 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※76 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※77 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※78 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※79 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※80 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※81 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※82 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※83 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※84 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※85 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※86 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※87 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※88 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※89 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※90 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※91 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※92 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※93 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※94 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※95 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※96 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※97 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※98 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※99 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。
※100 4歳未満は、必ず保護者同伴で入館してください。

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる。次へ

▲チラシ

絶景を描く—江戸時代の風景表現—

主催：静岡県立美術館
会期：令和4年9月10日（土）～10月23日（日）

■概要

主に江戸時代に制作された風景を題材とする作品をテーマとし、いくつかのセクションに分けて紹介した。はじめに古くから和歌に詠まれてきた名所を題材にした作例、続いて関西の南画家たちによって試みられた各地の名勝を理想化する表現、そして関東の画家たちが中心となって追究した迫真的表現を取り上げた。展示の最後には、作品の題材となった風景が辿った歴史にも迫り、風景表現の展開を異なる観点から分析することを試みた。

■関連事業

- 館長美術講座 真を写す人—絵画と写真の話
日時：10月10日（月）14：00～15：30
場所：講堂
講師：木下直之（館長）
- 学芸員によるフロアレクチャー
日時：9月18日（日）14：00～、10月1日（土）14：00～
場所：企画展示室
- スライドトーク「絶景誕生の舞台裏」
日時：9月25日（日）14：00～15：00
場所：当館講座室
- 日本画講座
巻物に描く富士の絶景
日時：2022年10月15日（土）～2022年10月16日（日）
各日10：00～16：30
場所：当館実技室
講師：森谷明子氏（日本画家）
- わくわくアトリエ
道から生まれる風景
日時：9月18日（日）10：00～16：00
場所：当館実技室
講師：夏目幸弘氏（造形作家）

■図録

A4判横
16頁
デザイン 望月一弘（ジッカデザイン）
印刷 星光社印刷株式会社

発行 静岡県立美術館
発行日 令和4年9月10日

■出品目録

pp.80～82を参照



▲チラシ

みる誕生 鴻池朋子展

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
会期：令和4年11月3日（木・祝）～令和5年1月9日（月・祝）

■概要

1960年秋田県生まれの鴻池朋子は、アニメーション、絵画、絵本、彫刻などから手芸、おとぎ話、歌まで、あらゆる身近なメディアを用いて、旅をし、地形や季節と共に作品をつくり、一貫して自分の足元から芸術の根源的な問い直しを続けてきた。高松市美術館、静岡県立美術館、青森県立美術館の3会場をリレーする本展覧会は、前会場となる高松市美術館の展示内容を、季節、美術館の建物、立地に合わせて変化させ行われた。展示の構成要素の一つとして、ロダン館の背後に広がる裏山の小径を整備し、裏山を散策するルートを設定した。このルートは、天気の良い日に美術館から徒歩40分程度で周遊することができ、途中屋外展示された鴻池の作品を観覧することもできる。会期中観客がこのルートを歩くことにより、観客の身体と想像力で、美術館と自然との間に新たな通路が開かれていくという作家のコンセプトに基づき作られた。エントランスホールと階段の踊り場に、大型のインスタレーションが設置され、エントランスホールの壁面に、木下知威と鴻池による往復書簡が展示された。紐を伝うと目が見えない人や見えにくい人が、展示の動線をめぐるができるという作家の意図により、エントランスホールの円柱から階段、展示室全体にかけて、黒いパラコード（途中から指鎖編みの毛糸）が巡らされた。展示室では、静岡県立美術館のコレクション29点と、国立療養所菊池恵楓園（熊本県合志市）絵画クラブ「金陽会」のメンバーによる絵画97点、複数の人の手により制作された手芸「物語るテーブルランナー」が同じ空間に並べられ、観客に「みる」ことへの問いが投げかけられた。また会場には「動物の糞 模型」、動物の毛皮が点在し、展示室の中でも、美術館と自然界をつなぐ試みが行われた。

■関連事業

- ・「筆談ダンス Dance in writing」
日時：11月6日（日）10：30～12：00
場所：当館エントランスホール
出演：木下知威氏（歴史学者）、鴻池朋子氏
- ・トーク1 「美術館のケモノミチ」
日時：11月6日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂

出演：鴻池朋子氏×木下直之（当館館長） 手話通訳あり

- ・トーク2 「裏山が抜け道になる」
日時：11月20日（日）14:00～15:30
場所：当館エントランスホール
出演：鴻池朋子氏×川谷承子（当館上席学芸員）
- ・「みる誕生会」
日時：11月20日（日）10：30～12：30 作家同席
12月10日（土）10：30～12：30
12月11日（日）10：30～12：30
場所：当館実技室、エントランスホール、展示室
対象：見えない人・見えにくい人、見える人
- ・館長美術講座「日本美術糞尿譚」
日時：12月11日（日）14:00～15:30
場所：当館講堂
講師：木下直之
- ・フロアレクチャー
日時：12月18日（日）14:00～
場所：当館エントランスホール、展示室

■記録集

編集：川谷承子、植松篤
発行：静岡県立美術館
執筆：鴻池朋子、木下直之、川谷承子、植松篤、喜寿孝臣、三輪桂、中島友絵、馬場夢乃、奥村祐喜、福田千恵（高松市美術館）、静岡県立美術館ミュージーズスタッフ
発行：静岡県立美術館
印刷：株式会社 山田写真製版所
デザイン：望月一弘（Jicca Design）
仕様：A5判 64頁
内容：展示風景
出品リスト・展示マップ
ミュージーズスタッフの声
筆談ダンス
みる誕生会
論考
「鴻池朋子さんとの対談を振り返って」木下直之
「「みる誕生 鴻池朋子展」は美術館に何をもたらしたのか。」川谷承子
「「みる誕生」の展示について」植松篤

「巡回展ではなくリレー展であること」喜多孝臣
「チーム「みる誕生」の一員として」三輪桂

■出品目録

pp.83－89を参照



▲チラシ

近代の誘惑—日本画の実践

主催：静岡県立美術館

会期：令和5年2月18日（土）～3月26日（日）

■概要

当館所蔵品および寄託品による近代日本画の特集展示。幕末から、明治、大正、昭和とほぼ時代順に計58点を陳列した。所蔵品・寄託品のみによる近代日本画の企画展示は、当館において初の開催となる。

第1章 幕末から明治へ

- 1 二つの時代を生きた画家
- 2 明治後期“日本画”の成立

第2章 大正の展開

- 1 文展と再興院展
- 2 京都市立専門学校と国画創作協会

第3章 昭和の日本画

- 1 昭和初期 古典憧憬と洗練
- 2 戦中・戦後から現代へ

いわゆる旧派の作家による作品など、これまで展示機会の少なかった寄託品にも注目し、出品した。会場には、近代以降の美術界の重要な出来事や展覧会制度の変遷など、この時代の美術を理解するための用語解説を掲示、鑑賞の助けとした。図録は作成していないが、子ども向けのガイドを年齢別に2種類作成し、大人も含めて多くの方に手に取っていただいた。

■関連事業

- ・館長美術講座「画家たちは何に誘惑されたのか」

日時：3月12日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

- ・スライドトーク「日本画の実践を読み解く」

日時：3月5日（土）14：00～15：00

場所：当館講座室

講師：石上充代（当館学芸課長）

- ・学芸員によるフロアレクチャー

日時：2月23日（木・祝）、3月11日（土）、3月18日（土）各日11：00～

場所：企画展示室

■作成物

- ・小さい子どものためのガイド
- ・大きい子どものためのガイド

デザイン：mots 坂本陽一

館内印刷

■出品目録

pp.90～92を参照



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。したがって研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関及び研究者に配布した。

第38号

■判 型 29.7×21.0cm

■頁 数 110頁

■発行日 令和5年3月31日

■内 容

□カラー口絵 なし

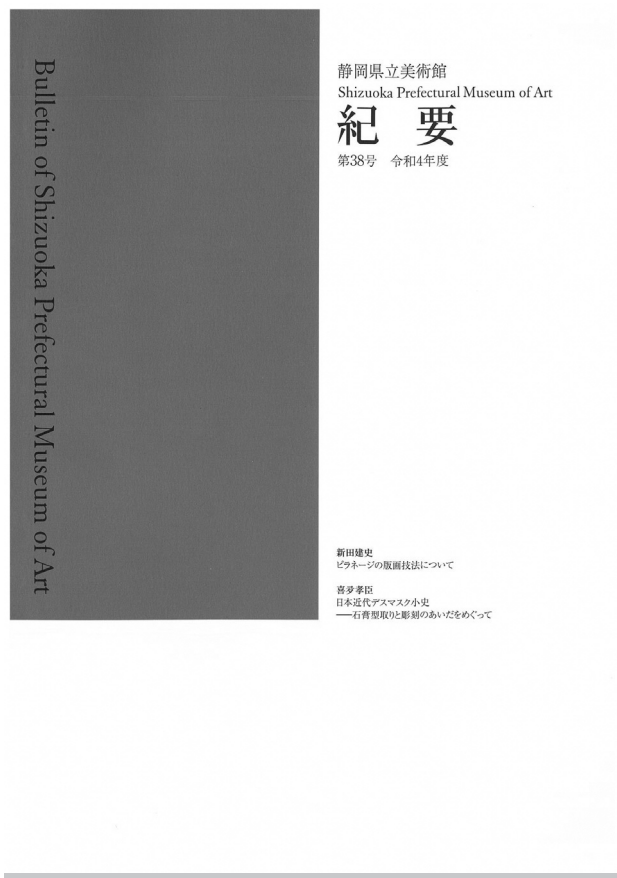
□論文

・新田建史

「ピラネージの版画技法について」

・喜多孝臣

「日本近代デスマスク小史—石膏型取りと彫刻のあいだをめぐる—」



（表紙）

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表等）を記載する。ただし、一般の新聞・ニュースレターへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説等は除いている。

■新田建史

- ・ポスター発表「エアタイトキャビネットを用いた収蔵庫内の有害ガス濃度対策」（6月、文化財保存修復学会第44回大会、山崎正彦氏(光明理化学工業株式会社)との共同発表）
- ・論文「ピラネージの版画技法について」（『静岡県立美術館紀要』第38号、令和5年3月）

■南美幸

- ・論文「資料紹介 ジョヴァンニ・ピエトロ・ピナローリ『現存する、古今ローマの最も記念すべき事柄の論文について』（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第147号、令和4年10月）

■泰井良

- ・論文「令和2年度収蔵作品 小栗哲郎《龍爪山下の群落》について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第146号、令和4年7月）

■野田麻美

- ・シンポジウム発表「美しい模写の探求—狩野探幽、栄信を中心とする江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図についての考察—」（美術史学会東支部大会「模写・模本とその新しい価値—アーカイヴから記録、鑑賞まで—」於東京藝術大学、令和4年4月3日（日））
- ・論文「江戸狩野派による雪舟『山水長巻（四季山水図）』（毛利博物館）の学習」（『雪舟と狩野派』展図録、山口県立美術館、令和4年9月）
- ・シンポジウム発表「久隅守景『蘭亭曲水図屏風』試論—江戸狩野派の蘭亭曲水図にみる遊宴図像の展開」（「頼川図と蘭亭曲水図」展シンポジウム、於静岡県立美術館、令和4年12月3日（土））

■喜多孝臣

- ・論文「命令する労働者から動員される労働者へ—プロレタリア漫画と芸術学院」（『もやもや日本近代美術—境界を揺るがす視覚イメージ』勉誠出版、令和4年12月）
- ・論文「日本近代デスマスク小史—石膏型取りと彫刻のあいだをめぐる」（『静岡県立美術館紀要』38号、令

和5年3月）

■植松篤

- ・論文「無題」（増田将大個展「Scattered and Connected」配布物、MARUEIDO JAPAN、令和4年10月）

■川谷承子

- ・「高松市美術館「みる誕生 鴻池朋子展」の開幕に寄せて」、「みる誕生 鴻池朋子展」記録集 高松編（令和4年10月22日）
- ・「みる誕生 鴻池朋子展」は美術館に何をもたらしたのか。」、「みる誕生 鴻池朋子展」記録集 静岡編（令和4年3月16日）

■貴家映子

- ・論文「『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』におけるウジェーヌ・イザベイの挿絵成立背景について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第148号、令和5年1月）

研究会

5月

中原佑介の「ナンセンス」を読む

川谷承子

本発表では、美術評論家の中原佑介（1931～2011）が1960年代～70年代に用いた「ナンセンス」という語をタイトルに含む2冊の著書『ナンセンスの美学』（現代思潮社、1962年）、『ナンセンス芸術論』（フィルムアート社、1972年）を取り上げ、この「ナンセンス」の概念についての考察を試みた。加えて中原が、1960年6月に読売新聞展評として執筆した批評文「T字型記号をならべたユニークな空間の創造 中西夏之の《韻》連作展より」を取り上げ、近年当館に新収蔵された中西夏之の「韻」に関する論考を紹介した。

中原は「ナンセンス」という概念には、「価値判断の放棄とも見えかねない、判断の外見上の消滅ということが根底にある」とし、「ナンセンス」は、「アイロニー」や「風刺」、あるいは「機知」や「ユーモア」と無関係ではないものの、前者の毒と後者の葉のどちらをも包含しながら、それを調節し、そのいずれでもないものに変質したものである、と述べてる。近代主義から脱出しようとすれば、まず「ナンセンス」ということに着目しないわけにはゆかず、その際には、個我の解体という精神的苦痛の代償、またそこにはあらゆる感情移入のルートを遮断された、冷たくひろがった世界が展開する、とも論じている。中西夏之の「韻」は、中原が「ナンセンス」を包含する作品として評価していたと考えることができる。

6月

久隅守景「蘭亭曲水図屏風」試論

野田麻美

本発表では、久隅守景の「蘭亭曲水図屏風」（静岡県立美術館、以下守景本と称す）を取り上げ、その特徴や図像的な展開について考察した。

まず、先行研究について簡単に紹介し、守景本の特徴として、左から右に図像的な展開がみられることを確認した。また、江戸狩野派の蘭亭曲水図についての研究が進んでおらず、守景本の位置付けが不明瞭である点を指摘した。そのうえで、守景本の左右隻で表現的に差異が認められることを、細部の検討によって明らかにし、守景本が守景工房によって制作されたとみなされることを述べた。

それを踏まえ、狩野探幽、安信、常信、探信守政ら江戸狩野派の蘭亭曲水図や、中国の明～清時代に描かれた蘭亭曲水図と比較をおこない、守景本が、明～清の蘭亭曲水図で流行した雅集図としての表現に影響を受けつつ、

そうした探幽の作例をはじめとする江戸狩野派の蘭亭曲水図らしい特徴を有する点を明らかにした。

最後に、守景が桃山時代の風俗画の表現を参照し、左から右に図像が展開する蘭亭曲水図の表現を用いた可能性を指摘した。

7月

永村茜山《伊豆七島真景図巻》—関連諸本の比較と制作方法について—

浦澤倫太郎

永村茜山（文政3（1820）—文久2（1862））が描いた《伊豆七島真景図巻》（以下「本作」）を取り上げた。本作は天保9（1838）年、羽倉簡堂が率いた伊豆諸島巡見隊に参加した茜山が、現地の風景や風俗などを描いたスケッチをもとに制作したものである。下書き線や修正が画面各所にあることから、草稿本と考えられている。従来、本作と同様の図を収め、国文学研究資料館、東京都立中央図書館等が所蔵する関連諸本が知られていた。図の種類や順番に異同があるものの、いずれも茜山に手になるとされる見解が提出されていた。

本発表では、これらの関連諸本を実際に調査した結果を踏まえ、本作との様式の比較を行った。まず、一見同じ風景を描いた図であっても、関連諸本はそれぞれ着彩等に異なる特徴が見受けられることを指摘した。また各作品の人物描写について、本作では人体の動きが生き生きとした線で描かれる一方、関連諸本では総じて線が硬く、人体各部の関係に不正確な部分も見られることを明らかにした。そして、これらのことから、関連諸本については、茜山本人の手による可能性は低いのではないかと推測した。

更に、大島、式根島、三宅島、八丈島の各地を、発表者が実際に取材して得た成果をもとに、本作において実景が絵画化されているかについて検討した。本作各図では、各島のランドマークとなるような特徴的地形や港湾が題材となっており、現在でも江戸時代とそれほど変わらない風景を望むことができる。これらの実景と本作を比較し、本作の一部の図では実際の地形を忠実に描写するのではなく、複数の地点からの眺望を一図に合成する、岩の形態を誇張するなど、理想化がなされた表現が見られることを明らかにした。

10月

中村岳陵《婉膩水韻》について

石上充代

標題作品は、1931（昭和6）年、第18回院展に出品さ

れ、全裸の女性が川を泳ぐ姿が話題となった二曲一隻の屏風である。川岸に脱ぎ捨てられた着物などによって、この人物が現代を生きる人であることが明らかにされているが、王朝女性を想起させる髪型やのびやかな人体描写からは、上品で優美な趣が強く感じられる。また、琳派の土坡に学んだ川岸の形や、初期ルネサンス風の小さな草花の描写は、本作が日本・西洋の古画に学んだものであることを示している。和歌主題を扱った前年の院展出品作《牡鹿啼く》において時代感覚との遊離を指摘された岳陵は、本作において、遊泳する現代女性という先鋭的な主題に挑戦した。その際、同時代の女性を描くことによる生々しさをやわらげ、高雅な画趣を保つための工夫のひとつが、古典イメージを取り込むことであったと考えられる。

本作制作の背景には、前年、岳陵が日本画洋画を問わない革新的な研究会・六潮会に参加したことがひとつの要因として挙げられる。六潮会では、「時代」の感覚と絵画の形式との融合がメンバー共通の課題として意識されていた。《婉膩水韻》は、六潮会におけるこうした問題意識に基づいた、岳陵の挑戦の成果として位置付けることができる。

10月

日本近代デスマスク小史

喜寿孝臣

デスマスクとは、死者の顔に溶かした石膏を直接かけて雌型をとり、その雌型からつくる顔面像である。西洋に起源をもつデスマスクは近代以降日本でも盛んに制作されるようになり、その一部は現在、各地の美術館、博物館に所蔵されている。こうしたデスマスクは、故人の面影をしのぶものとして、しばしば展覧会のなかで紹介されるなど、目にする機会はあるものの、これまで史的考察の対象として十分な検討はなされてきていない。

日本ではデスマスクの制作は彫刻家がしばしば請け負っていた。本発表では、現存最古と思われる1888年（明治21）藤田文蔵制作の《狩野芳崖デスマスク》から1930年代にかけて制作されたデスマスクを主な題材とし、デスマスクと彫刻家との関わりを検証した。日本におけるデスマスク普及の様態、デスマスクと彫刻教育との関わり、デスマスクと彫刻作品の境界という観点から彫刻史に近接するデスマスクの位相を検討し、日本近代デスマスク史の粗描を試みた。

12月

ピラネージの版画技法について

新田建史

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ（Giovanni Battista PIRANESI, 1720～1778）は、18世紀のローマで活躍した版画家、建築家、そして考古学者である。彼の用いた版画技法は基本的にエッチングであるが、中でも多用するに至った特徴的な版画技法として、腐蝕液と防蝕剤（グランド）の細かな使用による、明暗等の表現が挙げられる。本発表では初期作品群を幾つか辿ることで、ピラネージによるこの技法の習得過程を概観した。また、ヴェネツィアやローマの景観版画と比較することで、ピラネージがこの技法は学んだのはおそらくローマであることを指摘した。

12月

ジャン・バルボー『最も美しき古代ローマのモニュメント』におけるポンペイ遺跡の図版について

南美幸

当館所蔵品のジャン・バルボー『最も美しき古代ローマのモニュメント』（1761年）に関する発表。都市ローマの名所旧跡と古代彫刻および絵画の断片の図版とその解説を収めた本書はバルボーによる初めての本格的な選集で、ローマのコルソ通りに店を構えたフランス人出版者ブジャール・エ・グラヴィエから1761年に刊行された。本書には、当時南イタリアで発掘された古代ローマの出土品を主題とする図版が3点含まれている。これらは、ナポリ王国が出版した古代遺跡発掘品の公式図版集『ヘルクラネウム出土の展示品』を模写し、ローマで刊行した、最初期の作例であるとする考察を発表した。1757年から1792年にかけて出版された『ヘルクラネウム出土の展示品』（全8巻）は、南イタリアの古代遺跡発掘を国家事業として管理したナポリ王国による古代遺跡発掘品の公式図版集である。バルボーが当時南イタリアの古代遺跡を実際に訪れたドキュメントは今のところ見当たらないこと、バルボーによる図版と公式図版集とのそれとを比較した場合非常に類似していること、公式図版集の解説の言葉がバルボーの選集の文章に使われている点から、バルボーの図版が公式図版集の模写であることを指摘し、同時にバルボーによる優美な女性像やケンタウロス群像を主題とする図版選択は、時代の趣味や風潮をいち早く見分ける能力のあった出版者ブジャール・エ・グラヴィエである点が考えられることを述べた。

2月

ゴーギャン作《オヴィリ》について

貴家映子

ポール・ゴーギャンによる《オヴィリ》は、第一次タヒチ滞在から帰国後の1894年、パリのエルネスト・シャブレの工房で制作された炆器像である。本発表では、当館が所蔵する石膏バージョンの成立背景について考察を試みた。

炆器像の《オヴィリ》は、ゴーギャン自身が陶彫刻の画期と位置付けた重要作であるにも関わらず長らく買い手がつかず、1901年から同作を手元に置いていたギュスターヴ・ファイエが、作者の死後、1905年に正式に購入した。3点が確認されている石膏バージョンのうち、当館に収められたのはファイエの旧蔵品である。もう1点はパリの画廊が保持しているとされ、もう1点、ゴーギャンの盟友ダニエル・ド・モンフレッドの旧蔵品は、現在モリス・ドニ美術館所蔵となっている。

炆器像と石膏バージョンは、サイズや各部の比率が概ね一致するものの、後者には鑿や鋸の刃跡、虫食いの穴など、木彫のような特徴が看取される。モンフレッドは、1901年に、自身が保有していたゴーギャンの木彫作品複数の石膏バージョンを、ファイエの工房で1点ずつ制作し、それらすべてがファイエの遺族に伝えられた。このことから、《オヴィリ》石膏バージョンの成立にも、両者が関わった蓋然性が高いと考えられるが、木彫原型の存在が同時代資料のなかにさえ確認されていないため、予断を許すことはできない。いずれにせよ、ゴーギャンの彫刻作品をめぐる同時代の受容を知るうえで興味深い作例として、今後も調査を継続したい。

3月

天地耕作によるパフォーマンスについて

植松篤

浜松市（旧引佐町）を拠点に活動した、村上誠、村上渡、山本裕司の3人による美術グループ「天地耕作」（あまつちこうさく）によって行われたパフォーマンス作品について発表した。天地耕作は、当初は大がかりな野外作品の制作に注力しており、パフォーマンスの発表を行ってはいなかった。しかし、1991年、旧引佐町谷下の採石場跡地において野外作品の制作を行い、その造形作品を舞台に初のパフォーマンスを行った。以降、造形作品にはパフォーマンスが伴うようになる。造形作品と同様、彼らのパフォーマンス作品には民俗学的な領域への関心が反映され、また、パフォーマンスの際には造形作品の破壊や焼却が行われた。

最初のパフォーマンス作品は音を主眼とする即興的な内容だったが、やがて物語性を帯びようになり、順序立てられた構造を持つようになったと言える。また、パ

フォーマンスについては、天地耕作以外の者もパフォーマーとして加わり、それによって彼らのパフォーマンスの輪郭は変化することになった。そもそもパフォーマンスという表現自体が境界に位置していると考えられるが、そのような特質は天地耕作のパフォーマンスにおいてよりいっそう強められていたのではないだろうか。

3月

令和4年度の実技室の活動と教育普及活動について

奥村祐喜

ここ数年の実技室の活動状況は、コロナ禍によりかつてないほど規模が縮小し、内容も変化した。

しかし今年度になってその回数も回復しはじめ、来年度の活動はより予定が詰まっている状態を示した。また今年度の実技室の活動内容を館内とその他の教育普及活動に分けて感想と課題をあげた。

館内での活動においては、参加者からより機会の増加が望まれ、内容の維持や変更が検討課題としてあげられる。また、スタッフのレベルアップを図るため、活動終了後に話し合う時間を設ける必要性を感じた。

他の施設へ出向く出張美術講座では、不登校生徒がZoomを利用して授業を受けている様子や、生徒の意見をアプリで収集するなど、コロナ前から授業の形態が変化していた。

一方で、教員研修後のアンケートからは鑑賞教育への苦手意識や外部との関わり方、自身のスキルアップを図る手立てに困っている教員の姿があった。

それらの情報を得る「場」や「機会」がないといった、図工・美術科教員の状況に対応していく必要性を感じた。そこで実技室プログラムを基に鑑賞方法を5つのタイプに分け、授業の目的に合わせて画像データや貸出教材と共に提案することや、来年度公開のオンライン教育プログラムやデジタルアーカイブを利用すること。また、図工・美術科教員の情報交換の場の提供の案などを上げ、より連携を深められる可能性を考えた。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、美術品写真の専門家による写真撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。また必要に応じてフィルムスキャナーを用いてデジタル化も行っている。

(2) 館蔵品のデジタル画像

ポジフィルムと並行してデジタル画像も撮影している。データはI.B.Museum SaaSや館内に設置されたNASによって課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品などについても、様々な形で撮影され、個別に整理されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には、かつて市販のデータベースソフト「桐」を使用していたが、令和3年度末よりI.B.Museum SaaSへ移行した。館蔵品および寄託品の基礎データや画像とともに、図書、雑誌、逐次刊行物、美術情報資料（次項参照）のデータを管理している。「デジタルアーカイブ」(p.64)も参照のこと。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループが整理を行ってきた。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

平成26年度からは、案内状に記されている作家名や会場名、会期などの基本データを入力し、作業日毎に保管場所を作り、管理してきた。

令和3年度には、このエクセルに入力されてきたデータをI.B.Museum SaaSに移行し、「現代美術関連資料」としてウェブ上で一部の公開を始めた。

これにかえて、令和3年度後半の休館期間中より、平成25年度以前に収集された資料のデータについても入力を開始し、今年度から作業が完了したものから順に公開を始めた。

現在は、閲覧制限のあるアカウントを用いて、ボランティアが直接IBMSに入力作業を行う体制をとっている。「デジタルアーカイブ」(p.64)も参照のこと。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、企画展毎に整理収納されている。

博物館実習

開館当初から、当館は博物館実習の場と機会を提供してきた。一昨年度より、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い様々な面で従来の実習のあり方を変更したが、本年度も受入条件や実施期間および実施内容等について、その影響を勘案しながら準備を行なった。

まず実習生の受入条件については、下記のとおりとし、6大学8名の学生を受け入れた。

- (1) 県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作、アートマネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けられること。
- (4) オンラインによるリモート実習となっても差し支えないこと、またその際の不足分については大学側で補完の用意があること。

実施期間は、当初8月8日（月）から12日（金）までの5日間。

実習方法については、新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあったが、感染状況の国評価レベルに応じて、来館による対面実習でもオンラインによるリモート実習でも対応できるよう準備したが、結果として全て来館で行うことができた。

カリキュラムは、例年どおり当館の学芸課および総務課職員による講義・見学・実習を計画し、予定どおり全て実施できた。このほか、「わたしが考える美術館の未来像」というテーマで、大学における博物館学の授業や、美術館を訪れた個人的経験等にもとづき、様々な価値観が揺らぐ模索の時代に、これからあるべき美術館像についてどのように考えるのか、実習前にプレゼン資料を準備して実習中に発表とディスカッションをしてもらい、また実習後にはプレゼン資料と発表に関して受けた質問やディスカッションの内容、実習全体を通して事前の結論や見解の有無の変化の過程、内容等をレポートにまとめてもらい、提出することを課題とした。

当館での博物館実習を通して、各学生が美術館活動について理解を進め、その役割について様々な考察の機会を得たことをうかがうことができたと思われ、博物館実習の意義が確認できた。

■カリキュラム

- 1 時限目 9：30～10：25
- 2 時限目 10：30～11：25
- 3 時限目 11：30～12：25
- 4 時限目 13：30～14：25
- 5 時限目 14：30～15：25

6 時限目 15：30～16：25

8月8日（月）

- 1 時限 オリエンテーション（南）
- 2 時限 【講義】館の概要（石上）
- 3 時限 【講義】コレクションについて（南）
- 4～5 時限 【実習】施設見学（三輪、貴家）
- 6 時限 課題制作、実習ノート整理

8月9日（火）

- 1 時限 【講義】展覧会の成り立ちと実施①（南）
- 2～3 時限 【講義】保存、IPMの基礎、美術館の災害対策（新田）
- 4～5 時限 【実習】収蔵庫見学と環境整備（新田、石上、喜多、南）
- 6 時限 課題制作、実習ノート整理

8月10日（水）

- 1 時限 【講義】当館のボランティア活動（植松）
- 2 時限 【講義】当館の教育普及プログラム（奥村）
- 3 時限 【実習】自由見学
- 4～5 時限 【実習】作品の取り扱い（野田、喜多、貴家）
- 6 時限 課題制作、実習ノート整理

8月11日（木・祝）

- 1～3 時限 【実習】課題発表（南）
- 4 時限 【実習】教育普及プログラム体験、実習ノート整理
- 5 時限 【講義】展覧会の成り立ちと実施（野田）
- 6 時限 課題制作、実習ノート整理

8月12日（金）

- 1 時限 【講義】当館のデジタルアーカイブ（浦澤）
- 2 時限 【講義】美術館の広報について（川谷）
- 3 時限 【実習】自由見学
- 4 時限 【実習】教育普及プログラム体験、実習ノート整理
- 5 時限 質疑応答
- 6 時限 課題制作、実習ノート整理

※（ ）内は当館担当者名

ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務めて、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より実施してきた。ボランティア再募集の度に少しずつメンバーが入れ替わり、令和5年3月31日時点で12名が在籍している。

ツアーを行うほかに、2カ月に一度、定例会と勉強会を開催し、ナビゲーション技術の向上を目指している。

令和4年度はコロナウイルス感染症対策のため、年度当初からツアーを取りやめとなったが、9月8日に出された「日本博物館協会の博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に従って、距離の確保と正しいマスクの着用、大声を出しての会話の抑制に注意しながら、収蔵品展「光—The Light」より、ツアーを再開し令和4年度内に計6回開催した。定例会と勉強会は4月、5月、11月に3回行ったが、6月～10月の間はコロナウイルス感染者数増加に伴い中止した。

■「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

■ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

■ギャラリーツアー登録ボランティア

12名（令和5年3月31日現在）

■実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日（13:00～、14:00～）

毎月第3土曜日（13:00～、14:00～）

※各回おおそ30分程度で行い3作品程度を取り上げる。

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる際も休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日の午後のボランティア内覧会にて収蔵品展について研修を行う。ギャラリーツアー班個別では、2カ月に一回程度、定例会と勉強会を実施している。定例会では、対話型鑑賞についての学芸員による研修や今後の活動計画について話し合いを行う。勉強会では、ツアーの模擬練習などを行っている。

■ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボランティア同士でディスカッションや予行演習を行う（勉強会）。
- ③本番ツアー。ナビゲーター役1名の他、補助に1名つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日誌に記入。

■令和4年度 ギャラリーツアー実施実績

4月～1月までは、コロナウイルス感染症対策のため、実施せず。

2月、3月に開催された収蔵品展「光—The Light」で計6回実施。

2月18日	13時～13時30分	4名
	14時～14時30分	4名
3月4日	13時～13時30分	15名
	14時～14時30分	12名
3月18日	13時～13時30分	3名
	14時～14時30分	7名

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験講座

平成22年度に試験的に行ったイベントを平成23年度から本格実施し、来館した方が気軽に参加できるように、エントランスまたはレストラン前の通路にて申し込み不要・参加費無料・約15分の創作体験を行っている。

土曜日と日曜日を含む5日間を基本とし、本年度は館内で2回実施した。8月は所蔵作品の展覧会と絡め、また、次回展覧会のチラシや実技室の各講座の募集チラシを配布することで、実技室の活動や展覧会に興味をもっていただく工夫をした。11月は、「ロダンウィーク」にあわせてロダンの「考える人」をお湯で柔らかくなるプラスチック粘土で制作する体験を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、混雑した際には親子札で呼び出す形とし密を避けた。また、アクリル板のパーテーションを机に設置し、制作後は机・椅子等の消毒を行った。

実施日	内 容	人数
8月10～14日	シルクスクリーン	574
11月3～6日	ミニ考える人づくり	334
年間11日間実施		908



■実技講座

実技講座は、①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深める、ということを目指し、できるだけ展覧会に関連づけて実施している。

今年度は3回実施した。7月は静岡県出身の切り絵作家福井利佐氏を講師に招き、「兵馬俑と古代中国」展関連講座として、自分の好きなものを切り絵で並べていく制

作を行った。10月は静岡県在住の日本画家の森谷明子氏を講師に招き、開催中の「絶景を描く—江戸時代の風景表現—」展と絡めた講座を実施した。参加者は、展覧会鑑賞と学芸員による解説を受けた後、巻物に思い思いの富士を描き、金箔貼りや砂子蒔きを用いる本格的な日本画制作を行った。12月は「みる誕生 鴻池朋子展」に関連させて、目の見えない人、見にくい人と健常者とが組んで鑑賞する「みる誕生会」を実施した。

コロナ対策としては、参加者を12名に限定し、道具等の共有を無くすなどの工夫で対応した。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
7月30日 7月31日	切り絵ワークショップ 集めて並べて自分兵馬俑 ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	12
10月15日 10月16日	巻物に描く富士の絶景 ＜森谷明子氏（日本画家）＞	12
12月10日 12月11日	みる誕生会 ＜馬場夢乃（当館エデュケーショナルスタッフ）＞	8
年間6日間実施		32



■創作週間

創作週間は、中学生以上の個人を対象に、実技室の設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動に取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。

5月と6月には、「創作週間スペシャル」を実施した。
5月はデッサンの基礎として道具の使い方や姿勢などの習得を目的としたワークショップを講師に野呂美樹氏を迎えて実施した。6月は6月の風景を題材としてアクアチントの技法の習得を目指し、講師に柳本一英氏を招き実施した。

開室日数：58日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、野呂美樹氏（アトリエかもめ講師）

利用者数：392名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描きながら鑑賞する機会として、創作週間を行う週の2日間、金・土曜日に実施している。

参加者は継続して参加されている方が多い中、今年度は後半になるにつれて新たな参加者からの申し込みや、個人的に参加する学生たち、親子で参加する姿が見受けられた。

実施日数：22日

実施時間：10：00～16：30

参加者数：339名



■その他

単年度で実施したワークショップとして、5月4日、5日に「大展示室展」関連講座「展示室の秘密を探れ！」を、10月22日、23日にエスパルスドリームプラザからの依頼で「エスパルスドリームプラザちょこっと銅版画」を実施した。

「展示室の秘密を探れ！」では、普段はできない作品レプリカの展示体験や、展示ケースに参加者が入っての記念撮影など体験型のワークショップを行った。

また、「ちょこっと銅版画」では、エスパルスドリームプラザからの依頼で、インクを使用しない銅版画のプレスを行い、その後で色塗りを行なった。

実施日	内 容	人数
5月4～5日	展示室の秘密を探れ！	49
10月22～23日	エスパルスドリームプラザちょこっと銅版画	332



実技・体験

■ねんど開放日

ねんど開放日は、実技室内で1t近い水粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらう平成13年度から続くプログラムである。友の会から寄贈を受けた土練機を活用して実施している。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、自由な創作を楽しんでもらうことに重点をおいている。

一昨年からホームページでの参加受付を行い、応募多数の場合は抽選制で結果をメールで返送する形をとっているため、当日の混雑は発生しない。また、SNSやホームページで予約開始・終了時間も事前通達し、県のふじのくに電子申請サービスを活用した結果、リピーターの増加傾向が見られる。応募件数も飛躍的に上がり、1日最大16組の参加数に対し、90組を超える応募件数になることもあった。参加者は親子で参加しているというケースが多い。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実技室を9つのエリアに仕切り、中央を粘土置き場、創作場所を粘土置き場周りの8区画とすることで、参加者が1か所に集中しないようにした。

1区画に1組最大5名、1回の参加者数を最大40名とした。また1日2回(午前1回、午後1回)の実施を継続し、粘土で汚れた手足を洗うための移動の動線を一方通行に制限する、集団で洗っていたタライをその組ごと専用のタライに分けるなどの対策を講じ、インストラクター、助手、スタッフの協力の元、安全対策を徹底した。

実施に関しては前週に国から発表される評価レベルによって開催の可否を決めていった結果、今年度計画していた7回すべてが実施となった。

実施日数：7日(1日2回で14回実施)

実施時間：午前の部 10:00~11:45

午後の部 13:00~14:45

インストラクター：増田洋子氏(美術作家)

場 所：当館実技室

参加者数：341名



■えのぐ開放日

えのぐ開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう平成17年度から始まったプログラムである。基本は屋外で行い、高温・雨天時は室内で行うが、工事の関係から今年度はすべて室内で行った。

ねんど開放日と同様、県のふじのくに電子申請サービスを活用して応募した結果、応募件数が飛躍的に上り、100組を超える応募もあった。

広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、1組最大5名の8組の定員を設けた。1日2回(午前1回、午後1回)の実施とし、4日間すべて実施することができた。

実施日数：4日(1日2回で8回実施)

実施時間(予定)：午前の部 10:30~12:00

午後の部 13:45~15:15

インストラクター：増田洋子氏(美術作家)

場 所：当館実技室

参加者数：186名

■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは、平成26年度から始まった「いろんな素材をかたちに！」をテーマとした大人から小学生までを対象としたプログラムである。折々の企画展に関連する内容とし、企画展とプログラムのつながりを理解してもらうために展覧会観覧を盛り込んだ構成とした。

9月には「絶景を描く」関連講座として、横長の絵巻物の中に、私だけの空想の世界の「道」から生まれる風景をカラー筆ペン(水彩毛筆)で表現した「道から生まれる風景」を行った。

11月の「みる誕生 鴻池朋子展」関連講座では、健常者が誘導して作品に至るまでの道を移動しながら目の見

えない人・見にくい人と共に本館内と裏山に設置した作品を触ったり、会話を通して鑑賞したりする「みる誕生会」を行った。

3月の「近代の誘惑」関連講座では、人物、動物、富士山、春の花、小鳥、蝶々などのひな型を組み合わせ「春らしい」と感じる情景をつくり、それを元絵に、墨や水干絵具といった日本画の画材を使って作品制作を仕上げた。

新型コロナウイルス感染症対策として、1人につき1台の作業台に限定し（小学3年生以下は保護者同席可）、制作道具の共有を無くすとともに、鑑賞時間も密にならないよう工夫するなど、安心して体験してもらえるよう努めた。



実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
9月18日	道から生まれる風景 ＜夏目幸弘氏（造形作家）＞	10
11月20日	みる誕生会 ＜鴻池朋子氏（造形作家）＞	5
3月26日	日本画で描く春の情景 ＜中村美穂子氏（日本画家）＞	13
年間3日（計3回実施）		28

■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、児童生徒が美術館に通い、美術・美術館への親しみや、作品や作家との関わりの中で、創造・鑑賞の喜びを感じてもらうことを目的としたプログラムである。

今回は「兵馬俑と古代中国」関連講座として、展覧会を鑑賞後、自分自身を兵馬俑に見立て、テラコッタ粘土による頭部の制作に挑戦した「粘土で挑戦！自分を兵馬俑にしてみよう！」を行った。

粘土で作られた兵馬俑と同じように、形成後は作品の焼成までを行い、後日参加者へそれぞれが制作した作品を焼成前の写真と共に郵送した。

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
8月20日 21日	粘土で挑戦！自分を兵馬俑にしてみよう ＜堀園実氏（美術家）＞	18

学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園・こども園の園児、学校の児童、生徒等を対象とした教育普及プログラムである。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いした。

■ねんど教室

ねんど教室は、幼児、児童、生徒を対象に、陶芸用粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。

今年度も多数の応募があり、4月に抽選を行い、新型コロナウイルス感染症による前の週の金曜日に県から発表される国評価レベルが2を超えた時には中止とする体制で行った。感染が確認された1施設の辞退以外は実施することができた。

また、実施の際は新型コロナウイルス感染症対策として、

- ・1日1回1団体（午前のみ）に限定する。
- ・ねんど回収時に密にならないようにし、雑巾がけは一方方向で迎え合わせにならないようにする。
- ・定員は昨年度と同様35名
- ・道具の共有なし
- ・接触を伴うプログラムは実施しない

などの対策を講じて実施した。美術館とこのプログラムのつながりを持たせるため、ログン館や企画展へ向かい、鑑賞して終了とした。

月日	団体名 学年	人数
5月11日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	30
5月12日	こまどり幼稚園	18
6月29日	小百合キンダーホーム	30
6月30日	十七夜山しぶかわほいくえん	19
7月15日	静岡市立長田東小学校	24
9月28日	静岡市立千代田小学校	31
9月29日	幼保連携型認定こども園蛸ヶ丘保育園	22
10月19日	学校法人かえで学園かえで幼稚園	39
10月20日	八幡聖母幼稚園	27
11月30日	こぐま保育園	23
12月1日	静岡市立南薬科小学校	24
2月15日	静岡市立蒲原西小学校	26
2月16日	静岡市立安倍口小学校	9
年間日数	合計人数	322
13日	団体数	13



■えのぐ教室

えのぐ教室は、幼稚園・保育園・こども園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。ねんど教室と同様、4月に抽選を行い、新型コロナウイルス感染症による前の週の金曜日に県から発表される国評価レベルが2を超えた時には中止とする体制で行った。感染が確認された1施設の辞退以外は実施することができた。

園児に対しては、筆を使って点から線、面へと発展させて行い、手にえのぐを塗ってスタンプして描くなど、学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げ、どの年齢に対しても全身を使い、楽しく描くことを重視しているプログラムである。今年度も実技室内で行い、描く支持体であるビニールシートの表裏を使って描く中で、その裏に返す時に高く上げて裏から自分たちが描いた絵を鑑賞する時間を設けたり、参加者が描ける高さに低く吊り下げたビニールシートに別の参加者が裏側に立って人物を描くプログラムも取り入れたりするなど、活動に変化を与えることで参加者から好評を得られる活動となった。

月日	団体名 学年	人数
6月1日	静岡市立田町こども園	22
6月1日	矢部保育園	21
6月2日	うど東保育園	28
6月2日	うど東保育園	26
6月3日	美和保育園	17
6月3日	なでしこ保育園	10
7月6日	静岡市立麻機小学校	9
7月7日	静岡聖母幼稚園	20
7月7日	静岡聖母幼稚園	20
7月8日	若竹幼稚園	31
7月8日	若竹幼稚園	16

9月7日	静岡市立西奈小学校	17
9月7日	静岡南幼稚園	27
9月8日	江尻幼稚園	33
9月8日	静岡南幼稚園	23
9月9日	風の子保育園	21
9月9日	ゆりかご保育園	14
10月5日	登呂こども園	32
10月5日	水落保育園	22
10月6日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	25
10月6日	静岡市立賤機中学校特別支援学級	4
10月7日	こすもすこども園	20
10月7日	袖師保育園	16
年間日数	合計人数	474
12日	団体数	23



■音のかけらワークショップ

当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、プログラム実施に実技室以外での場所と準備時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。

今年度の申し込みがなかったため実施はなかった。

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラムである。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後は、別室で実技室担当者が作品解説をしながら答え合わせをしていった。

答え合わせ時の解説では、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。

月日	団体名・学年	人数
5月2日	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	3
7月28日	富士市立田子浦中学校	23
11月15日	聖隷クリストファー中学校	17
11月16日	静岡市立東源台小学校	20
11月19日	伊豆市立修善寺中学校	23
12月2日	静岡市立富士見小学校	79
2月17日	静岡市立城内中学校	17
年間日数	合計人数	175
5日	団体数	7



■美術館の秘密をさぐれ！

美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、当館スタッフがナビゲーターとなり、館内を案内するプログラムである。普段は見ることで、美術館が多くの人によって支えられていることを発見できる内容になっている。

今年度は2校の参加申し込みがあり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応策を踏まえた上で実施した。

月日	団体名・学年	人数
6月4日	静岡理工科大学	18
11月17日	聖隷クリストファー中学校	17
年間日数	合計人数	35
2	団体数	2



■ロダン館スケッチ・デッサン・クロッキー

小・中・高等学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキーのプログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験につなげてもらうことを目指している。

月日	団体名・学年	人数
6月11日	静岡市立清水第七中学校	9
8月23日	静岡県立浜松江之島高等学校	26
11月19日	伊豆市立修善寺中学校	20
11月23日	静岡市立清水第七中学校	12
3月21日	静岡県立沼津西高等学校	20
年間日数	合計人数	87
5日	団体数	5



■ボランティアスタッフとの鑑賞

園や学校の団体観覧時に、当館ボランティア（学校グループ）が鑑賞のお手伝いをするプログラム。

「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさがれ」等のプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムを併用実施することも多い。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため年度当初は中止となったが、感染状況を鑑み「みる誕生 鴻池朋子展」より実施可として、ボランティアの研修を行った。

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れている。また、当館での夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めている。

今年度は学校の職員を集めた夏季実技研修会や県総合教育センター主催の研修会への協力、校内授業研後に鑑賞教育についての研修会も行った。

月日	団体名	人数
8月3日	駿東地区教育協会図工美術教育研究部	19
8月19日	令和4年度 図画工作科・美術科授業づくり研修	17
11月30日	富士市立丘小学校	20
12月9日	静岡県立浜松湖南高等学校	1
年間日数	合計人数	57
4日	団体数	4



■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介や、レプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行った。ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行い、その中で鑑賞マナーの説明やレプリカを通して作品の見どころ解説なども行った。

月日	団体名	人数
8月3日	御殿場市立朝日小学校	19
10月11日	富士宮市立富士根南小学校	185
11月17日	御前崎市浜岡北小学校	25
11月22日	富士市立丘小学校	28
11月30日	富士市立丘小学校	28
年間日数	合計人数	285
5日	団体数	5



■粘土・レプリカ・当館資料の貸し出し、授業協力

当館のねんど教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用等で難しいが、自校で同様の造形遊び体験を实践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、当館の収蔵品を用いたレプリカ等の教材貸出、当館で作成したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説したVTRなどの資料貸出、鑑賞授業の内容相談などの協力を行っている。

貸出日	粘土貸出 団体名	人数
4月8日	日吉子ども会	220
4月20日	静岡市立東豊田小学校	124
5月22日	藤枝市立瀬戸谷小学校	13
5月17日	静岡県立静岡高等学校	100
6月17日	かわはらいずみ幼稚園	2
6月12日	島田市立六合東小学校	300
6月12日	掛川市立大淵小学校	27
6月17日	藤枝市立西益津小学校	13
7月15日	静岡県立静岡高等学校	30
9月4日	藤枝特別支援学校	59
9月4日	函南町立函南中学校	30
9月9日	静岡大学附属特別支援学校	6
9月12日	静岡県立沼津視覚特別支援学校	11
10月28日	エンゼル幼稚園	260
合計人数		1218
団体数		14

貸出日	レプリカ等貸出 団体名	人数
4月10日	沼津市立第三中学校	186
6月18日	静岡聖光学院中学校	82
7月31日	駿東地区教育協会図工美術教育研究部	17

11月3日	裾野市立深良中学校	83
11月17日	御前崎市立浜岡北小学校	23
11月19日	富士市立丘小学校	112
11月23日	静岡市立東源台小学校	102
1月22日	伊東市立西小学校	30
2月12日	静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校	10
3月23日	清水町地域交流センター	20
合計人数		665
団体数		10



■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることも出てきたので、学校現場への認知が浸透して利用数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、利用が減少している。

貸出日	団体名	人数
7月31日	駿東地区教育協会図工美術教育研究部	17
11月7日	静岡市立東源台小学校	30
11月19日	富士市立丘小学校	112
1月22日	伊東市立西小学校	30
2月12日	三島市立西小学校	78
2月14日	静岡大学教育学部附属浜松小学校	70

合計人数	337
団体数	6



講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会等を開催した。

■特別講演会・シンポジウム等

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
6月25日	兵馬俑と古代中国 特別講演会「兵馬俑と古代中国の歴史」	鶴間和幸氏（学習院大学名誉教授、 展覧会監修者）	講堂	106 人
11月6日	鴻池朋子展 トーク1「美術館のケモノミチ」	鴻池朋子氏（美術家、展覧会出品者）、 木下直之（当館館長）	講堂	83 人
11月20日	鴻池朋子展 トーク2「裏山が抜け道になる」	鴻池朋子氏、川谷承子（当館上席学 芸員）	エントランスホール	68 人
12月3日	輞川図と蘭亭曲水図展 記念シンポジウム 「輞川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」	佐藤康宏氏（東京大学名誉教授）、 板倉聖哲氏（東京大学教授）、呉孟 晋氏（京都大学准教授）、塚本鷹充 氏（東京大学教授）、植松瑞希氏 （東京国立博物館研究員）、横尾拓真 氏（名古屋市博物館学芸員）、野田 麻美（当館上席学芸員）	講堂	113 人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館館長、学芸員、外部講師による講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月2日	大展示室展 美術講座「大展示室展関連ボランティア講座」	新田建史（当館上席学芸員）	講堂	36 人
4月9日	大展示室展 美術講座「静岡県立美術館の記憶について」	新田建史	講堂	36 人
5月3日	大展示室展 館長美術講座「美術館とは壁である」	木下直之（当館館長）	講堂	77 人
7月2日	兵馬俑と古代中国 スライドトーク（友の会向け）	植松篤（当館上席学芸員）	講堂	30 人
7月2日	兵馬俑と古代中国 スライドトーク	植松篤	講堂	68 人
7月10日	兵馬俑と古代中国 館長美術講座「兵馬俑と埴輪と人形」	木下直之	講堂	110 人
7月23日	兵馬俑と古代中国 スライドトーク	植松篤	講堂	101 人
9月25日	絶景を描く展 スライドトーク	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	講座室	20 人
10月10日	絶景を描く展 館長美術講座「真を写す人」	木下直之	講堂	56 人
11月6日	絶景考展美術講座 「農村を描く印象派画家-カミーユ・ピサロとポントワーズ」	深尾茅奈美氏（静岡市美術館学芸員）	講座室	18 人
12月11日	鴻池朋子展 館長美術講座「日本美術糞尿譚」	木下直之	講堂	36 人
3月5日	近代の誘惑展 スライドトーク「日本画の実践を読み解く」	石上充代（当館学芸課長）	講座室	32 人
3月12日	近代の誘惑展 館長美術講座「画家たちは何に誘惑されたのか」	木下直之	講堂	62 人

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

■フロア・レクチャー

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月3日	大展示室展（友の会向け）	新田建史（当館上席学芸員）	展示室	15 人
4月3日	大展示室展	新田建史	展示室	35 人
4月11日	大展示室展（静岡県博物館協会向け）	新田建史	展示室	7 人
4月13日	大展示室展（静岡県博物館協会向け）	新田建史	展示室	4 人
4月29日	大展示室展	新田建史	展示室	40 人
6月12日	新収蔵品展	野田麻美（当館上席学芸員）、南美幸（当館上席学芸員）、川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	14 人
9月3日	収蔵品展 絶景考Ⅰ	貴家映子（当館主任学芸員）	展示室	8 人
9月18日	企画展 絶景を描く	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	20 人
9月18日	企画展 絶景を描く（友の会向け）	浦澤倫太郎	展示室	6 人
10月1日	企画展 絶景を描く	浦澤倫太郎	展示室	20 人
10月22日	収蔵品展 絶景考Ⅱ	貴家映子	展示室	15 人
11月23日	移動美術展	南美幸	展示室	40 人
11月23日	移動美術展	南美幸	展示室	20 人
11月26日	移動美術展	南美幸	展示室	23 人
11月26日	移動美術展	南美幸	展示室	22 人
12月8日	企画展 鴻池朋子展（友の会向け）	川谷承子	エントランスホール、展示室	6 人
12月17日	収蔵品展 輞川図と蘭亭曲水図	野田麻美	展示室	5 人
12月17日	企画展 鴻池朋子展	川谷承子	エントランスホール、展示室	20 人
2月26日	収蔵品展 光	川谷承子	展示室	6 人
2月23日	企画展 近代の誘惑	石上充代（当館学芸課長）	展示室	35 人
2月23日	企画展 近代の誘惑（友の会向け）	石上充代	展示室	9 人
3月11日	企画展 近代の誘惑	石上充代	展示室	38 人
3月18日	企画展 近代の誘惑	石上充代	展示室	25 人
3月26日	収蔵品展 光	川谷承子	展示室	12 人

対外活動

■講座等

南美幸：「美術史（西洋）Ⅰ講義」

【静岡文化芸術大学】6月30日（木）

川谷承子：「歴史から読み解くしずおか学B」

【静岡県立大学】6月22日（水）

展覧会解説「『みる誕生 鴻池朋子展』を学芸員と一緒に巡ってみよう」

【ムセイオン静岡】12月21日（水）

「対話型鑑賞に挑戦」

【静岡市東部生涯学習センター】3月5日（日）

野田麻美：「美しい模写の探求―狩野探幽、栄信を中心とする江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図についての考察―」（シンポジウム「模写・模本とその新しい価値―アーカイヴから記録、鑑賞まで―」（美術史学会東支部大会）

【東京藝術大学】4月3日（日）

「江戸狩野派を知ると浮世絵はもっと楽しくなる」

【中山道広重美術館】4月9日（土）

植松篤：「地方の美術館の現状について」（思想と芸術B）

【静岡大学】12月14日（水）

「静岡のアートシーンと天地耕作展の立案について」（博物館学概論）

【静岡文化芸術大学】1月20日（金）

貴家映子：「近代フランスの風景画から考える『絶景』」（国際関係学部特別講座）

【静岡県立大学】11月24日（木）

「『地獄の門』VRオンライン鑑賞教育プログラム」試行

【清水第七中学校】1月14日（土）（美術部）、1月27日（金）

浦澤倫太郎：講義「小杉文庫について」【静岡大学講義】

「地域の人と文字文化」全2回）、5月23日（月）、30日（月）

講演「江戸絵画で巡る静岡の絶景」（静岡県富士山世界遺産センター主催 世界遺産登録10周年記念特別企画「富士山 芸術の源泉」）【東京美術倶楽部】2月4日（土）

オンライン鑑賞教育プログラム「『地獄の

門』VR」試行【静岡市立清水第七中学校】

2月14日（土）（美術部）、1月27日（金）

喜多孝臣：「洋画家としての津田青楓―図案から洋画断筆まで」

【笛吹市青楓美術館】11月12日（土）

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会の書面及びオンライン開催 5月19日（木）～29日（日）

台風15号で被災した静岡平和資料センターの資料レスキューに予算を執行するため、臨時の役員会及び総会を書面及びオンラインで開催 11月14日（月）～28日（月）

2 研修会・講習会の実施

「LED照明の現在2022」

日時：12月20日（火） 13：30-17：00

会場：静岡県立美術館県民ギャラリー

内容：近年、ミュージアム照明の主流がLEDに置き換わりつつある。しかし、ミュージアム関係者にとって、開発や進歩が目まぐるしいLED照明の特性や各メーカーの設計思想など、その全体像を把握するのは困難である。今回の講習会では、ミュージアム照明の専門家による講座を通じて光の考え方、LED照明の基礎的な知識を学び、その後、複数メーカーの実機を使用しながらその特質を比較した。

第1部：講座「LED照明の現在」、デモ「照明シューティングの実際」講師：藤原工氏（株式会社灯工舎代表取締役）

第2部：協力業者によるLED照明の比較

協力企業：シーシーエス株式会社、パナソニック株式会社エレクトリックワークス社、ミネベアミツミ株式会社、株式会社モデュレックス、株式会社YAMAGIWA（五十音順）

「博物館の防災を考える歴史資料編」

日時：3月19日（日） 13：30-16：00

会場：静岡市歴史博物館講座室

内容：令和4年9月、台風15号の接近にともなう大雨で、静岡市清水区の大規模な断水など県内の広い範囲で大規模な水害が発生し、貴重な文化財も被災した。静岡県は「東海地震」説に基づい

て様々な災害対策を講じてきたが、これら被災資料の救出に当たっておられるのは、個々の団体や有志の方であり、組織的な支援は必ずしも行き届いていなかった。全国に目を向けてみると、被災した歴史資料のレスキューや、予防などの活動を行う「史料ネット」という組織がある。阪神・淡路大震災を契機として近畿地方で結成された「歴史資料ネットワーク」をはじめ、以後各地で組織が立ち上がり、東日本大震災や近年頻発する豪雨災害などにおいて被災した資料のレスキューや修復作業などにおいて相互協力などしている。そしてひるがえってみれば、当県内は具体的な救援活動や、その前提となる資料の悉皆調査を行うような体制が不十分である。本講習会は将来的な「しずおか史料ネット」の設立に向けて、他地域の史料ネットの設立の経緯や活動の実際を学ぶ機会となることを目指した。

なお、本講習会は静岡市歴史博物館と共催した。
「報告 令和4年9月水害による水損資料のレスキュー活動」田中文雄氏（静岡平和資料センターセンター長）

「静岡県文化財等救済ネットワークの現在」
河合 修氏（静岡県スポーツ・文化観光部文化財課課長代理）

「史料ネットの30年―災害時の歴史文化資料 保全活動の全国的展開―」奥村 弘氏（歴史資料ネットワーク代表委員、神戸大学理事・副学長）

3 地域セミナーの開催

- ・熱海市立澤田政廣記念美術館
「熱海市立澤田政廣記念美術館特別企画 夜間延長開館」
- ・公益財団法人駿府博物館「短期歴史講座 静岡「その時」」
- ・公益財団法人佐野美術館「古邨を飾るミニ屏風をつくりましょう」

4 静岡県博物館協会研究紀要 第46号の刊行

5 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、リニューアル、会員用動画作成機材貸出

6 防災事業の実施

- ・加盟館園目録等データバックアップ事業：2015（平成27）年3月から継続
- ・災害時連絡網稼働
- ・台風15号で被災した静岡平和資料センターの資料レ

スキューのため、緊急に予算を執行

7 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

8 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合 3回開催

8月3日（水）、12月20日（火）、3月19日（日）

■その他

石上充代：ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員

ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員

喜多孝臣：実践女子大学非常勤講師

奥村祐喜：静岡県幼少年女性防火委員会防火ポスター審査会

ロダン館展示・イベント

■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開催した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的に「ロダンウィーク」を、例年事業として定着させることとし、「ロダンウィーク2022」を開催した。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、コンサートや講座の座席数を減らす、検温・消毒・マスク着用の徹底といった安全対策を講じたうえで開催した。

■概要

日 時 令和4年11月3日（木・祝）～11月6日（日）
場 所 静岡県立美術館内

■実施イベント

1. 丘の上のロダンマルシェ

日 時 11月3日（木・祝）10：00～16：00
場 所 正面広場ほか
出店数：草薙マルシェ実行委員会によるフランス
風グルメ、雑貨市 16店舗
アートパフォーマンス 11名
参加者：5,000人

2. 友の会「友の会ひろば」

常葉大学の学生による消しゴムハンコ・オーナメント制作指導
日 時 11月3日（木・祝）10：00～15：00
場 所 正面玄関前
参加者：消しゴムはんこ 58人
オーナメント 47人

3. 友の会「作家のワークショップ」

作家のワークショップと販売、作品販売
日 時 11月3日（木・祝）10：00～15：00
場 所 正面玄関前
参加者：延べ人数 251人

4. 「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート

日 時 11月3日（木・祝）15：00～
場 所 ロダン館
出演者：室井悠李（ピアノ、第25回「ロダン賞」受賞者）
演奏曲：F.ショパン：ノクターン第7番op.27-1
C.ドビュッシー：ベルガマスク組曲より

喜びの島 ほか

協 力：静岡音楽館AOI

指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

5. 絶景クイズラリー

収藏品展「絶景考Ⅱ」に関連したクイズラリー
日 時 11月3日（木・祝）
場 所 第七展示室（回答用紙配布は収藏品展入
口・ロダンマルシェ会場）
参加者：320人
景 品：オリジナル缶バッジなど

6. コン서트「リコーダーとサクソフォンでめぐるフランス300年の旅」

日 時 11月5日（土）14：00～
場 所 ロダン館
出演者：後藤友香理（ピアノ）
長瀬正典（サクソフォン）
長谷川慶岳（作曲）
演奏曲：クーラン：恋のうぐいす
ビゼー：「アルルの女」より間奏曲
ドビュッシー：ラプソディ
長谷川慶岳：ピアノとサクソフォンのた
めの新曲 ほか

協 力：静岡大学

7. 収藏品展「絶景考Ⅱ」関連講座「農村を描く印象派画家—カミーユ・ピサロとポントワーズ」

日 時 11月6日（日）11：00～
場 所 講座室
講 師 深尾茅奈美氏（静岡市美術館学芸員）
参加者：18人



ロダンウィークチラシ▲

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の昭和60年から募集と研修を始め、昭和61年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。平成21年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、平成22年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により活動を行ってきた。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、年度当初、学校グループ、ギャラリートツアーグループ、タッチツアーグループの活動は休止となっていた。しかし、日本博物館協会による9月の予防のガイドライン変更を受け、学校グループ、ギャラリートツアーグループについては、感染対策を行いつつ、実施可能とした。実際の活動については、学校グループは申込がなかったため活動はなく、ギャラリートツアーグループは研修の都合から2月に再開した。

また、昨年度はボランティアの任期3年目にあたっていたが、募集を実施せず、希望者の任期を1年延長し、引き続き活動いただくという対応をとった経緯がある。任期4年目にあたる本年度は、ボランティアの募集を行った。昨今の状況を鑑み、ボランティア体制を更新して、任期を1年とし、更新可能なものとした。加えて、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若者層にも参加しやすいものとした。

選考と研修の結果、令和5年度4月より125名の方をボランティアとして登録し、活動していただくこととなった。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

・活動内容、グループ

(1) 全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催し

ている。これは原則として各会期の最初の休館日に、担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。

(2) 各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。図書閲覧室グループのみ、他グループとの兼任を可としている。

①図書閲覧室グループ 33名

図書閲覧室の受付や図書の整理が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを閲覧室内に設置している。

②学校グループ 17名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

※10月に活動の再開を可能としたが、学校団体からの申込がなく、活動がなかった。

③実技室グループ 12名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップやねんど開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

④ギャラリートツアーグループ 12名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーなど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

※2月より活動を再開した。

⑤タッチツアーグループ 7名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

⑥資料整理グループ 26名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の

美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、クラウド型のデータベースサービスI.B.MUSEUM SaaSへデータを入力し、貴重なアーカイブを形成している。このアーカイブは、学芸員の研究活動に利用されているとともに、当館ウェブサイトのデジタルアーカイブページにおいても一般公開されている。

⑦地域連携・草薙ツアーグループ 6名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。「近代の誘惑」展会中にコロナ禍以降はじめて呈茶サービス「かご茶会」を行った。情報コーナーを活用し、展覧会出品作品にちなんだ創作和菓子と杉山彦三郎記念茶畑のお茶により、2日間で100名をもてなした。

・規約、ルール

ボランティアは、館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。ボランティア体制更新のため、これらも本年度更新した。ボランティアには、報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

グループごとに活動頻度を定めて募集しており、グループによって頻度や時間は異なる。

・募集、登録、活動期間

より多くの方がボランティアに参加しやすいよう、原則として3年となっていた活動期間を1年とし、更新を可能とした。ただし、美術館ボランティア募集に係る人

数、期間、活動内容、資格その他の基準は、その都度美術館が定め、募集要項に記載する。あわせて、任期が1年に満たない短期のボランティア活動も実施可能な枠組みを作り、臨時の活動を行えるように更新した。

・ボランティア募集

令和5年度の任期に向けて募集を行った。10月下旬に募集要項を県内各所へ配布し、当館ウェブサイトやSNSにおいて告知を行った。締切日の12月15日まで、ふじのくに電子申請サービス、郵送、FAXにて応募を受け付けた。応募総数は、新規、継続あわせて123名だった。今回の募集はタッチツアーグループ以外の6グループで行った。活動休止中のタッチツアーグループについては、再度任期延長の希望を募り、本年度登録者の7名全員が延長を希望した。うち一人は図書閲覧室グループの活動への応募もあった。

2月から3月にかけて全2回の研修を行い、直接の参加もしくは録画の視聴を登録の条件とした。来館での参加が難しい応募者に対しては、研修の様子を映像に記録し、インターネットによる限定配信の視聴および別途来館時の録画視聴をもって、来館での参加に代えた。最終的に、応募者の中から119名が登録され、延長希望したタッチツアーグループボランティアとあわせて125名となった。

(1) 説明会

日時：11月19日（土）14：00～14：45

場所：当館講堂

(2) 研修

第1回

日時：2月22日（水）または 2月26日（日）

13：30～16：00（どちらか1日を選択）

場所：当館講堂、館内各所

内容：オリエンテーション（植松）

13：30～14：00

静岡県立美術館の概要（石上）

14：10～15：00

施設見学（植松、川谷、喜寿）

15：10～16：00

第2回

日時：3月2日（木）または 3月5日（日）（どちらか1日を選択）

場所：当館講堂

内容：来館者対応について（当館監視スタッフ 小木曾友紀氏）13：30～14：20

県立美術館とインターネット（植松）

14：30～15：20

(3) 結果

ボランティア登録者	125名
図書閲覧室グループ	(単独) 26名 (兼務) 16名
学校グループ	19名
実技室グループ	20名
ギャラリーツアーグループ	19名
タッチツアーグループ	7名
資料整理グループ	26名
地域連携・草薙ツアーグループ	8名

■ 広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。(令和4年度末時点「広報サポーター」登録者数35名)

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

友の会活動

■諸会議

- ・理事会・評議員会

日時：5月24日（火）

場所：静岡県立美術館 会議室

- (1) 役員の改選について
- (2) 令和3年度事業報告、決算報告
- (3) 令和4年度事業計画案、予算案
- (4) その他

新型コロナウイルス感染症拡大のため書面表決とし、結果確認のため代表者により会議

- ・会長・副会長への事業報告会

日時：1月20日（金）

場所：静岡県立美術館 情報発信室

- (1) 事業中間報告
- (2) 35周年記念事業の報告と決算案

日時：3月28日（火）

場所：静岡県立美術館 会議室

- (1) 事業報告

令和5年度事業について

- (2) その他

- ・事業委員会

静岡県立美術館 講座室等 12回開催

- ・会報委員会

静岡県立美術館 会議室等 16回開催

- ・35周年記念事業実行委員会

事業委員会企画委員会 事業委員会開催時随時開催

全体会 日時：9月9日（金）場所：美術館講堂

日時：9月18日（日）

参加人数：7名参加

- (4) 「みる誕生 鴻池朋子」

日時：12月18日（日）

参加人数：7名参加

- (5) 「近代の誘惑」

日時：2月23日（木・祝）

参加人数：9名参加

- ・木下直之館長講座「遠州横須賀で江戸の祭りを考える」
現地見学会「遠州横須賀三熊野神社大祭」

日時：令和5年4月9日（日）（令和4年度事業）

参加 11名

- ・「友の会ひろば」

新型コロナ感染対策を施したうえで開催

- (1) 消しゴムスタンプづくり・オーナメントづくり

日時：11月3日（木・祝）

場所：静岡県立美術館正面広場

参加人数：消しゴムスタンプづくり 58人参加

オーナメントづくり 47人参加

常葉大学造形学部の協力 学生9名参加

県内作家によるワークショップ 約150人

参加

■研修旅行

- ・「相模湾の風に吹かれて未知の世界へバスの旅」

日時：3月17日（金）

行き先：小田原江之浦測候所と中川一政美術館

参加人数：28名

■友の会美術館支援事業

- ・各種実技支援事業

- ・「近代の誘惑—日本の情景」展関連イベント

杉山彦三郎記念茶畑の茶葉による呈茶

■情報資料の作成と提供

- ・友の会だより「プロムナード」発行（各800部）

第105号（4月14日発行）アトリエ訪問 ボタニカルアート・永野節子氏

- ・情報の提供

(1) 美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)

(2) 各種催事の情報提供

(3) 美術館内掲示板の有効活用

(4) 友の会ホームページ

会員の投稿掲載

■キッズアートプロジェクトしずおか支援

■実技講座

- ・実技講座「フリーグソーパズルを作る・遊ぶ・超える」

日時：7月9日（土）、10日（日）2日間

場所：静岡県立美術館 実技室

講師：白井嘉尚氏（美術家・静岡大学名誉教授）

参加人数：12名

■講演会（イベント）等の開催

- ・企画展ごと会員向けレクチャー

- (1) 「大展示室展」

日時：4月3日（日）

参加人数：15名参加

- (2) 「兵馬俑と古代中国」

日時：7月2日（土）

参加人数：31名参加

- (3) 「絶景を描く」

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛

■友の会発足35周年記念事業

- ・会員展「誰でもアーティスト展」
日時：令和4年9月13日（火）～19日（月・祝）
場所：静岡県立美術館県民ギャラリーA・B室
作品数：107点 作家：39人
来場者数：490人
- ・館長講演会「館長の推し、静岡県立美術館の3.5作品」
「会員の推し、静岡県立美術館の3.5作品」
日時：令和4年9月19日（月・祝）
場所：静岡県立美術館講堂
参加者：61人
会員の推し3.5作品 ①樹花鳥獣図屏風 伊藤若冲
②地獄の門 オーギュスト・ロダン
③家畜番の少女 ポール・ゴーガン
0.5 賢帝図屏風 狩野益信
館長の推し3.5作品 ①家畜番の少女 ポール・ゴーガン
②賢帝図屏風 狩野益信
③駿河湾富士遠望図 司馬江漢
0.5 批評とその愛人 マケット 森村泰昌
- ・研修旅行 青森方面
行き先：青森県立美術館、三内丸山遺跡、十和田市現代美術館ほか
日時：9月29日（木）～10月1日（土）2泊3日
参加者 29人 館長同行
- ・友の会だより「プロムナード35周年記念号」発行（各800部）
第106号（12月15日発行） アトリエ訪問 画家・今井宏氏

■その他の事業

- ・会員勧誘キャンペーン
新型コロナウイルス感染症拡大の為に中止
- ・提携等県内美術館との連携
提携美術館（静岡市美術館、掛川市二の丸美術館、駿府博物館）を始めとする県内美術館（静岡市立芹沢銈介美術館）が開催する企画展チラシを会員に配布するとともに、招待状10組を抽選により会員に提供。

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日
改正 平成27年 4月1日
改正 平成29年 4月1日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。
- (3) 会員資格の有効期限内における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座・見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
 - (2) 副会長 1人
 - (3) 理事（会長及び副会長を含む）10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。
- （役員の職務）
- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。
- （役員の任期）
- 第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- （専門委員会）
- 第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。
- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。
- （事務局）
- 第20条 本会に事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。
- （顧問）
- 第21条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- （会議）
- 第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。
- 第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。
- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。
- （会議の権能）
- 第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。
- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評

- 議員会の意見を聴かなければならない。
- （会議の開催）
- 第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。
- （会議の定足数）
- 第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。
- （会議の議長）
- 第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。
- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。
- （会議の議決）
- 第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- （書面の決議等）
- 第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。
- 第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。
- （賛助会員）
- 第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。
- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。
- （会則の変更）
- 第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。
- （解散）
- 第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。
- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決に

よりその用途を定めるものとする。
 (雑則)
 第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則
 この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則
 この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則
 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則
 この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附 則
 この変更は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特 典 の 種 類	会 員 の 種 類				
	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
5 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレクチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」・カフェ「ロダン」の飲料料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○	○
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ会員)	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行ってきた。平成8年度には公式ホームページを開設し、その後もリニューアルを繰り返して、展覧会等に関する広報の要となっている。近年ではSNSも複数運用し、幅広い対象に情報発信を行っている。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ホームページの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り（JR掲示専用のポスターを展覧会ごとに製作）
- ・ホームページへの情報掲載
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、各メディアへ提供するとともにウェブサイトに掲載
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hiほか）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供
（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■広報委員会

総務課、学芸課、文化政策課の担当職員から構成され、不定期に館内で会議を開き、アマリリスの編集などを主な業務としてきた。平成29年度に活動内容を大幅に見直し、より戦略的に広報活動を行う方針となった。

現在は、アマリリスの編集に加え、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの製作を行っている。平成30年度以来、チラシ等広報物の送付先リストの見直しを2回実施した。今年度後半より、3度目の更新作業を開始し、令和5年度前半に完了させる予定である。

■ホームページ

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

当館ホームページは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。平成28年度末のホームページリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在はGoogle Analyticsを使用している。

今年度は、長期休館があった前年度に比して、アクセ

ス数が回復しており、特に兵馬俑展を開催していた夏ごろに増加した。

令和4年4月1日～令和5年3月31日の実績

ユーザー	356,791
セッション	530,544
ページビュー数	1,240,277

（参考）

令和3年4月1日～令和4年3月31日の実績

ユーザー	291,457
セッション	401,835
ページビュー数	938,877

令和2年4月1日～令和3年3月31日の実績

ユーザー	402,991
セッション	622,591
ページビュー数	1,460,987

・リニューアル

平成28年度、適切なスマートフォン表示への対応を主目的としたウェブサイトのリニューアルを行い、平成29年3月30日に新ウェブサイトを公開した。令和3年度末のデジタルアーカイブ公開に伴い、コンテンツの配置を一部変更した。

■SNS

現在、下記3種のSNSを運用している。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載。

・Facebook

<https://www.facebook.com/shizuokakenbi/>
平成26年7月導入。

・Instagram

<https://www.instagram.com/shizuokakenbi/>
平成28年度「蜷川実花」展より導入。

・Twitter

<https://twitter.com/shizuokakenbi>
平成29年度「アートのなぞなぞ」展会期途中より導入。

デジタルアーカイブによる情報発信

デジタルアーカイブとは当館ホームページ上で公開している収蔵品、蔵書、現代美術関連資料を対象とした検索システム、および高精細画像、ヴァーチャルリアリティ（以下VR）、動画などの総称である。令和3年度に製作し、同年度末に公開した。製作に至るまでの経緯、製作過程、担当者などは令和3年度年報を参照のこと。

■デジタルアーカイブ・ポータルページ

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/>

各コンテンツを集約した、デジタルアーカイブの中心となるウェブページ。検索システムの検索窓、作家別インデックス、高精細画像、VR、コレクション選、動画へのリンクなどを設置。

■収蔵品等検索システム

<https://jmapps.ne.jp/spmoa/>

クラウド型のI. B. Museum SaaS（以下IBMS）を導入。収蔵品、蔵書、現代美術関連資料等のデータを管理するとともに、その一部をインターネット上で公開している。

・収蔵品

当館の所蔵品に関するデータベース。公開以降も随時登録済みデータを修正している。

・図書

当館の蔵書に関するデータベース。全蔵書のうち、単行本や図録を中心とした約20,000冊分の書誌情報を、校正をかけたうえで公開した。以降、新規に受け入れた図書は随時、登録・公開している。

・現代美術関連資料

現代美術作家の画廊等での展示記録に関するデータベース。当館ボランティアによって入力作業が行われている。全国各地の画廊や作家より当館宛に送付された展示案内などのダイレクトメールからデータを抽出している。当初は平成26年以降に届いた約6,000件分のデータを公開した。その後平成25年以前に受け入れた資料も対象とし、今後も新規受入分と並行して登録作業がボランティアによって行われていく見込みである。

■高精細画像

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/taiga/

池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》（重要文化財）の任意の場所を自由に拡大して閲覧することができる。

■VR

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/robin/

オーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRコンテンツ。実際の展示空間では不可能な角度や高度を含む、様々な視点からの観察を疑似体験させるとともに、モデルの各所に部分解説を付けることで、作品理解の補助となるツールと位置付けている。

■オンライン教育鑑賞プログラム

前年度にデジタルアーカイブの一部として製作した池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》の高解像度画像とオーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRを用いた、学校で利用されることを想定した鑑賞教育プログラム。ふじのくに文化教育プログラム推進事業費により、今年度後半より本格的に製作に着手した。《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》は小学生向け、《地獄の門》は中学生向けとして開発を進め、館内で検討するなかで、児童・生徒が既存のコンテンツをタブレットで閲覧する形式とした。更に教員からの意見聴取、小中学校での試行を経て、プログラムの内容と手順を示した教員向け利用ガイドと、児童・生徒向けワークシートを完成させた。令和5年度4月より公開した。

協力 山竹弘己氏（静岡市立清水第七中学校）

石垣拓磨氏（静岡市立西奈小学校）

■コレクション選

以前からホームページ内に存在した収蔵品に関するページを、デジタルアーカイブの中に再構成した。

・風景の交響楽

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/symphony/>

平成18（2006）年に発行した、収蔵品をテーマ別に紹介する名品集を、ウェブページ化したコンテンツ。今年度は作品画像を追加するなどの微調整を行った。

・ロダン館

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/robin/>

かつて当館ホームページ本体とは異なる独自のフォーマットで製作されたロダン館特設ページを改装したもの。ロダン館やブリッジギャラリーに設置されている彫刻作品を紹介。

・プロムナード

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/outdoor/>

当館敷地内にある彫刻プロムナードに設置された作品を紹介。

・伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/jakuchu/>

人気の高い同作について、基本情報や直近の展示情報を紹介するページ。Google Artにて公開中の高精細画像へのリンクも掲載。

■スペシャル動画

デジタルアーカイブの公開に合わせて制作・準備された映像。所蔵作家へのインタビューなど。詳細は令和3年度年報を参照のこと。

■観光デジタル情報プラットフォームへの対応

県の観光振興課が推進するプラットフォームを利用し、当館周辺の観光スポットを表示させる機能。デジタルアーカイブ内「風景の交響楽」や「プロムナード」ページに実装している。

美術館ニュース「アマリリス」

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第145（春）号 2022年4月1日発行

- p. 1 表紙 齊藤司郎《作品名不詳》／上席学芸員 川谷承子
- p. 2 TOPICS 1 排除と包摂／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 近代日本のオルタナティヴとしての静岡、その可能性／前上席学芸員 村上敬
- p. 4 EXHIBITION 「兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～」／上席学芸員 植松篤
- p. 5 新収蔵品の紹介
- p. 6 - 7 研究ノート 中庭の謎について／上席学芸員 新田建史
- p. 7 本の窓『狩野友信一最後の奥絵師、幕末・明治を生きる』／山田久美子著、水声社、2021年／上席学芸員 野田麻美
- p. 8 美術館問わず語り 新たな暮らしの中で／実技室エデュケーショナルスタッフ 中島友絵

第146（夏）号 2022年7月1日発行

- p. 1 表紙 二見彰一《心の部屋》／上席学芸員 新田建史
- p. 2 TOPICS 1 排除と包摂－83年前／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 静岡県立美術館デジタルアーカイブ／主任学芸員 浦澤倫太郎 上席学芸員 川谷承子
- p. 4 EXHIBITION 1 「絶景を描く－江戸時代の風景表現－」／主任学芸員 浦澤倫太郎

- p. 5 EXHIBITION 2 「絶景考Ⅰ／絶景考Ⅱ」／主任学芸員 貴家映子
- p. 6 - 7 研究ノート 令和2年度収蔵作品 小栗哲郎《龍爪山下の群落》について／上席学芸員 泰井 良
- p. 7 本の窓『古代ローマ旅行ガイド一日5デナリで行く』／フィリップ・マティザック著、安原和見訳、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2018年／上席学芸員 南美幸
- p. 8 美術館問わず語り 美術館ではたらく／副館長 長澤由哉

第147（秋）号 2022年10月1日発行

- p. 1 表紙 佐伯祐三《ラ・クロッシュ》／上席学芸員 泰井良
- p. 2 TOPICS 1 歓迎 鴻池朋子さん御一行／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 リレー展「みる誕生」の始まりは瀬戸内の波打ち際から／高松市美術館学芸員 毛利直子
- p. 4 EXHIBITION 1 みる誕生 鴻池朋子展／上席学芸員 川谷承子
- p. 5 EXHIBITION 2 《鯛川図巻》修理後初公開 静岡県・浙江省友好提携40周年記念 鯛川図と蘭亭曲水図／上席学芸員 野田麻美
- p. 6 - 7 研究ノート 資料紹介 ジョヴァンニ・ピエトロ・ピナローリ『現存する、古代ローマの最も記念すべき事柄の論文』について／上席学芸員 南美幸
- p. 7 本の窓 『改訂版 博物館資料取扱ガイドブック』／公益財団法人日本博物館協会編、ぎょうせい、2016年／上席学芸員 新田建



第145(春)号



第146(夏)号



第147(秋)号



第148(冬)号

- 史
- p. 8 美術館問わず語り 東海道中膝栗毛／主任
学芸員 喜多孝臣

第148（冬）号 2023年1月1日発行

- p. 1 表紙 池玉蘭《溪亭吟詩図》／主任学芸員
浦澤倫太郎
- p. 2 TOPICS 1 鴻池朋子展後日談と糞尿譚／
館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 2 美術館の翼の風を思いつつ／
静岡県立美術館友の会会長 曾根正弘、事
業委員長 大津裕子、会報委員長 山田克
人
- p. 4 EXHIBITION 1 近代の誘惑—日本画の実
践／学芸課長 石上充代
- p. 5 EXHIBITION 2 2022年度収蔵品展 光
The Light／上席学芸員 川谷承子
- p. 6－7 研究ノート『古きフランスのピトレスクで
ロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』
におけるウジェーヌ・イザベイの挿絵の成
立背景について／主任学芸員 貴家映子
- p. 7 本の窓 『ノー・シューズ』佐々木マキ著、
亜紀書房、2014年／学芸課長 石上充代
- p. 8 美術館問わず語り 有度山にうまる／総務
課主任 加藤小百合

新たな広報チャンネルの開拓

【大展示室展】

- ・報道各社への情報提供により、多くの新聞や雑誌で取り上げられた

【兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～】

- ・共催であるテレビ静岡の特別広報により、テレビCMによる広報を実施
- ・共催である中日新聞の特別広報により、新聞による広報を実施（展覧会監修者による特集記事の掲載）
- ・インターネット上での事前予約システムの導入と、SNSによる日々の混雑状況の発信
- ・春秋戦国時代を舞台に秦による中華統一を描くマンガ「キングダム」の描写と展示品とを絡めたコーナーの設置
- ・来場者の節目毎に記念品贈呈のイベントを実施（1、3、5万人）

【絶景を描く一江戸時代の風景表現一】

- ・県内の観光施設を新たに広報先に追加
- ・エスパルスドリームプラザにおける実技室出張講座でのチラシの配布

【鴻池朋子展】

- ・展示室外を使った作品の展示（エントランスホール、裏山）
- ・静岡新聞の特別広報により、新聞による広報を実施
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・静岡県立大学生向けの学芸員の解説付きツアーの実施
- ・ロダンウィークに合わせてイベントを実施（トーク1「美術館のケモノミチ」、筆談ダンス）
- ・エスパルスドリームプラザにおける実技室出張講座でのチラシの配布

【近代の誘惑展】

- ・近代日本画に強い県内外の美術館への集中的な広報物の発送
- ・出品作品の解説をSNSで毎日発信
- ・静岡県立大学、常葉大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学の学生に向けたメール等での広報
- ・草薙ツアーグループによる呈茶イベント『籠茶会』での企画展コラボ和菓子の提供
- ・『富士山の日』関連イベントとして、2月23日（木・祝）の来場者に出品作品である横山大観「群青富士」のミニカードをプレゼント（約250名）
- ・谷島屋パルシェ店、マークイズ店に展覧会関連書籍コー

ナーを設置

- ・児童向け展覧会の概要書を作成し館内で配布するとともに、学校への周知の為にS D Oの教育委員会掲示板に掲載

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
昭和61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
平成元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
29	35,774	7,827	574	1,446	157
30	28,058	6,452	430	1,096	86
令和元	31,896	5,286	925	782	149
2	15,067	2,692	1,617	412	0
3	9,452	1,688	458	278	0
4	27,447	4,063	1,104	752	0
合計	2,506,392	362,221	192,799	144,266	5,429

4 年 度 月 別 内 訳	4	2,575	336	116	51	0
	5	1,570	252	87	53	0
	6	2,640	204	114	87	0
	7	2,561	487	185	79	0
	8	4,716	100	242	88	0
	9	2,055	277	64	63	0
	10	2,189	281	60	62	0
	11	7,006	1,017	53	114	0
	12	1,302	382	48	41	0
	1	0	0	15	12	0
	2	833	250	54	30	0
	3	0	477	66	72	0

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4 / 5 (火)	4 / 10 (日)	6	AB	無	第18回アトリエニケ子ども造形デザイン絵画教室展覧会	大森 恵	1,176
2	4 / 12 (火)	4 / 17 (日)	6	AB	無	2022静岡県写真愛好者芸術展	静岡県写真愛好者芸術展実行委員会	780
3	4 / 19 (火)	4 / 24 (日)	6	AB	無	'22現代書作家展・しずおか	毎日新聞静岡支局	619
4	5 / 11 (水)	5 / 15 (日)	5	AB	無	第58回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	853
5	5 / 24 (火)	5 / 29 (日)	6	AB	無	20周年記念静岡美術研究所展	特定非営利活動法人静岡美術支援会	717
6	5 / 31 (火)	6 / 5 (日)	6	AB	無	(主催者の申出により中止) 第38回一基書展	一基会	—
7	6 / 8 (水)	6 / 12 (日)	5	AB	無	第47回二科静岡支部展	二科静岡支部	696
8	6 / 14 (火)	6 / 19 (日)	6	AB	無	第49回二科会写真部静岡支部公募展	一般社団法人二科会写真部静岡支部	707
9	6 / 21 (火)	6 / 26 (日)	6	B	無	創作飾り帯結び展 庫流 きものギャラリー22	三輪 民庫	434
10	6 / 28 (火)	7 / 3 (日)	6	AB	無	第33回静岡独立展	静岡独立美術協会	803
11	7 / 5 (火)	7 / 10 (日)	5	AB	無	第50回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	882
12	7 / 12 (火)	7 / 18 (月)	7	AB	無	幕末明治維新の先賢遺墨 静岡ゆかりの慶喜、三舟、渋沢栄一とその時代展	花守株式会社	910
13	7 / 20 (水)	7 / 24 (日)	5	AB	無	幕末明治維新の先賢遺墨 静岡ゆかりの慶喜、三舟、渋沢栄一とその時代展	花守株式会社	
14	7 / 26 (水)	7 / 31 (日)	5	AB	無	第86回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	769
15	8 / 2 (火)	8 / 7 (日)	6	A	無	第9回島田杉浦カメラユーザー写真展	杉浦 立芳	803
16	8 / 9 (火)	8 / 21 (日)	13	AB	無	第11回手漉き紙「おおむらさき」に見る中国風景写真展	世界手漉き紙文化振興会	1,751
17	8 / 23 (火)	8 / 28 (日)	6	AB	無	第71回静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	2,162
18	9 / 6 (火)	9 / 11 (日)	6	AB	無	第51回静岡独立書展	静岡県独立書人団	259
19	9 / 13 (火)	9 / 19 (月)	7	AB	無	静岡県立美術館友の会35周年記念会員展	静岡県立美術館友の会	490
20	9 / 21 (水)	9 / 25 (日)	5	AB	無	白日会静岡支部展	西谷 之男	770
21	9 / 27 (火)	10 / 2 (日)	6	AB	無	第48回静岡県フレミッシュ織展と第13回静岡裂織公募展併催	静岡県フレミッシュ織教室 朝原 智子	536
22	10 / 4 (火)	10 / 10 (月)	7	AB	無	静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	568
23	10 / 13 (水)	11 / 5 (土)	21	AB	無	山の洲文化財交流展「富士山をのぞむ人類の登場と縄文芸術」	静岡県文化財課	1,621
24	11 / 15 (火)	11 / 20 (日)	6	A	無	パッチワーク・パフ キルト展	パッチワーク・パフ滝下 千鶴子	2,353
25	11 / 15 (火)	11 / 20 (日)	6	B	無	三浦教室刺繍展	杉山 なかば	1,375
26	11 / 22 (火)	11 / 27 (日)	6	AB	無	第40回静岡県夏の読書感想画コンクール絵画展	株式会社静岡新聞社地域ビジネス推進局	3,119
27	11 / 29 (火)	12 / 4 (日)	6	B	無	三原 信彦 個展	三原 葉子	159
28	12 / 6 (火)	12 / 11 (日)	6	AB	無	第48回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	784
29	12 / 13 (火)	12 / 18 (日)	6	AB	無	静岡県芸術祭	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	518
30	2 / 21 (火)	2 / 26 (日)	6	AB	無	静岡サレジオ幼稚園美術展	静岡サレジオ幼稚園	833
合 計								27,447

来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和4年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が66.0%と最も高く、次いで「JR」11.9%、「その他」9.2%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は60.3%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は80.9%であった。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと近くの駐車場から順次満車になり、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長い登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用して美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。

令和4年度主要記事

4月6日	企画展「大展示室展」(～5月15日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(4月3日、29日) 美術講座「静岡県立美術館の記憶について」 新田建史(4月9日) 館長美術講座「美術館とは壁である」木下直之(5月3日)		木下直之(11月6日)*ロダンウィーク期間中 トーク2「裏山が抜け道になる」鴻池朋子×川谷承子(11月20日) 「筆談ダンス Dance in Writing」木下知威氏(歴史学者)×鴻池朋子(11月6日)*ロダンウィーク期間中 館長美術講座「日本美術糞尿譚」木下直之(12月11日) 学芸員によるフロアレクチャー(12月18日)
5月24日	収藏品展「新収藏品展」(～7月18日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(6月12日)	11月3日	ロダンウィーク2022(～11月6日) 〈期間中イベント〉 丘の上のロダンマルシェ(11月3日) 友の会広場(11月3日) 絶景クイズラリー(11月3日) 「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート(11月3日) コンサート「リコーダーとサクソフォンでめぐるフランス300年の旅」(11月5日)
6月18日	企画展「兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～」(～8月28日) 〈会期中イベント〉 特別講演会「兵馬俑と古代中国の歴史」鶴間和幸氏(学習院大学名誉教授・本展監修者)(6月25日) 館長美術講座「兵馬俑と埴輪と人形の話」木下直之(7月10日) 学芸員によるスライドトーク 植松篤(7月2日、23日)	11月19日	移動美術展「富士から世界へ、風景を巡る」(～11月27日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(11月23日、11月26日)
7月20日	収藏品展「絶景考 第Ⅰ部」(～9月19日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(9月3日)	11月22日	収藏品展「綱川図と蘭亭曲水図」(～1月9日) 〈会期中イベント〉 記念シンポジウム「綱川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」(12月3日) 学芸員によるフロアレクチャー(12月17日)
8月5日	第三者評価委員会	1月10日	改修工事による全館休館(～2月13日)
9月10日	企画展「絶景を描く—江戸時代の風景表現—」(～10月23日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(9月18日、10月1日) 学芸員によるスライドトーク 浦澤倫太郎(9月25日) 館長美術講座「真を写す人—絵画と写真の話」木下直之(10月10日)	2月14日	収藏品展「光—The Light」(～4月9日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(2月26日、3月26日)
9月16日	美術館協議会	2月18日	企画展「近代の誘惑—日本画の実践」(～3月26日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(2月23日、3月11日、3月18日) 学芸員によるスライドトーク 石上充代(3月5日) 館長美術講座「画家たちは何に誘惑されたのか」木下直之(3月12日)
9月21日	収藏品展「絶景考 第Ⅱ部」(～11月20日) 〈会期中イベント〉 学芸員によるフロアレクチャー(10月22日) 美術講座「農村を描く印象派画家—カミーユ・ピサロとポントワーズ」深尾茅奈美氏(静岡市美術館学芸員)(11月6日)*ロダンウィーク期間中		
11月3日	企画展「みる誕生 鴻池朋子展」(1月9日) 〈会期中イベント〉 トーク1「美術館のケモノミチ」鴻池朋子×	通年	創作週間(通算58日間)

実技講座（通算 8 日間）
ロダン館デッサン会（通算22日間）
ちょこっと体験（通算 9 日間）
わくわくアトリエ（通算 3 日間）
ねんど開放日（通算 7 日14回）
えのぐ開放日（通算 4 日 8 回）
美術館教室（通算26日間）

兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～

6月18日（土）～8月28日（日）

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法（cm）	所蔵
第一章 統一前夜の秦—西戎から中華へ						
1	騎馬俑〈一級文物〉	きばよう	戦国秦	陶	高さ22.0、長さ18.4、幅7.4	咸陽市文物考古研究所
2	青銅剣	せいどうけん	戦国秦	青銅	長さ47.0、幅3.7	米脂県博物館
3	青銅戈	せいどうか	春秋秦	青銅	長さ9.4	宝鶏市鳳翔区博物館
4	青銅戈	せいどうか	戦国秦	青銅	長さ24、幅12	永寿县博物館
5	青銅矛	せいどうほこ	戦国秦	青銅	長さ22、幅3	綏徳県博物館
6	青銅矛	せいどうほこ	戦国秦	青銅	長さ15.8	宝鶏市鳳翔区博物館
7	金柄青銅削〈一級文物〉	きんへいせいどうさく	春秋秦	金、青銅	長さ29.3	宝鶏市鳳翔区博物館
8-1	青銅車害	せいどうしゃえい	春秋秦	青銅	高さ9	宝鶏市陳倉区博物館
8-2	青銅車害	せいどうしゃえい	春秋秦	青銅	高さ9.2	宝鶏市陳倉区博物館
10	弓形器	ゆみがたき	戦国秦	青銅	長さ27.0、幅3.7	永寿县博物館
11	青銅当盧	せいどうとうろ	戦国秦	青銅	長さ17.7、幅7.6	永寿县博物館
12	青銅鑿鈴	せいどうらんれい	戦国秦	青銅	長さ17.5、幅10.0	永寿县博物館
13	青銅鈴	せいどうれい	戦国秦	青銅	高さ6.0、口径6.5	旬邑県博物館
14	金円泡	きんえんほう	春秋秦	金	直径2.1 直径1.8 直径1.1	宝鶏市鳳翔区博物館
15-1	「年」字銘石磬	ねんじめいせっけい	春秋秦	石	長さ29.5	秦始皇帝陵博物院
15-2	石磬	せっけい	春秋秦	石	長さ26.4	秦始皇帝陵博物院
16	穀粒紋玉璧	こくりゅうもんぎよくへき	戦国秦	玉	直径11.4、厚さ0.5	旬邑県博物館
17-1	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ12.3、幅2.0、厚さ0.4	宝鶏市陳倉区博物館
17-2	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ12.0、幅2.3、厚さ0.5	宝鶏市陳倉区博物館
17-3	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ12.0、幅2.4、厚さ0.5	宝鶏市陳倉区博物館
17-4	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ11.8、幅2.2、厚さ0.5	宝鶏市陳倉区博物館
17-5	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ11.5、幅2.5、厚さ0.4	宝鶏市陳倉区博物館
17-6	玉人	ぎよくじん	戦国秦	玉	長さ11.5、幅2.3、厚さ0.5	宝鶏市陳倉区博物館
18-1	玉琮	ぎよくそう	戦国秦	玉	長さ7.0、幅7.0、厚さ0.4	宝鶏市陳倉区博物館
18-2	玉琮	ぎよくそう	戦国秦	玉	長さ6.8、幅6.8、厚さ0.4	宝鶏市陳倉区博物館
18-3	玉琮	ぎよくそう	戦国秦	玉	長さ7.0、幅7.0、厚さ2.8	宝鶏市陳倉区博物館

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法（cm）	所蔵
19	青玉龍	せいぎょくりゅう	戦国秦	玉	長さ18、幅12	榆林市公共文化服務中心
20	蟠螭紋青銅鏡	ばんちもんせいどうきょう	戦国秦	青銅	直径23.5、厚さ0.2	宝鶏市陳倉区博物館
21	金銀象嵌帯鉤	きんぎんぞうがんだいこう	戦国秦	金、銀、青銅	長さ22.0、幅4.3	宝鶏市陳倉区博物館
22	牛形鎏金青銅帶飾板	ぎゅうけいりゅうきんせいどうたいしよくばん	戦国秦	金、青銅	長さ10.8、幅5.5	陝西歴史博物館
23	金虎〈一級文物〉	きんこ	春秋秦	金	高さ3.1、長さ4.5、厚さ0.5	宝鶏市陳倉区博物館
24	鳳鳥貼面磚	ほうちょうてんめんせん	戦国秦	陶	直径22、幅12	宝鶏市鳳翔区博物館
25	鹿紋瓦当	ろくもんがとう	戦国秦	陶	直径14.3、厚さ1.4	宝鶏市鳳翔区博物館
26	虎雁紋瓦当	こがんもんがとう	戦国秦	陶	直径14.5	宝鶏市鳳翔区博物館
27	銘文青銅尊〈一級文物〉	めいぶんせいどうそん	西周	青銅	高さ20.0、口径18.5	永寿县博物館
28	蟠螭紋青銅壺	ばんちもんせいどうこ	春秋秦	青銅	高さ17.2、口径3.6 × 6.2、底径4.8 × 6.4	隴県博物館
29	窃曲環帯紋青銅甗	せつきょくかんだいもんせいどうげん	春秋秦	青銅	高さ22.4、口径12.8×10	隴県博物館
30	蟠螭紋青銅甗	ばんちもんせいどうげん	戦国秦	青銅	高さ30.6、口径20.0	宝鶏市鳳翔区博物館
31	窃曲紋青銅盤	せつきょくもんせいどうばん	春秋秦	青銅	高さ12.4、直径25.7、深さ5.0	宝鶏市陳倉区博物館
32	鳳鳥青銅盃	ほうちょうせいどうか	春秋秦	青銅	高さ20.5、幅22.5	宝鶏市陳倉区博物館
33	提梁卣	ていりょうゆう	戦国秦	青銅	高さ16.0、口径8.2、腹周り16.0	旬邑県博物館
34	鳳鳥銜環青銅薰形器〈一級文物〉	ほうちょうかんかんせいどうくんけいき	戦国秦	青銅	高さ35.5、底径18.3	宝鶏市鳳翔区博物館
35	金銀象嵌蟠螭紋青銅提梁壺〈一級文物〉	きんぎんぞうがんばんちもんせいどうていりょうこ	戦国秦	金、銀、青銅、玉石	高さ21.5、口径8.5、底径10.2、腹周り16.0	宝鶏市陳倉区博物館
36	蟠螭紋帶蓋青銅壺	ばんちもんたいがいせいどうこ	戦国秦	青銅	高さ33.8、口径9.8	米脂県博物館
37	宴飲狩獵紋青銅壺〈一級文物〉	えんいんしゅりょうもんせいどうこ	戦国秦	青銅	高さ40.0、口径10.8、腹周り23.0	宝鶏市鳳翔区博物館
38	父癸青銅鼎	ふきせいどうてい	西周	青銅	高さ30.5、口径26.5	永寿县博物館
39	中滋青銅鼎〈一級文物〉	ちゅうじせいどうてい	春秋秦	青銅	高さ17.5、口径18.0、深さ9.0	永寿县博物館
40	八獸帶蓋小鼎	はちじゅうたいがいしょうてい	春秋秦	青銅	高さ5.7、口径4.5	宝鶏市鳳翔区博物館
41	彩色双耳陶壺	さいしょくそうじとうこ	春秋秦	陶	高さ32.0、口径8.6	隴県博物館
42	彩色陶壺	さいしょくとうこ	春秋秦	陶	高さ27、口径14	隴県博物館
43	彩色陶盞	さいしょくとうき	春秋秦	陶	高さ12、口径15	隴県博物館
44	青銅扁壺	せいどうへんこ	戦国秦	青銅	高さ26.0、口径7.8	永寿县博物館
45	繭形陶壺	まゆがたとうこ	戦国秦	陶	口径13.5、底径13.0	永寿县博物館
第二章 統一王朝の誕生—始皇帝の時代						
46	戦服将軍俑〈一級文物〉	せんふくしょうぐんよう	統一秦	陶	高さ196	秦始皇帝陵博物院
47	鎧甲軍吏俑〈一級文物〉	がいこうぐんりよう	統一秦	陶	高さ190	秦始皇帝陵博物院

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法（cm）	所蔵
48	鎧甲軍吏俑〈一級文物〉	がいこうぐんりよう	統一秦	陶	高さ186	秦始皇帝陵博物院
49	鎧甲騎兵俑〈一級文物〉	がいこうきへいよう	統一秦	陶	高さ178	秦始皇帝陵博物院
50	鎧甲武士俑〈一級文物〉	がいこうぶしよう	統一秦	陶	高さ187	秦始皇帝陵博物院
51	鎧甲武士俑〈一級文物〉	がいこうぶしよう	統一秦	陶	高さ189	秦始皇帝陵博物院
52	跪射武士俑〈一級文物〉	きしゃぶしよう	統一秦	陶	高さ122	秦始皇帝陵博物院
53	立射武士俑〈一級文物〉	りっしゃぶしよう	統一秦	陶	高さ178	秦始皇帝陵博物院
54	戦車馬〈一級文物〉	せんしゃば	統一秦	陶	高さ165、長さ188、幅52	秦始皇帝陵博物院
55	跪座俑〈一級文物〉	きざよう	統一秦	陶	高さ64	秦始皇帝陵博物院
56	2号銅車馬【展示は複製品】〈一級文物〉	にごうどうしゃば	統一秦	青銅	高さ106.2、長さ317.0、幅176.0	秦始皇帝陵博物院
57	青銅長剣〈一級文物〉	せいどうちょうけん	秦	青銅	長さ90.3、刃の長さ71.9	秦始皇帝陵博物院
58	青銅戟〈一級文物〉	せいどうげき	秦	青銅	長さ26.7、幅3.4	秦始皇帝陵博物院
59	青銅矛	せいどうほこ	秦	青銅	長さ15.2、幅3.5	陝西歴史博物館
60	青銅鉞	せいどうえつ	秦	青銅	長さ16.9、刃の幅9.7、柄の長さ6.7	旬邑県博物館
61	青銅鏃	せいどうぞく	秦	青銅	長さ11.3-16.3	秦始皇帝陵博物院
62	青銅弩機	せいどうどき	秦	青銅	長さ16.2	秦始皇帝陵博物院
63	青銅甬鐘	せいどうようしょう	秦	青銅	高さ27.1、甬の長さ10.1、直径4.0	秦始皇帝陵博物院
64	虎鈕鐙于	こちゅうじゅんう	秦	青銅	高さ48.6	陝西歴史博物館
65	秦半兩錢	しんはんりょうせん	秦	青銅	直径3.4 × 3.1	陝西歴史博物館
66	秦半兩錢範	しんはんりょうせんはん	秦	青銅	長さ20.0、幅7.8	綏徳県博物館
67	双耳青銅盞	そうじせいどうぼう	秦	青銅	高さ16.8、口径12.5	綏徳県博物館
68	穿鈕青銅棹	せんちゅうせいどうひ	秦	青銅	高さ28.0、口径5.7	綏徳県博物館
69	青銅鍔	せいどうふく	秦	青銅	高さ27、口径16	綏徳県博物館
70-1	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ15.5、幅1.6	里耶秦簡博物館
70-2	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ37.4、幅8.8	里耶秦簡博物館
70-3	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ37.2、幅1.6	里耶秦簡博物館
70-4	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ23.0、幅2.3	里耶秦簡博物館
70-5	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ23.0、幅2.7	里耶秦簡博物館
70-6	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ37.6、幅1.6	里耶秦簡博物館
70-7	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ15.5、幅1.1	里耶秦簡博物館
70-8	里耶秦簡	りやしんかん	統一秦	木	長さ23.1、幅3.1	里耶秦簡博物館

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法 (cm)	所蔵
第三章 漢王朝の繁栄—劉邦から武帝まで						
71-1	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ50.0、幅16.0	咸陽博物院
71-2	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ49.5、幅15.5	咸陽博物院
71-3	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ48.0、幅14.5	咸陽博物院
71-4	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ48.0、幅14.5	咸陽博物院
71-5	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ49.5、幅16.0	咸陽博物院
71-6	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ49.0、幅14.5	咸陽博物院
71-7	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ51、幅18	咸陽博物院
71-8	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ48、幅15	咸陽博物院
71-9	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ50、幅15	咸陽博物院
71-10	彩色歩兵俑	さいしょくほへいよう	前漢	陶	高さ48、幅15	咸陽博物院
72	彩色男子立人俑	さいしょくだんしりつじんよう	漢	陶	高さ47.0、肩幅9.5、胸の厚さ8.0	渭南市博物館
73-1	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
73-2	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
73-3	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
73-4	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
73-5	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
73-6	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ68、長さ63	咸陽博物院
74	彩色騎馬俑	さいしょくきばよう	前漢	陶	高さ33.2、長さ34.6、幅11.0	漢景帝陽陵博物院
75-1	騎馬俑	きばよう	前漢	陶	高さ51.7	漢景帝陽陵博物院
75-2	騎馬俑	きばよう	前漢	陶	高さ52.5	漢景帝陽陵博物院
75-3	騎馬俑	きばよう	前漢	陶	高さ52	漢景帝陽陵博物院
76-1	着衣式武士俑	ちやくいしきぶしょう	前漢	陶	高さ57.3、肩幅9.5	漢景帝陽陵博物院
76-2	着衣式武士俑	ちやくいしきぶしょう	前漢	陶	高さ57.2、肩幅9.5	漢景帝陽陵博物院
76-3	着衣式武士俑	ちやくいしきぶしょう	前漢	陶	高さ58.0、肩幅9.5	漢景帝陽陵博物院
76-4	着衣式武士俑	ちやくいしきぶしょう	前漢	陶	高さ58.3、肩幅9.5	漢景帝陽陵博物院
77-1	子豚陶俑	こぶたとうよう	前漢	陶	高さ7.2、長さ16.8、幅4.6	漢景帝陽陵博物院
77-2	子豚陶俑	こぶたとうよう	前漢	陶	高さ7.3、長さ17.0、幅4.4	漢景帝陽陵博物院
78	綿羊陶俑	めんようとうよう	前漢	陶	高さ36.7、長さ43.4、幅14.2	漢景帝陽陵博物院
79	山羊陶俑	さんようとうよう	前漢	陶	高さ25.3、長さ38.6、幅12.3	漢景帝陽陵博物院

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法（cm）	所蔵
80	陶牛	とうぎゅう	前漢	陶	高さ38.2、長さ71.0、幅23.3	漢景帝陽陵博物院
81	陶馬	とうば	前漢	陶	高さ57.8、長さ71.8、幅19.2	漢景帝陽陵博物院
82	家畜犬陶俑	かちくけんとうよう	前漢	陶	高さ20.7、長さ31.0、幅10.4	漢景帝陽陵博物院
83	野生犬陶俑	やせいけんとうよう	前漢	陶	高さ20.5、長さ32.4、幅9.7	漢景帝陽陵博物院
84	彩色一角双耳獣	さいしょくいっかくそうじじゅう	漢	陶	高さ37.2、長さ37.0	永寿县博物館
85	鎏金青銅馬〈一級文物〉	りゅうきんせいどうば	前漢	金、青銅	高さ62、長さ76	茂陵博物館
86-1	玉豚	ぎょくとん	漢	玉	高さ2.6、長さ11.0、幅1.8	渭南市博物館
86-2	玉豚	ぎょくとん	漢	玉	さ2.7、長さ11.0、幅2.0	渭南市博物館
87	穀粒紋玉璧	こくりゅうもんぎょくへき	漢	玉	直径14.7、厚さ0.7	宝鶏市陳倉区博物館
88	雲紋玉珎	うんもんぎょくひつ	漢	玉	高さ5.0、幅5.5、厚さ1.3	綏徳県博物館
89	金象嵌琴形青銅帶鉤	きんぞうがんきんけいせいどうたいこう	漢	金、青銅	長さ22.7、幅2.5	榆林市公共文化服務中心
90	鳥形青銅帶鉤	とりがたせいどうたいこう	漢	青銅	長さ6.0、幅4.6	榆林市公共文化服務中心
91	「王精」亀鈕金印〈一級文物〉	おうせいきちゅうきんいん	漢	金	長さ1.1、幅1.1	西安博物院
92	漢半両銭	かんはんりょうせん	漢	青銅	直径2.3、厚さ0.1	綏徳県博物館
93	漢五銖銭	かんどしゅせん	漢	青銅	直径2.5、厚さ0.15 直径2.3、厚さ0.1	渭南市博物館
94	漢五銖銭范	かんどしゅせんはん	前漢	青銅	高さ2.7、長さ25.5、幅7.9 高さ2.5、長さ25.2、幅8.0	渭南市博物館
95	金餅	きんぺい	漢	金	直径6.2	陝西歴史博物館
96	一刀平五千金象嵌刀銭	いっとうへいごせんきんぞうがんとうせん	漢	金、青銅	長さ7.5、厚さ0.4 長さ7.5、厚さ0.5	渭南市博物館
97	「来谷宮当」瓦当	らいこくきゅうとうがとう	漢	陶	直径16、厚さ2	宝鶏市鳳翔区博物館
98	「長楽未央」瓦当	ちょうらくびおうがとう	前漢	陶	直径19.3、厚さ2.4	漢景帝陽陵博物院
99	「千秋萬歳」瓦当	せんしゅうばんさいがとう	前漢	陶	直径18.0、厚さ2.9	漢景帝陽陵博物院
100	画像石〈一級文物〉	がぞうせき	後漢	石	左門扉：高さ120、幅48 右門扉：高さ120、幅49	綏徳県博物館
101	鎏金青銅鋪首	りゅうきんせいどうほしゅ	漢	金、青銅	高さ6.2、長さ7.2、厚さ3.2 高さ6.1、長さ7.5、厚さ3.2	渭南市博物館
102	青銅鋪首	せいどうほしゅ	漢	青銅	長さ8.5、幅9.0 長さ8.6、幅9.3長さ8.6、幅9.3	綏徳県博物館
103	陶倉	とうそう	漢	陶	高さ55.0、幅39.2	永寿县博物館
104	陶家屋	とうかおく	漢	陶	高さ28.0、長さ41.5、幅22.0	宝鶏市陳倉区博物館
105	陶犬	とうけん	漢	陶	高さ28.5、長さ26.0	宝鶏市陳倉区博物館
106	亀形青銅竈	きけいせいどうそう	漢	青銅	高さ16、長さ21、幅15	綏徳県博物館
107	陶車	とうしゃ	漢	陶	高さ19	永寿县博物館
108	緑釉陶倉	りょくゆうとうそう	後漢	陶	高さ29、腹周り14	宝鶏市鳳翔区博物館

No.	名称	よみ	時代	材質	寸法 (cm)	所蔵
109	幾何紋陶倉	きかもんとうそう	漢	陶	高さ26.5、口径5.7	隴県博物館
110	三獣足灰陶挽き臼	さんじゅうそくかいとう ひきうす	漢	陶	高さ14.7、底径18.9	榆林市公共文化服務中心
111	釉陶井戸	ゆうとういど	漢	陶	高さ31、口径19	永寿县博物館
112	陶井戸	とういど	漢	陶	高さ26.9	永寿县博物館
113	黄釉陶奩	きゆうとうれん	漢	陶	高さ17.4、口径17.9	隴県博物館
114	緑釉博山樽	りょくゆうはくさんそん	漢	陶	高さ38.3、口径26.6、底径27.5	渭南市博物館
115	彩色陶羊尊	さいしょくとうようそん	漢	陶	高さ24、長さ36、幅15	榆林市公共文化服務中心
116	帯蓋青銅鑑斗	たいがいせいどうしょう と	漢	青銅	高さ13.2、口径7.5、柄の長さ8.0	綏徳県博物館
117	陶勺	とうしゃく	漢	陶	長さ12.5	永寿县博物館
118	青銅鴨首壺	せいどうおうしゅこ	漢	青銅	高さ43.5、口径2.6、底径14.4	米脂県博物館
119	「高陵」「華陰」銘青銅鼎	こうりょうかいんめいせい いどうてい	漢	青銅	高さ16.7、口径14.4、腹周り19.8	渭南市博物館
120	陶鼎	とうてい	漢	陶	高さ22.0、口径10.2	永寿县博物館
121	帯蓋青銅扁壺	たいがいせいどうへんこ	漢	青銅	高さ29.0、口径8.5、足の直径15.3	綏徳県博物館
122	竹節形青銅燭台	ちくせつけいせいどうしょう くだい	漢	青銅	高さ27.7、口径13.9、底径11.4	綏徳県博物館
123	亀鳳柄青銅博山爐	きほうへいせいどうはく さんろ	漢	青銅	高さ24.2、口径8.7、皿の直径18.3	綏徳県博物館
124	高柄青銅薰爐	こうへいせいどうくんろ	漢	青銅	高さ30.5、口径11.2、皿の直径19.0	綏徳県博物館

絶景を描くー江戸時代の風景表現ー

前期：9月10日（土）～10月3日（日） 後期：10月5日（火）～10月23日（日）

- ・◎は重要文化財
- ・原在正《富士山図巻》横寸は各巻本紙部分の合計

No.	作者名	作品名	員数	材質	制作年代	寸法（cm）	所蔵	展示期間
第一章 名所をめぐる絵画								
1	元信印	◎富士曼荼羅図	1 幅	絹本著色	室町時代後期（16世紀）	186.6×118.2	富士山本宮浅間大社蔵	
2	式部輝忠	富士八景図	8 幅	紙本墨画	享禄3（1530）頃	各97.5×32.8	静岡県立美術館蔵	
3		富士三保松原図屏風	6 曲 1 双のうち右隻	紙本金地著色	室町時代後期（16世紀）	137.5×328.0	個人蔵	前
4	狩野山雪	富士三保松原図屏風	6 曲 1 双	紙本墨画	江戸時代前期（17世紀）	各153.5×360.0	個人蔵	
5	狩野探幽	富士山図	1 幅	紙本墨画淡彩	寛文7（1667）	56.6×118.4	静岡県立美術館蔵	
6	狩野常信	富嶽三保松原図	1 幅	絹本墨画著色	宝永元-6（1704-09）	53.5×115.0	個人蔵	
7	遠坂文雍	富嶽図	1 幅	絹本墨画著色	江戸時代後期（19世紀）	42.8×71.4	個人蔵	後
8	平井顕斎	望嶽図	1 幅	絹本墨画	江戸時代後期（19世紀）	41.3×66.3	静岡県立美術館蔵	
9		天橋立図屏風	6 曲 1 双のうち左隻	紙本金地著色	室町時代後期（16世紀）	137.5×328.0	個人蔵	前
10		厳島図屏風	6 曲 1 双のうち左隻	紙本金地著色	江戸時代前期（17世紀）	92.9×264.6	静岡県立美術館蔵	
11		武蔵野図屏風	6 曲 1 双	紙本金地著色	江戸時代前期（17世紀）	（右）155.6×356.8 （左）155.6×354.8	静岡県立美術館蔵	
12	高嵩谷	隅田川春景図	8 曲 1 隻	紙本金地淡彩	江戸時代中期（18世紀）	103.0×352.8	個人蔵	後
第二章 南画家たちの試み								
13	中山高陽	近畿絵日記	1 巻	紙本墨画淡彩	宝暦3（1753）	21.9×679.1	個人蔵	
14	中山高陽	八州勝地図	1 幅	紙本墨画	安永6（1777）	35.7×80.9	個人蔵	
15	青木夙夜	富嶽寒村図	1 幅	絹本淡彩	明和7（1770）	110.0×36.2	個人蔵	
16	高芙蓉	富士川望富嶽図	1 幅	紙本墨画	江戸時代中期（18世紀）	32.7×51.8	個人蔵	
17	韓天寿	富嶽霽雪図	1 幅	紙本墨画	江戸時代中期（18世紀）	86.1×26.6	個人蔵	
18	野呂介石	熊野真景図巻	1 巻	紙本墨画淡彩	文化2（1805）	28.3×922.4	個人蔵	
19	野呂介石	阿古瀑布図	1 幅	絹本淡彩	江戸時代後期（19世紀）	112.9×39.8	個人蔵	
20	横井金谷	大峰山図	1 幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期（19世紀）	130.7×57.0	個人蔵	
21	中林竹洞ほか	鴨水十五景詩画冊	1 冊	絹本墨画淡彩	弘化3（1846）頃	各19.7×15.0	個人蔵	
22	中林竹洞	東山図巻	1 巻	紙本墨画淡彩	弘化2（1845）頃	25.0×213.2	個人蔵	
23	中林竹洞	神洲奇観	1 幅	絹本淡彩	江戸時代後期（19世紀）	34.6×49.7	静岡県立美術館蔵	
24	浦上春琴	競秀争流図	1 幅	絹本著色	文政13（1830）	55.6×121.0	静岡県立美術館蔵	

No.	作者名	作品名	員数	材質	制作年代	寸法（c m）	所蔵	展示期間
25	小田海僊	嵐山図	1 幅	絹本墨画 淡彩	嘉永 7（1854）	122.3×42.8	個人蔵	
第三章 刷新される風景表現								
26	司馬江漢	駿河湾富士遠望 図	1 面	絹本油彩	寛政11（1799）	36.2×100.9	静岡県立美術館蔵	
27	椿椿山	山海奇賞図巻	1 巻	紙本淡彩	文政13（1830）	13.5×466.5	静岡県立美術館蔵	
28	永村茜山	伊豆七島真景図 巻	1 巻	紙本墨画 淡彩	天保 9（1838）頃	27.5×830.1	個人蔵	
29	原在中	富士三保松原図	1 幅	絹本著色	文政 5（1822）	40.9×100.8	静岡県立美術館蔵	
30	原在正	富士山図巻（第 七巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×719.5	個人蔵	
31	原在正	富士山図巻（第 九巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×619.7	個人蔵	
第四章 富士山を描き分ける								
32	原在正	富士山図巻（第 五巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×612.2	個人蔵	
33	歌川広重	不二三十六景 「駿河富士沼」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.7×25.3	静岡県立美術館蔵	前
34	歌川広重	不二三十六景 「駿河田子の浦」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.7×25.3	静岡県立美術館蔵	前
35	歌川広重	不二三十六景 「駿河不二川」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.1×25.5	静岡県立美術館蔵	後
36	歌川広重	東海道五拾三次 （保永堂版）「原 朝の富士」	1 枚	紙、木版、 色摺	天保 4（1833）頃	25.5×38.7	静岡県立美術館蔵	後
37	原在正	富士山図巻（第 二巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×674.3	個人蔵	
38	原在正	富士山図巻（第 三巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×661.3	個人蔵	
39	歌川広重	不二三十六景 「箱根山中湖水」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）頃	18.1×25.3	静岡県立美術館蔵	前
40	歌川広重	東海道五拾三次 （保永堂版）「箱 根 湖水図」	1 枚	紙、木版、 色摺	天保 4（1833）頃	25.5×38.7	静岡県立美術館蔵	後
41	原在正	富士山図巻（第 一巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×737.4	個人蔵	
42	原在正	富士山図巻（第 十巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.8×672.8	個人蔵	
43	歌川広重	不二三十六景 「東都両国橋下」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.7×25.5	静岡県立美術館蔵	前
44	歌川広重	不二三十六景 「武蔵多満川」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.0×25.5	静岡県立美術館蔵	前
45	歌川広重	不二三十六景 「大江戸市中七夕 祭」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.7×24.7	静岡県立美術館蔵	後
46	歌川広重	不二三十六景 「武蔵本牧海上」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	17.8×25.0	静岡県立美術館蔵	後
47	原在正	富士山図巻（第 八巻）	1 巻（全14 巻のうち）	紙本著色	寛政 8－12（1796－18 00）頃	28.9×618.3	個人蔵	
48	歌川広重	不二三十六景 「上総木更津海上」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.2×25.4	静岡県立美術館蔵	後
49	歌川広重	不二三十六景 「安房鋸山」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.0×25.5	静岡県立美術館蔵	前
50	歌川広重	不二三十六景 「信濃諏訪湖」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.1×25.3	静岡県立美術館蔵	前
51	歌川広重	不二三十六景 「甲斐夢山裏富士」	1 枚	紙、木版、 色摺	嘉永 5（1852）	18.1×25.5	静岡県立美術館蔵	後

No.	作者名	作品名	員数	材質	制作年代	寸法（c m）	所蔵	展示期間
52	河村岷雪 画	百富士	4 冊	紙本木版刷	明和 8（1771）	各26.7×17.9	静岡県立中央図書館蔵	
53	秋里籬島 著	東海道名所図会 巻之五	1 冊	紙本木版刷	寛政 9（1797）	25.5×17.9	静岡県立中央図書館蔵	
第五章 富士山を取り巻く景観の変化								
54	墨江武禪	芙蓉峯細見之図	1 幅	紙本墨画 淡彩	寛政11（1799）頃	53.0×65.6	静岡県立美術館蔵	
55	堀田正民	行囊詩画	1 巻	紙本著色	文政 3（1820）	28.6×1457.4	個人蔵	
56		伊豆三津長浜より 富嶽を望む図	1 幅	紙本墨画 淡彩	江戸時代前期（17世紀）	58.5×102.5	静岡県立美術館蔵	
57	木村喜繁	天保三年伊豆紀行	1 帖	紙本著色	天保 3（1832）頃	各27.5×39.6	静岡県立中央図書館蔵	
58	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図	1 幅	葛本墨画 著色	天保10（1839）	67.5×131.7	静岡県立美術館蔵	
59	司馬江漢	駿州薩陀山富士 遠望図	1 面	絹本油彩	文化元（1804）	78.5×146.5	静岡県立美術館蔵	
60	横井金谷	田子浦富士図	1 幅	絹本著色	天保元（1830）	49.3×108.0	個人蔵	
61	横山華山	清見潟富士図	1 幅	絹本墨画	文政 2（1819）	42.3×79.5	静岡県立美術館蔵	
62	平木政次	富士	1 面	キャンヴァス、 油彩	明治30（1897）	44.0×67.0	静岡県立美術館蔵	
63	五姓田義松	富士	1 面	キャンヴァス、 油彩	明治38（1905）	46.8×101.5	静岡県立美術館蔵	

みる誕生 鴻池朋子展

11月3日（木・祝）～令和5年1月9日（月・祝）

	作者	作品タイトル	制作年	技法・素材	所蔵先
1	木下知威・鴻池朋子	往復書簡	2021-22年	手紙、はがき、他	作家蔵
	木下知威・鴻池朋子	「筆談ダンス」記録	2022年	紙、インク	作家蔵
2	鴻池朋子	柱周りインスタレーション	2022年	津波模型（油粘土、作品模型、発泡スチール、木材、他）、狼ベンチ 粘土原型（発泡スチロール、油粘土、木材、他）、害獣駆除された毛皮（狼、ツキノワグマ、ニホンジカ、ヒグマ）、織物シャトル、櫓、鉄塔模型、紙粘土、バラコード、ウエイト、他	作家蔵
3	鴻池朋子	Four Seasons	2000年	鉛筆アニメーション（6分9秒）	作家蔵
4	鴻池朋子	アースベイベー	2009年 （2022年修復）	ミクストメディア	作家蔵
5	鴻池朋子	mimio-Odyssey	2005年	鉛筆アニメーション（11分30秒）	作家蔵
	鴻池朋子	冬の最後の日	1998年	鉛筆アニメーション（5分20秒）	作家蔵
6	国立療養所菊池恵楓園 絵画クラブ「金陽会」 絵画作品（97点）			出品リストはpp.86－88に別途記載	一般社団法人金陽会蔵
7	静岡県立美術館コレクション（29点）			出品リストはpp.89に別途記載	静岡県立美術館蔵
8	鴻池朋子	振り子アースベイベー初号機	2020年	ミクストメディア	作家蔵
9	鴻池朋子	凧(9点)	2018-20年	和紙、竹ひご、水彩	作家蔵
10	鴻池朋子	大島皮トンビ	2022年	牛革、アクリル、水性クレヨン	作家蔵
11	鴻池朋子	波模型	2022年	ミクストメディア	作家蔵
12	鴻池朋子	北山コンタ模型	2022年	ミクストメディア	作家蔵
13	鴻池朋子	階段模型	2022年	ミクストメディア	作家蔵
14	鴻池朋子	凧ドローイング	2020年	和紙、鉛筆	作家蔵
15	鴻池朋子	オリンピックポスター原画（部分）	2019年	紙、水彩、色鉛筆	作家蔵
16	鴻池朋子	ミツバチ、クマバチ、マルハナバチ	2022年	iPad映像	作家蔵
17	鴻池朋子	絵本『みみお』原画（原画37点の内34点）	2001年	紙、鉛筆	作家蔵
	鴻池朋子	竜巻模型	2020年	FRP	作家蔵
18	鴻池朋子	静岡県立美術館の裏山の映像	2022年	iPad映像	作家蔵
19	鴻池朋子	顔たんぼぼ	2022年	FRP、タンポポ種子、洗面器	作家蔵
20	鴻池朋子	襖絵（地球断面図流れ、竜巻、石）18面の内、石6面	2022年	雲肌麻紙、墨、アクリル絵具、石、鉛筆、胡粉、木パネル	石橋財団アーティゾン美術館蔵
21	鴻池朋子	竜巻リトグラフ	2020年	紙、リトグラフ	作家蔵

作者	作品タイトル	制作年	技法・素材	所蔵先
22 鴻池朋子	影絵灯籠（大）	2020年	紙、木、金属、モーター、電球、他	作家蔵
23 鴻池朋子	竜巻パラソル	2022年	傘、マスカー、モーター、他	作家蔵
24 鴻池朋子	セスジズメガの幼虫	2022年	iPad映像	作家蔵
25 鴻池朋子	Dream Hunting Grounds カービング壁画	2018年	シナベニア、水彩	新田安紀芳氏蔵（アート前橋寄託）
26 鴻池朋子	カービングチップ	2018年	ミクストメディア、削りくず、ドイツ箱	作家蔵
27 鴻池朋子	風が語った昔話	2015年	布、羊毛フェルト、毛糸、刺繍糸、他	作家蔵
28 鴻池朋子	どうぶつ皮絵（コウモリ、シジュウカラ）	2022年	牛革、水性クレヨン	作家蔵
29 鴻池朋子	国東半島 One Wild Day制作風景	2022年	映像	作家蔵
30 鴻池朋子	モルタルカゲ	2022年	モルタル、石	作家蔵
31 鴻池朋子	国東半島FRP模型	2021年	FRP	作家蔵
32 鴻池朋子	絵本『焚書World of Wonder』原画（19点）	2011年	紙、鉛筆	作家蔵
33 鴻池朋子	ライトボックス インスタレーション	2022年	たんばぼの綿毛、木、鉱石	作家蔵
34 鴻池朋子	ツキノワ川を登る	2018年	映像(3分16秒)	作家蔵
35 鴻池朋子	ドラえもん之歌on森吉山	2017年	映像(5分16秒)	作家蔵
36 鴻池朋子	隠れマウンテンシャイニング／S	2011年	ミクストメディア（鏡、木、スタイロフォーム、アルミ、パール、他）	作家蔵
37 鴻池朋子	ウェディングマウンテン インスタレーション	2022年	皮絵赤い水（牛皮、ミクストメディア）、山ジオラマ（大）（ミクストメディア）、高天原山（御巢鷹山）ジオラマ（ミクストメディア）、Wedding Mountain（ミクストメディア）、バームクーヘン（木）、レース編みクッション（糸、布他）、大島全景模型（ミクストメディア）、陸にあがるガラ（FRP）	作家蔵
38 鴻池朋子	触れる素材たち	2022年	すごろくボードゲーム、クッション、たんばぼ種、陶山菜、動物皮絵（テン）、FRP顔、モルタルガエル、木	作家蔵
39 鴻池朋子	深度図書館	2022年	紙	作家蔵
40 鴻池朋子	冬の歌	2022年	冬かるた（紙、色鉛筆）、物語ブローチ（紙、鉛筆、コルク）、『ワカタケル』（池澤夏樹著、日本経済新聞出版）装画（紙、鉛筆）、狼頭巾（紙、鉛筆）、己の前に立ちあらわれるすべての純潔、すべての無垢、すべての清楚を手あたり次第に踏みにじること（紙、鉛筆、水彩）、木版画 子どもの顔（紙、水性インク）、木版画 狼子ども（紙、水性インク）、ミラーモザイク頭蓋骨（ミクストメディア）、他	作家蔵
41 鴻池朋子	裏山へのいざない	2022年	静岡県立美術館建築模型、裏山ドローイング（紙、インク）、陶山菜（陶）、触れる裏山マップ（布、糸、ボタンほか）、ヘビ（毛糸）、竜巻模型（FRP）	作家蔵
42 鴻池朋子	カマキリの産卵	2022年	iPad映像	作家蔵

作者	作品タイトル	制作年	技法・素材	所蔵先
42 鴻池朋子	旅する電気屋（制作途中）	2022年	木、発砲スチロール、紙粘土、鉄、アクリル塗料、他	作家蔵
43 鴻池朋子	陸にあがる／右脚	2017年	ミクストメディア、FRP	作家蔵
44 鴻池朋子	狼ベンチ	2022年	FRP、水性塗料	作家蔵
45 鴻池朋子	陸にあがる／左脚	2017年	ミクストメディア、FRP	作家蔵
46 鴻池朋子	みみお冬眠の歌	2022年	板、インク、塗料	作家蔵
47 鴻池朋子	高松→越前→静岡皮トンビ	2022年	牛革、水性塗料、クレヨン	作家蔵
その他	動物の糞模型	2021-22年	粘土、綿、毛皮、木、他	作家蔵
その他	物語るテーブルランナー(49点) (秋田、阿仁合、奥能登、タスマニア、青森、フィンランド、大島)	2014年	布、羊毛フェルト、毛糸、刺繍糸、他	作家蔵
その他	動物の毛皮		毛皮	作家蔵
その他	毛糸の小物たち	2020年	毛糸	作家蔵
資料1	金陽会関連資料			
資料2	作家関連書籍			
資料3	学芸員テキスト			
資料4	作家テキスト「みる誕生」			

6 国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」絵画作品

No.	作家名	作品タイトル	制作年（西暦）	技法素材	寸法（高さ×幅×奥行きcm）
1	入江章子	けいとう	制作年不明	キャンバス、油彩	33.4×24.3
2	入江章子	仏像	1995年	キャンバス、油彩	45.5×37.9
3	入江章子	静物	制作年不明	キャンバス、油彩	31.8×40.9
4	入江章子	タイトル不明	制作年不明	キャンバス、油彩	33.4×24.3
5	入江章子	タイトル不明	制作年不明	キャンバス、油彩	13.9× 17.9
6	入江章子	タイトル不明	制作年不明	キャンバス、油彩	53.0×45.5
7	入江章子	人物	1977年	キャンバス、油彩	33.4×24.3
8	入江章子	ふくろう	制作年不明	キャンバス、油彩	33.4×24.3
9	入江章子	園内風景	1998年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
10	入江章子	タイトル不明	制作年不明	キャンバス、油彩	45.5×37.9
11	大山清長	白馬	2002年	キャンバス、油彩	112.1 ×145.5
12	大山清長	奄美の風景	2000年	キャンバス、油彩	45.5×53.0
13	大山清長	島の人（しまんちゅ）	1998年	キャンバス、油彩	37.9×45.5
14	奥井喜美直	漁（奄美）	2001年	キャンバス、油彩	72.7×90.9
15	奥井喜美直	タイトル不明	1997年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
16	奥井喜美直	アマダイ	1999年	キャンバス、油彩	90.9×72.7
17	奥井喜美直	夕暮れ時	2002年	キャンバス、油彩	90.9×72.7
18	奥井喜美直	ひととき	1993年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
19	奥井喜美直	家族	1991年	キャンバス、油彩	72.7×60.6
20	奥井喜美直	静物	1993年	キャンバス、油彩	53.0×45.5
21	奥井喜美直	天草の島	2005年	キャンバス、油彩	45.5×53.0
22	奥井喜美直	タイトル不明	2002年	キャンバス、油彩	53.0×65.2
23	奥井喜美直	タイトル不明	1981年	キャンバス、油彩	22.0×27.3
24	奥井喜美直	タイトル不明	1996年	キャンバス、油彩	27.3×22.0
25	奥井喜美直	タイトル不明	1996年	キャンバス、油彩	27.3×22.0
26	奥井喜美直	タイトル不明	1993年	キャンバス、油彩	22.0×27.3
27	奥井喜美直	タイトル不明	1993年	キャンバス、油彩	22.0×27.3
28	奥井喜美直	金峰山	1981年	キャンバス、油彩	31.8×40.9
29	奥井喜美直	タイトル不明	1999年	キャンバス、油彩	53.0×45.5
30	奥井喜美直	花	1991年	キャンバス、油彩	33.4×24.3
31	奥井喜美直	タイトル不明	1994年	キャンバス、油彩	33.4×24.3

No.	作家名	作品タイトル	制作年（西暦）	技法素材	寸法（高さ×幅×奥行きcm）
32	奥井喜美直	紀子の像	1991年	キャンバス、油彩	33.4×24.3
33	奥井喜美直	タイトル不明	1993年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
34	奥井喜美直	タイトル不明	1989年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
35	奥井喜美直	タイトル不明	1996年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
36	奥井喜美直	タイトル不明	2002年	キャンバス、油彩	22.7×15.8
37	奥井喜美直	タイトル不明	1994年2月10日	ボード、水彩	22.0×27.4
38表	奥井喜美直	タイトル不明	1997年	キャンバスボード、クレパス	33.4×24.0
39	奥井喜美直	タイトル不明	1982年	キャンバスボード、油彩	27.4×22.0
40	奥井喜美直	タイトル不明	1996年	キャンバスボード、油彩	41.0×32.0
41	奥井喜美直	タイトル不明	制作年不明	ダンボール、包装紙、水彩、マジック	65.3×53.1
42	奥井喜美直	貝	1990年	キャンバス、油彩	45.5×53.0
43	奥井喜美直	ゲートボール	2005年	キャンバス、油彩	45.5×53.0
44	奥井喜美直	ふるさとの風景（奄美）	1996年	キャンバスボード、油彩	60.6×72.7
45	奥井紀子	十字架	2001年	キャンバスボード、色鉛筆、クレパス	33.4×24.3
46	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	厚紙、水彩	33.0×24.1
47	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	厚紙、色鉛筆	33.0×24.1
48	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	厚紙、色鉛筆	24.1 ×33.4
49	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	キャンバスボード、クレパス	22.0×27.3
50	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	キャンバスボード、クレパス	27.3×22.0
51	奥井紀子	おとぼけわんこ	2001年	色紙、色鉛筆	19.0×24.0
52	奥井紀子	タイトル不明	2001年	色紙、色鉛筆	24.0×19.0
53	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	色紙、色鉛筆	21.2×18.1
54	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	クレヨン・ボード、ボールペン、色鉛筆	27.3×22.0
55	奥井紀子	タイトル不明	1996年	キャンバスボード、色鉛筆	22.0×27.3
56	奥井紀子	タイトル不明	制作年不明	キャンバスボード、色鉛筆	40.9×31.8
57	木下今朝義	集い	1997年	キャンバス、油彩	130.3×162.1
58	木下今朝義	島の女	1992年	キャンバス、油彩	90.9×116.7
59	木下今朝義	裸婦	1998年	キャンバス、油彩	31.8×40.9
60	木下今朝義	故郷の御堂	2000年	キャンバス、油彩	37.9×45.5
61	木下今朝義	熊本城	1992年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
62表	木下今朝義	タイトル不明	制作年不明	ボード、油彩	直径44.0
63	木下今朝義	島の療養所	2000年	キャンバス、油彩	37.9×45.5
64	木下今朝義	故郷の風景	2002年	キャンバス、油彩	53.0×45.5
65	木下今朝義	裸婦	2002年	キャンバス、油彩	53.0×45.5

No.	作家名	作品タイトル	制作年（西暦）	技法素材	寸法（高さ×幅×奥行きcm）
66	木下今朝義	母を偲ぶ	1992年	キャンバス、油彩	53.0×65.2
67	木下今朝義	タイトル不明	制作年不明	ベニヤ板、油彩	56.6×62.9
68	木下今朝義	タイトル不明	制作年不明	ベニヤ板、油彩	63.3×56.2
69	中原繁敏	命	2014年	キャンバス、油彩	145.5×112.1
70	中原繁敏	愛娘（猫）	1998年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
71	堀崎一雄	道	制作年不明	キャンバス、油彩	45.5×53.0
72	堀崎一雄	寂	2001年	紙、鉛筆	37.9×45.5
73	堀崎一雄	花	1978年	紙、色鉛筆、ペン	45.5×37.9
74	堀崎一雄	園内寸景	1987年	キャンバス、油彩	53.0×45.5
75	森繁美	納骨堂	1994年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
76	森繁美	むかし・昔 1	1996年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
77	森繁美	祭り	2004年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
78	森繁美	黒の山	2003年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
79	森繁美	ももちゃん	2002年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
80	森繁美	花	制作年不明	キャンバス、油彩	40.9×31.8
81	森繁美	タイトル不明	2005年	キャンバス、油彩	31.8×40.9
82	森繁美	ひの木	1999年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
83	矢野悟	母子	1995年	キャンバス、油彩	130.3×162.1
84	矢野悟	路	制作年不明	キャンバス、油彩	130.3×162.1
85	矢野悟	散歩道	1980年	キャンバス、油彩	45.5×37.9
86	吉山安彦	つゆ草	2014年	キャンバス、油彩	22.7×15.8
87	吉山安彦	浜ひるがお	2005年	キャンバス、油彩	15.8×22.7
88	吉山安彦	いくり	2009年	キャンバス、油彩	24.3×33.4
89	吉山安彦	山陰に咲く	2009年	キャンバス、油彩	40.9×31.8
90	吉山安彦	下弦の月	2016年	キャンバス、油彩	130.3×162.1
91	吉山安彦	陽だまり	1991年	キャンバス、油彩	60.6×72.7
92	吉山安彦	山村	1960年	ベニヤ板、油彩	65.2×53.0
93	吉山安彦	なぎさ	1999年	キャンバス、油彩	45.5×53.0
94	吉山安彦	トロンボーンの思い出	1997年	キャンバス、油彩	65.2×80.3
95	吉山安彦	月夜	1975年	キャンバス、油彩	53.0×45.5
96	吉山安彦	宵待草	2020年	キャンバス、油彩	112.1×145.5
97	吉山安彦	園内風景	制作年不明	キャンバス、油彩	31.8×40.9

所蔵は全て一般社団法人金隔会

7 静岡県立美術館コレクション

No.	作家名	作品タイトル	制作年（西暦）	技法素材	寸法（高さ×幅×奥行きcm）
1	小出梢重	静物	1917	キャンヴァス、油彩	78.4×90.8
2	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列	1716 - 1717頃	キャンヴァス、油彩	186.5×157.0(楕円)
3	川村清雄	巨岩海浜図	1912 - 1926頃	板、油彩	43.5×174.0
4	児島虎次郎	酒津の庭（水蓮）	1924 - 1928頃	キャンヴァス、油彩	81.0×65.0
5	野田好子	全き空	1962	キャンヴァス、油彩	182.0×228.0
6	伊藤隆史	生き物	1961	合板、麻布、油彩	145.0×68.0
7	曾宮一念	種子静物	1934	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
8	沖六鵬	一碧秋空雨後天	1966	紙本墨書	130.6×31.1
9	大久保婦久子	登呂の譜	1984	皮	168.8×83.0
10	森村泰昌	批評とその愛人（4）	1989	カラー写真	73.1×91.1
11	高島達四郎	たんぼぼ		紙、鉛筆、水彩	21.8×24.7
12	木村希八	題不詳	1965頃	紙、リトグラフ	25.7×18.4
13	山本鼎	鏞斧	1905	紙、木版	15.0×10.0
14	北川民次	結婚通知状	1929	紙、木版、手彩色	13.1×19.5
15	小池一誠	石	1970	石	約40.0×約190.0×約39.0 （展示した状態）
16	作者不詳	多賀城碑拓本	19世紀後半 - 20世紀前半	紙本	171.0×85.3
17	李庚	夏雨烟雲	1988	紙本墨画	各169.2×69.0
18	二橋美術	婦人奏楽	20世紀中頃	銅製、彫金打出し	各扇77.8×24.2
19	依田寿久	無題 No.3	1980	キャンヴァス、油彩	153.0×367.0
20	河原温	JAN.24, 1982. “Sunday.” “TODAY” Series No.6, 1982.	1982	キャンヴァス、アクリル	20.3×25.4
21	ダレン・アーモンド	LIKE LOVE WE SELDOM KEEP	2015	ブロンズ、塗料	20.0×165.0×3.0
22	淀井敏夫	野の兎	1967	ブロンズ	32.0×34.0×23.0
23	淀井敏夫	幼いキリン・堅い土	1985	石膏	135.0×109.0×73.0
24	中村宏	早来迎機・2	1988	キャンヴァス、アクリル、 マジックペン	112.0×162.0
25	小糸源太郎	東海	1975	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
26	田中敦子	1985A	1985	綿布、合成樹脂エナメル 塗料	218.5×333.3
27	石田徹也	燃料補給のような食事	1996	板、アクリル	145.6×206.0
28	小谷元彦	SP1 ‘Beginning’ (The Whorl of Lanugo01)	2007	アルミニウム鋳造、鉛、パー ル塗料	93.0×93.0×10.0
29	鈴木慶則	非在のタブロー（キリコに よる）	1967	キャンヴァス、油彩、木	101.8×82.0×8.0 251.2×85.4 イーゼル

近代の誘惑－日本画の実践

2月18日（土）～3月26日（日）

No. 作家名	生没年	作品名	制作時期（西暦）	材質	形状	員数	寸法（cm）	所蔵
第1章 幕末から明治へ 1 二つの時代を生きた画家								
1 狩野立信	1814-1891（文化11-明治24）	（傲雪舟）梅潜寿老図	1858-91（安政5-明治24）	絹本着色	掛幅装	1幅	117.2×61.2	個人蔵
2 狩野雅信	1823-1879（文政6-明治12）	花鳥図	19世紀半ば（江戸後期）	絹本着色	掛幅装	1幅	168.9×84.3	
3 狩野芳崖	1828-1888（文政11-明治21）	江山春色図（～3/5展示）	19世紀後半（明治前期）	絹本墨画	掛幅装	1幅	76.8×101.9	個人蔵
4 狩野芳崖	1828-1888（文政11-明治21）	寿老人図（3/7～展示）	1881-85（明治14-18）頃	紙本墨画淡彩	掛幅装	1幅	183.2×78.5	
5 菊池容斎	1788-1878（天明8-明治11）	蒙古襲来之図	1862（文久2）	絹本淡彩	掛幅装	1幅	161.2×83.2	
6 菊池容斎	1788-1878（天明8-明治11）	楠正成笠置山参朝之図	1872（明治5）	絹本着色	掛幅装	1幅	116.8×37.9	
7 菊池容斎	1788-1878（天明8-明治11）	中大兄皇子と中臣鎌足	1875（明治8）	絹本着色	掛幅装	1幅	103.2×34.4	
8 田中日華	?-1845（?-弘化2）	山水図押絵貼屏風	19世紀（江戸時代後期）	紙本墨画淡彩	屏風装	6曲1双より左隻	各図130.3×51.1	個人蔵
9 塩川文麟	1808-1877（文化5-明治10）	琵琶湖八勝図	1853（嘉永6）	絹本墨画淡彩	掛幅装	1幅	52.3×85.0	
10 長谷川玉峰	1822-1879（文政5-明治12）	四条夕涼図	19世紀後半（江戸末期-明治初期）	絹本着色	掛幅装	1幅	129.5×56.6	個人蔵
11 鈴木松年	1848-1918（嘉永1-大正7）	神武天皇・素戔嗚尊図屏風	1889（明治22）	絹本着色	屏風装	6曲1双	各153.0×359.8	個人蔵
12 小林清親	1847-1915（弘化4-大正4）	駿河湖日没の富士（3/7～展示）	1879（明治12）	紙、木版、色摺	大判錦絵（2枚続）	2枚続	右36.5×24.7 左36.6×24.7	
13 小林清親	1847-1915（弘化4-大正4）	従箱根山中富嶽眺望（～3/5展示）	1880（明治13）	紙、木版、色摺	大判錦絵	1枚	25.0×36.8	
第1章 幕末から明治へ 2 明治後期 “日本画”の成立								
14 下条桂谷	1842-1920（天保13-大正9）	勅題新年河図	1906（明治39）	絹本墨画	掛幅装	1幅	56.5×132.3	個人蔵
15 滝和亭	1832-1901（天保3-明治34）	玉堂富貴図	1883（明治16）	絹本着色	掛幅装	1幅	160.5×82.3	個人蔵
16 荒木十畝	1872-1944（明治5-昭和19）	蓬莱山図	1904（明治37）	絹本着色	掛幅装	1幅	127.5×51.5	
17 富岡鉄斎	1836-1924（天保7-大正13）	蜀國栈道図	1905（明治38）頃	絹本着色	掛幅装	1幅	172.7×96.0	
18 川端玉章	1842-1913（天保13-大正2）	桜双鶏図	1901（明治34）	絹本着色	掛幅装	1幅	155.6×82.7	個人蔵
19 橋本雅邦	1835-1908（天保6-明治41）	三井寺	1894（明治27）	紙本着色	掛幅装	1幅	130.5×64.0	
20 下村観山 横山大観	1873-1930（明治6-昭和5） 1868-1958（明治1-昭和33）	日・月蓬莱山図	1900（明治33）	絹本墨画淡彩	掛幅装	双幅	各98.0×154.0	
21 渡辺省亭	1851-1918（嘉永4-大正7）	十二ヶ月花鳥図	20世紀初期（明治40年代-大正期）	絹本着色	掛幅装	12幅対	各139.9×55.4	個人蔵
第2章 大正の展開 1 文展と再興院展								
22 今村紫紅	1880-1916（明治13-大正5）	宇津の山路	1912（明治45）	絹本着色	掛幅装	1幅	126.5×50.4	
23 山内多門	1878-1932（明治11-昭和7）	山家秋色図	1915（大正4）	紙本墨画淡彩	掛幅装	1幅	184.6×73.7	個人蔵
24 寺崎広業	1866-1919（慶応2-大正8）	山水図	20世紀初期（明治末期-大正期）	絹本金地着色	屏風装	6曲1双	各168.3×372.0	個人蔵

No. 作家名	生没年	作品名	制作時期（西暦）	材質	形状	員数	寸法（cm）	所蔵
25 横山大観	1868-1958（明治1-昭和33）	群青富士	1917-18（大正6-7）頃	絹本金地着色	屏風装	6曲1双	各176.0×384.0	
26 尾竹竹坡	1878-1936（明治11-昭和11）	乳供養	1914（大正3）	紙本着色	屏風装	6曲1双	各162.6×371.8	個人蔵
27 近藤浩一路	1884-1962（明治17-昭和37）	東山栗田口	1925（大正14）	紙本墨画	掛幅装	1幅	72.0×84.0	
第2章 大正の展開 2 京都市立絵画専門学校と国画創作協会								
28 都路華香	1870-1931（明治3-昭和6）	松風村雨	1905（明治38）	絹本着色	屏風装	6曲1双	各152.6×357.6	個人蔵
29 谷口香嶠	1864-1915（元治1-大正4）	宇治・通天図	19世紀末期-20世紀初期（明治期）	絹本着色	屏風装	4曲1双	各132.0×243.0	個人蔵
30 竹内栖鳳	1864-1942（元治1-昭和17）	揚州城外	1922（大正11）	絹本着色	掛幅装	1幅	55.0×71.2	
31 土田麦僊	1887-1936（明治20-昭和11）	山水	1914（大正3）	絹本着色	掛幅装	1幅	128.0×42.4	個人蔵
32 野長瀬晩花	1889-1964（明治22-昭和39）	藤花山水	1920（大正9）頃	紙本着色	掛幅装	1幅	139.4×67.3	個人蔵
33 入江波光	1887-1948（明治20-昭和23）	草園の朝	1926（大正15）	絹本着色	掛幅装	1幅	133.4×41.5	
34 村上華岳	1888-1939（明治21-昭和14）	春峰晴煙図	1928（昭和3）	紙本淡彩	掛幅装	1幅	43.7×60.9	
35 山元春挙	1872-1933（明治5-昭和8）	松図	20世紀初期（明治40年代-大正初期）	紙本金地墨画	屏風装	6曲1双	各166.1×375.6	個人蔵
36 橋本閑雪	1883-1945（明治16-昭和20）	摘瓜図	1920年代（大正末期-昭和初期）	絹本着色	掛幅装	1幅	156.2×43.0	
37 菊池契月	1879-1955（明治12-昭和30）	観菊図	1935（昭和10）頃	絹本着色	掛幅装	1幅	131.6×57.7	
第3章 昭和の日本画 1 昭和初期 古典憧憬と洗練								
38 松岡映丘	1881-1938（明治14-昭和13）	今昔ものがたり伊勢図	1929（昭和4）	絹本着色	掛幅装	1幅	85.5×143.3	
39 吉川霊華	1875-1929（明治8-昭和4）	浣紗溪	1926（大正15）	紙本墨画淡彩	掛幅装	1幅	58.8×87.5	個人蔵
40 平福百穂	1877-1933（明治10-昭和8）	清流行舟	1920年代後半-30年代前半（昭和初期）	紙本墨画淡彩	掛幅装	1幅	131.9×64.1	個人蔵
41 結城素明	1875-1957（明治8-昭和32）	赤壁横江	1920年代後半-30年代前半（昭和初期）	絹本着色	掛幅装	1幅	156.8×70.0	個人蔵
42 泥谷文景	1899-1951（明治32-昭和26）	前後赤壁図	1931（昭和6）	紙本墨画淡彩	屏風装	6曲1双	各177.5×373.2	個人蔵
43 松林桂月	1876-1963（明治9-昭和38）	夜桜（春宵花影）	1920年代後半-30年代前半（昭和初期）	絹本墨画	掛幅装	1幅	57.5×71.2	個人蔵
44 木村武山	1876-1942（明治9-昭和17）	羽衣	1920年代後半-30年代前半（昭和初期）	絹本着色 金泥引	屏風装	6曲1双	各169.5×375.0	
45 中村岳陵	1890-1969（明治23-昭和44）	牡鹿啼く	1930（昭和5）	紙本着色	屏風装	2曲1双	各163.6×162.1	
46 中村岳陵	1890-1969（明治23-昭和44）	婉膩水韻	1931（昭和6）	紙本着色	屏風装	6曲1隻	153.0×368.1	
47 中村貞以	1900-1982（明治33-昭和57）	朧	1934（昭和9）	絹本着色	屏風装	2曲1双	各188.0×190.4	個人蔵
第3章 昭和の日本画 2 戦中・戦後から現代へ								
48 奥村土牛	1889-1990（明治22-平成2）	八瀬の牛	1939（昭和14）	絹本着色	額装	1面	113.5×86.0	個人蔵
49 川合玉堂	1873-1957（明治6-昭和32）	田植図	1945-54（昭和20年代）	絹本着色	掛幅装	1幅	54.4×72.5	
50 安田靉彦	1884-1978（明治17-昭和53）	不動明王像	1942（昭和17）頃	紙本着色	掛幅装	1幅	148.0×54.0	
51 鏑木清方	1878-1972（明治11-昭和47）	朝顔日記	1939（昭和14）	紙本淡彩	画帖装（10段）	1帖	詞書 24.2×33.2 ほか 絵 24.6×33.7 ほか	

No. 作家名	生没年	作品名	制作時期（西暦）	材質	形状	員数	寸法（cm）	所蔵
52 郷倉千靱	1892-1975（明治25-昭和50）	臥龍梅	1944（昭和19）	紙本着色	屏風装	6曲1双	各158.5×352.2	
53 郷倉千靱	1892-1975（明治25-昭和50）	臥龍梅 小下絵	1944（昭和19）以前	紙本墨画淡彩	屏風装	2曲1隻	24.7×82.0	
54 野島青茲	1915-1971（大正4-昭和46）	博物館	1949（昭和24）	紙本着色	額装	1面	181.8×227.3	
55 中村岳陵	1890-1969（明治23-昭和44）	磯	1965（昭和40）	紙本着色	額装	1面	72.8×100.0	
56 徳岡神泉	1896-1972（明治29-昭和47）	雨	1964（昭和39）	紙本着色	額装	1面	110.7×143.7	
57 福田平八郎	1892-1974（明治25-昭和49）	雪庭	1958（昭和33）	紙本着色	額装	1面	56.0×81.0	
58 秋野不矩	1908-2001（明治41-平成13）	ガンガー（ガンジス河）	1979（昭和54）	紙本着色	額装	1面	148.0×266.5	

収蔵品展

新収蔵品展

5月24日（火）～7月18日（月・祝）

No.	作者名	作品名
1	狩野探幽	王冕原本 墨梅図 ★
2	狩野尚信	西湖図屏風（右隻）
3	狩野安信	太公望・鳳凰・孔雀図 ◎
4	狩野安信ほか	名画集 ※
5	狩野栄信・養信	唐画流書手鑑 ※
6	狩野養信	東方朔・山水図
7	狩野中信	倣狩野元信 山水図 ◎
8	狩野永恵立信	（倣日観）葡萄図 ★
9	ジョヴァンニ・アントニオ・カナル（カナレット）	ドーロ風景
10	ジョヴァンニ・アントニオ・カナル（カナレット）	ランタンのあるボルティコ ★
11	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ
12	ルイ・ジャン・デブレフランチェスコ・ピラネージ	ポッツォーリのセラピス神殿 ★
13	フランチェスコ・ピラネージ	今日、ポンペイの古代遺跡の中にある、イシス神殿の景観
14	中西夏之	韻-H ★
15	中西夏之	グレーの中の白い旋回-Ⅲ ★
16	中村宏	人面動物 ★
17	中村宏	車窓篇 TYPE 4
18	中村宏	記号2 ★
19	中村宏	早来迎機・2
20	中村宏	早来迎機・3
21	中村宏	告示（2） ★
22	齊藤司郎	（作品名不詳） ★
23	駒井哲郎	消えかかる夢 ★
24	駒井哲郎	佛国風景
25	駒井哲郎	樹
26	駒井哲郎	コミック 1

◎は個人蔵、他はすべて当館所蔵品

27	駒井哲郎	芽生えⅡ
28	駒井哲郎	鳥と果実（小）
29	駒井哲郎	小さな庭
30	駒井哲郎	雲
31	駒井哲郎	残雪譜
32	駒井哲郎	〈鶴原抄〉フロントピース
33	駒井哲郎	橋
34	駒井哲郎	夕立
35	駒井哲郎	枝おろし
36	駒井哲郎	腐刻画＜人それを呼んで反歌という＞P L. 1 1
37	駒井哲郎	岩礁にて ★
38	駒井哲郎	樹 ★

★は新収蔵品 ※半期で場面替え

絶景考Ⅰ

7月20日（水）～9月19日（月・祝）

No.	作者名	作品名
1	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
2	ヤーコプ・ファン・ライスダール	小屋と木立のある田舎道
3	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景
4	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
5	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
6	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
7	サルヴァートル・ローザ	川のある山岳風景
8	クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
9	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ
10	フランソワ・ブーシェ	水車のある風景
11	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
12	ジャン＝ジョゼフ＝グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景
13	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
14	ジョン・マーティン	ミルトン作『失楽園』：万魔殿の出現 ▲

15	ジョン・マーティン	ミルトン作『失樂園』：朝の祈りを唱えるアダムとイヴ ▲
16	ジョン・マーティン	ミルトン作『失樂園』：神の宮殿 △
17	ジョン・マーティン	ミルトン作『失樂園』：天国－祝福の河 △
18	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティチからヴェスヴィオ山を望む ※
19	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没 ※
20	ウジェーヌ・イザベイ	『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅』より オーヴェルニュ I, II : ポン＝ギボーの城 ▲
21	ウジェーヌ・イザベイ	『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅』より オーヴェルニュ I, II : サン＝ネクターの教会堂 ▲
22	ウジェーヌ・イザベイ	『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅』より オーヴェルニュ I, II : 廃墟の城とサン＝ネクターの村 △
23	ウジェーヌ・イザベイ	『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅』より オーヴェルニュ I, II : ポリニャックの城楼 △
24	アレクサンドル＝イアサント・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め ※
25	ピエール＝エティエンヌ＝テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家 ※
26	ジャン＝フランソワ・ミレー	バルビゾン近郊の羊飼いと羊たち ◎ ※
27	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
28	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロドー	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近
29	カール・ドービニー	川岸の風景
30	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
31	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
32	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
33	ジュリアン・デュプレ	農場の風景 ◎

▲ 8月16日（火）まで展示。△ 8月17日（水）より展示。
※ 8月15日以降は事情により展示中止。

絶景考Ⅱ

9月21日（水）～11月20日（日）

No.	作者名	作品名
1	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
2	クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
3	ジャン＝ジョゼフ＝グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景
4	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの
5	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : グラ通り、クレルモン ▲

6	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : ポリニャックの城楼 ▲
7	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : サン＝ネクターの教会堂後陣 ▲
8	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : サン＝ジャン教会堂、ティエール △
9	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : ブゾール城の廃墟 △
10	ウジェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュ I, II : ショードゼーグの十字架 △
11	ピエール＝エティエンヌ＝テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家
12	ジャン＝フランソワ・ミレー	バルビゾン近郊の羊飼いと羊たち ◎
13	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
14	シャルル＝フランソワ・ドービニー	アトリエ舟で行く：アニエール、出発前の朝食 △
15	シャルル＝フランソワ・ドービニー	アトリエ舟で行く：綱を引っ張る見習水夫 ▲
16	シャルル＝フランソワ・ドービニー	アトリエ舟で行く：蒸気船 ▲
17	シャルル＝フランソワ・ドービニー	アトリエ舟で行く：パリに戻る △
18	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
19	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
20	フランソワ・ブーシェ	水車のある風景
21	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
22	ジュリアン・デュプレ	農場の風景 ◎
23	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
24	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
25	ポール・シニャック	サン＝トロベ、グリモーの古城
26	ハイム・スーチン	カーニュ風景
27	長谷川潔	南仏風景
28	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
29	清水登之	セーヌ河畔
30	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
31	原勝郎	パリ風景
32	原勝郎	パリの街角
33	原勝郎	バガテル公園、パリ
34	都鳥英喜	モンティニーの秋
35	平賀亀祐	風景（プロマー・ドワルヌ）

36	高島達四郎	エトルタ
▲10月16日(日)まで展示。△10月18日(火)より展示。		
11月22日(火)～2023年1月9日(日)は「輞川図と蘭亭曲水図」展を開催。(出品目録はp.96参照)		

光－The Light

2023年2月14日(火)～4月9日(日)

No.	作者名	作品名
1	大庭大介	LOG (Icefall)
2	大庭大介	THE BATTLE STAGE
3	嵯峨篤	Inside/004 (松風)
4	嵯峨篤	Inside/006 (夕顔)
5	宮脇愛子	作品
6	アンゼラム・キーファー	極光
7	オノデラユキ	Annular Eclipse－Bear ◎
8	オノデラユキ	Annular Eclipse－Horse ◎
9	森万里子	Higher Being I
10	名和晃平	PixCell-Deer#47
11	ダレン・アーモンド	Civil Dawn@Mt. Hiei. 7
12	ダレン・アーモンド	Civil Dawn@Mt. Hiei. 8
13	オノデラユキ	ミツバチ － 鏡 No.3 ◎
14	オノデラユキ	真珠のつくり方 No.7 ◎
15	オノデラユキ	窓の外を見よ No.6 ◎
16	オノデラユキ	窓の外を見よ No.11 ◎
17	オノデラユキ	窓の外を見よ No.12 ◎
18	オノデラユキ	窓の外を見よ No.21 ◎
19	オノデラユキ	液体とコップ No.10 ◎
20	オノデラユキ	Camera No.1 ◎
21	マン・レイ	顔を塗った二人のヌード 5 ◎
22	マン・レイ	鏡 10 ◎
23	マン・レイ	ジャコメッティ (ソラリゼーション) ◎
24	マン・レイ	女性の顔 1 ◎
25	マン・レイ	女性の顔 7 ◎

26	マン・レイ	女性のポートレート ◎
27	マン・レイ	ソラリゼーション 15 ◎

名品コーナー

No.	作者名	作品名
5月24日(火)～7月18日(月・祝)		
	石田徹也	引き出し
	金山平三	千曲川 (信濃路の春)
	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
7月20日(水)～9月19日(月・祝)		
	新海竹太郎	農夫
	柳原義達	道標・鳩
	淀井敏夫	野の兎
9月21日(水)～10月25日(火)		
	山田抱玉	江ノ島雪景図
	斎藤義重	作品2
	小林和作	秋山
11月3日(木・祝)～2023年1月9日(日)は「鴻池朋子 みる誕生」展出品作品を展示。(出品目録はpp.83～89参照)		
2023年2月14日(火)～4月9日(日)		
	平山郁夫	秋天東寺五重塔
	香月泰男	冬鳥
	ジョアン・ミロ	シウラナの教会

《輞川図巻》修理後初公開 静岡県・浙江省友好提携40周年記念
輞川図と蘭亭曲水図

11月22日（火）～令和5年1月9日（月・祝）

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（cm）	所蔵先
1		輞川図巻	17世紀（明時代 - 清時代）	絹本着色	29.5×472.3	当館蔵
2	伝趙伯驩	仙山楼閣図巻	17世紀（明時代 - 清時代）	絹本着色	53.5×532.3	個人蔵
3	伝仇英	上林賦図巻	17世紀（明時代 - 清時代）	絹本着色	49.1×1163.0	個人蔵
4	伝文徵明	瀟湘八景図巻	17世紀（明時代）	絹本着色	29.4×226.8	個人蔵
5	狩野永納	蘭亭曲水図屏風	17世紀後半（江戸時代前期）	紙本金地着色	各153.5×359.0	当館蔵
6	久隅守景	蘭亭曲水図屏風	17世紀後半（江戸時代前期）	紙本墨画淡彩	各153.6×357.6	当館蔵
7	池大雅	蘭亭曲水・龍山勝会図屏風	1763（宝暦13）	紙本着色	各158.0×358.0	当館蔵
8	狩野永納	三教図	1652（承応1）	絹本着色	141.1×78.5	当館蔵
9	久隅守景	山水図	17世紀後半（江戸時代前期）	紙本墨画	各20.0×24.0	個人蔵
10	久隅守景	山水図	17世紀後半（江戸時代前期）	紙本墨画淡彩	123.1×53.2	個人蔵
11	久隅守景	鍋冠祭図押絵貼屏風	17世紀後半（江戸時代前期）	紙本着色	各扇124.8×51.4	個人蔵
12	池大雅	蘭亭曲水図	18世紀（江戸時代中期）	紙本着色	133.4×56.7	個人蔵
13	愛石	倣池大雅 蘭亭曲水図	19世紀（江戸時代後期）	絹本着色	125.1×44.6	個人蔵
14	池大雅	山中訪隠図	18世紀（江戸時代中期）	紙本淡彩	172.1×366.8	個人蔵
15	池大雅	倣董太史 富岳図	18世紀（江戸時代中期）	紙本墨画	128.3×57.3	個人蔵
16	池大雅	倣巨然 稻荷山図（京都名勝六景のうち）	18世紀（江戸時代中期）	紙本墨画	128.4×52.5	個人蔵

移動美術展「富士から世界へ、風景を巡る」

11月19日（土）～11月27日（日）

No.	作家名	作品名	制作年（西暦）	材質・技法	寸法（平面：タテ×ヨコ 立体：高さ×幅×奥行cm）
伊藤若冲					
1	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風（複製）	18世紀（原本）	紙本着色（原本）	（右）137.5×355.6 （左）137.5×366.2
富士山賛歌					
2	和田英作	富士	1918	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2
3	梅原龍三郎	暁天（富士山・大仁）	1944－56頃	紙本着色	46.3×33.0
4	横山大観	富士山	1950－1955頃	絹本着色	58.7×73.7
5	東山魁夷	秋富士	1955	絹本着色	66.6×88.1
6	石川直樹	Mt. Fuji #38	2008	C-print	90.0×112.0
7	石川直樹	Mt. Fuji #41	2008	C-print	90.0×112.0
8	石川直樹	Mt. Fuji #48	2008	C-print	90.0×112.0
9	石川直樹	Mt. Fuji #55	2008	C-print	90.0×112.0
10	石川直樹	Mt. Fuji #80	2008	C-print	90.0×112.0
富士市ゆかりの作家：野田好子と山口源					
11	山口源	失題【いちょう】	1951	紙、物体版画	36.5×27.0
12	山口源	失題【裸婦と手】	1950頃	紙、木版	40.5×34.5
13	山口源	春来る丘	1942	紙、多色木版	33.0×44.5
14	山口源	ざくろ	1943	紙、多色木版	33.0×45.0
15	山口源	失題【とかげ】	1946	紙、多色木版	28.3×28.3
16	野田好子	海辺（富士山のスケッチより）	1953	キャンヴァス、油彩	91.0×72.7
17	野田好子	浅間（富士山のスケッチより）	1986	紙、水彩	51.0×36.0
18	野田好子	朝霧高原（富士山のスケッチより）	1987	紙、水彩	51.0×36.0
19	野田好子	富士市役所（富士山のスケッチより）	1988	紙、水彩	51.0×36.0
20	野田好子	黄金海岸（富士山のスケッチより）	1995	紙、水彩	51.0×36.0
21	野田好子	熊久保発電所（富士山のスケッチより）	1999	紙、水彩	51.0×36.0
様々な風景					
22	ラファエル・コラン	想い	1904	キャンヴァス、油彩	
23	栗原忠二	緑陰水浴		キャンヴァス、油彩	45.3×60.8
24	田中保	セーヌの宵	1920	キャンヴァス、油彩	54.5×65.4
25	原勝郎	ノートル・ダム寺院（パリ）	1922－1939	キャンヴァス、油彩	52.8×43.2

No.	作家名	作品名	制作年（西暦）	材質・技法	寸法（平面：タテ×ヨコ×奥行、 立体：高さ×幅×奥行cm）
26	原勝郎	風景	1930	キャンヴァス、油彩	73.0×92.0
27	原勝郎	セーヌ河畔	1935	キャンヴァス、油彩	45.8×60.3
28	鹿子木孟郎	紀州勝浦	1910	キャンヴァス、油彩	59.0×74.8
29	山本森之助	海岸	1912－1914頃	キャンヴァス、油彩	60.7×80.5
30	平塚運一	伊豆梅林	1933	キャンヴァス、油彩	50.0×60.5
31	秋野不矩	天竜川	1935	絹本着色	43.7×55.0
32	島戸繁	静かな漁港	1959頃	キャンヴァス、油彩	53.0×45.7
33	高畠達四郎	伊豆下田港	1976	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3
ロダンと西洋					
34	オーギュスト・ロダン	考える人	1880	ブロンズ	h37.2×28.6×23.6
35	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	オーギュスト・ロダンの肖像	1914頃	リトグラフ、紙	64.3×48.5
36	ファン・グリス	果物皿と新聞	1918	キャンヴァス、油彩	92.2×66.0
37	ジョルジュ・ブラック	Bass	1911	紙、エッチング、ドライポイント	45.5×32.6
38	パブロ・ピカソ	ダヴィデとバテシバ	1949	紙、リトグラフ	61.1×48.2
静岡の現代美術					
39	鈴木慶則	非在のタブロー（マグリットによる）	1967	キャンヴァス、油彩	122.0×96.5×4.6
40	鈴木慶則	非在のタブロー－空	1967	木、キャンヴァス、油彩	130.7×162.2
41	前田守一	作品（青）	1967	木、塗装	91.0×160.5
42	前田守一	作品（赤）	1967	木、塗装	167×99.5
43	前田守一	バサッ	1969	木、塗装	157.3×45.7×9.5cm×2個
44	飯田昭二	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0×50.1
45	飯田昭二	Half and Half（ハンドバック）	1968（2012年に一部加筆）	鳥籠、鏡、ハンドバック	48.0×50.0×50.1

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

平成24年3月23日条例第1号

平成26年3月28日条例第29号

平成31年3月26日条例第18号

令和5年3月29日条例第14号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を

受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不適当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)
(協議会の委員)
第14条 委員の定数は、15人以内とする。
2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3 委員は、再任されることができる。
(一部改正〔平成24年条例第1号〕)
(委任)
第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則
この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月29日条例第43号)
1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成3年3月19日条例第2号)
1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則(平成4年3月25日条例第14号)
1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成8年3月28日条例第11号)
(平成24年3月23日条例第1号)
1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成11年3月19日条例第16号)
1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成13年7月24日条例第45号)
この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成15年3月12日条例第2号)
この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則(平成17年7月15日条例第49号)
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成22年3月26日条例第23号)
この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日条例第1号)
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月23日条例第29号)
1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成31年3月26日条例第18号)
1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和5年3月29日条例第14号)
この条例は、令和5年4月1日から施行する。
別表第1(第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
2 団体とは、20人以上をいう。
3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2(第5条関係)

利 用 区 分	特 別 観 覧 料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）
（一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・
11年16号・13年45号・15年2号・31年18号〕）
(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,750円	14,050円	21,800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則

平成3年3月26日
規則第24号

改正 平成5年3月25日規則第13号
平成6年3月10日規則第5号
平成9年3月28日規則第51号
平成12年3月31日規則第17号
平成13年7月24日規則第59号
平成20年3月31日規則第19号
令和元年7月1日規則第4号
令和3年3月26日規則第5号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施
行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び
使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以
下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定める
ものとする。

（開館時間及び休館日）

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開
館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美
術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める
場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、
若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただ
し、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭

和23年法律第178号）に規定する休日に当たるとき
は、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、
条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付
を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体
については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしよう
とする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧
承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認
書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等
を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号に
よる県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出し
なければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、
県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交
付するものとする。

（使用の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対
して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷
するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があ
ると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承
認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その
権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速
やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければなら
ない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取
消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由
により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美
術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害
を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次
の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、そ
の減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健

福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

- (2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）
- (5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。
- (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

様式第 1 号（第 4 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年 17 号・令和元年 4 号〕）

特別観覧承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様
住所
氏名
電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名			点数
特別観覧 の 目 的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年	月	日	時から 時から	時まで 時まで
内 訳	模 写	点	日	円	合 計 円
	模 造	点	日	円	
	撮 影	点	回	円	
	熟 覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	
備考					

様式第 2 号（第 5 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年 17 号・令和元年 4 号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（A・B）				講堂
使 用 期 間	年	月	日（ ）	時	分から
	年	月	日（ ）	時	分まで
				日間	
入場料等の徴収の有無	有・無				円
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第 3 号（第 10 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号・3 年 5 号〕）

観覧料等減免申請書
年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減 免 申 請 の 区 分	観覧料	特別観覧料	使用料		
申 請 の 理 由					
日	年	月	日 ()	時	分から
時	年	月	日 ()	時	分まで
観 覧 人 員	人				
県民ギャラリー等使用の場合 は、推定入場人員	人				
責 任 者 氏 名					
責 任 者 電 話 番 号					
観 覧 料 等	円				
減 免 申 請 額	円				

様式第 4 号（第 11 条関係）
（用紙 日本工業規格 A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号・3 年 5 号〕）

特別観覧料 還付申請書
使 用 料

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その
主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名〕

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
使 用 料

特別観覧承認書等の 年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規定を定める。

(利用範囲)

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、午後は、13時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

(備品の管理)

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(原状回復義務)

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検を受けなければならない。残留された物品に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

(1) 美術品の選定に関すること。

(2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長

及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長にはスポーツ・文化観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。

別表

スポーツ・文化観光部長 部長代理 文化局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

- 2 委員の人数は、10名以内とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、知事が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。
- 3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。
- 4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。
- 2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）の運営に関し、静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱（以下「要綱」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。（報償費及び旅費）

第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長 12,000円

その他の委員 11,100円

要綱第5条第4項の規定に基づき

会議に出席した者 11,100円

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会における検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、別に定める報償費及び旅費を支給することができる。

(文書等の記号及び番号)

第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、記号及び番号を付するものとする。

(1) 記号は「三評」とする。

(2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

組織・名簿

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常 勤		1 人	8 人	11人	20人
非常勤	1 人			3 人	4 人

■美術館協議会委員

日比野 秀 男	掛川市二の丸美術館館長
	掛川市ステンドグラス美術館館長
堀 切 正 人	常葉大学教育学部教授
漁 田 俊 子	静岡産業大学経営学部教授
石 川 善太郎	(株)静岡新聞社編集局長兼出版部長
石 塚 正 孝	グランシップ館長
見 城 秀 明	静岡市立小中学校校長会代表（静岡市立伝馬町小学校校長）
木 苗 直 秀	静岡県文化協会会長
曾 根 正 弘	静岡県立美術館友の会会長
立 田 洋 司	地域連携機関（ムセイオン）代表
角 田 裕之介	全国報道機関代表 （NHK静岡放送局長）
富 澤 か な	静岡県立大学国際関係学部准教授
宮 本 宗 明	高等学校美術・工芸教育研究会会長 （県立浜松江之島高等学校校長）
望 月 宏 明	（社）静岡県観光協会 専務理事

■専門委員

榊 原 悟	岡崎市美術博物館館長・おかざき世界子ども美術博物館特任館長
栗 田 秀 法	名古屋大学大学院人文学研究科教授
潮 江 宏 三	京都市立芸術大学名誉教授
建 畠 哲	埼玉県立近代美術館館長
	多摩美術大学学長
山 梨 絵美子	千葉市美術館長

■資料評価委員

京 極 仁 志	静岡県スポーツ・文化観光部長
都 築 直 哉	静岡県スポーツ・文化観光部部長代理
田 中 真 生	静岡県スポーツ・文化観光部文化局長
小 澤 和 久	静岡県文化政策課長
長 澤 由 哉	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	木 下 直 之
副 館 長	長 澤 由 弥
総 課 長	飯 田 一 昭
総 務 班 長	福 與 寿 彦
主 任	加 藤 小百合
主 任	大 石 孝 洋
主 事	深 澤 史 織
管 理 班 長	三 輪 桂
主 任	落 合 芳 彦
主 任	菅 沼 元 詳
学 芸 課 長	石 上 充 代
上席学芸員	南 美 幸
上席学芸員	新 田 建 史
上席学芸員	泰 井 良
上席学芸員	野 田 麻 美
主任学芸員	喜 多 孝 臣
主 幹	奥 村 祐 喜
上席学芸員	川 谷 承 子
上席学芸員	植 松 篤
主任学芸員	貴 家 映 子
主任学芸員	浦 澤 倫太郎

■会計年度任用職員

中 島 友 絵
馬 場 夢 乃
中 村 紀代美

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	10,719
共催展収入	27,826
県民ギャラリー等使用料	3,718
財産売却・貸付・運用収入	489
助成金等	19,559
その他	2,029
計	64,340

項 目	金 額
管理費	274,203
運営費	45,789
施設管理費	228,414
事業費	71,192
企画展事業費	46,800
常設展事業費	6,052
資料・普及事業費	18,340
館蔵品取得費	0
施設整備費	161,822
基金積立	72
計	507,289

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地 敷 地 構 造 ・ 規 模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内（約130,000㎡） 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、タ イル打込P C板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺、トップライト（アルミ、 複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ 300KVA、3φ400KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力300KVA3φ3W6,600V 10KW×2台 太陽光発電設備 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電 サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料（ビデオ）、電 話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火 報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、 防災アンプ（360W）、ITV監視装置、 地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ280K VA、3φ350KVA 契約電力620KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200KVA3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館者表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT、 40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30 USRT）、空気熱源回収型スクルー 式ヒートポンプ冷凍機（100USRT）、 プレート式熱交換機（396,300Kcal/h） 蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及び パッケージ型1台、ファンコイルユニッ ト46台、他空冷ヒートポンプパッケー ジエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT） 2基、蒸気ボイラー（250Kg/h）2基、 空冷チラーユニット（3.77USRT）プ レート式熱交換機（86,000Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交 換機（3台）
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12㎡ （二槽式） 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5㎡ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	乗 用 ロープ式11人乗750kg 荷 物 用 油圧式3,000kg	乗 用 油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

区 分	本館	ロダン館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（70席 198㎡）・情報コーナー（39席 92.3㎡）

レストラン「Rodin TERRACE」は、㈱なすびが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、壁ごとに調光可能となっている。

令和3年度の改修工事において、天井に配置してあるライティング・ダクトの位置を見直すとともに、LED照明に更新し、より機能的な照明環境となった。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

画像・映像映写設備、音響設備がある。

授乳室（15.21㎡）

乳児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、授乳室を開設している。

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は20時まで）

・ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

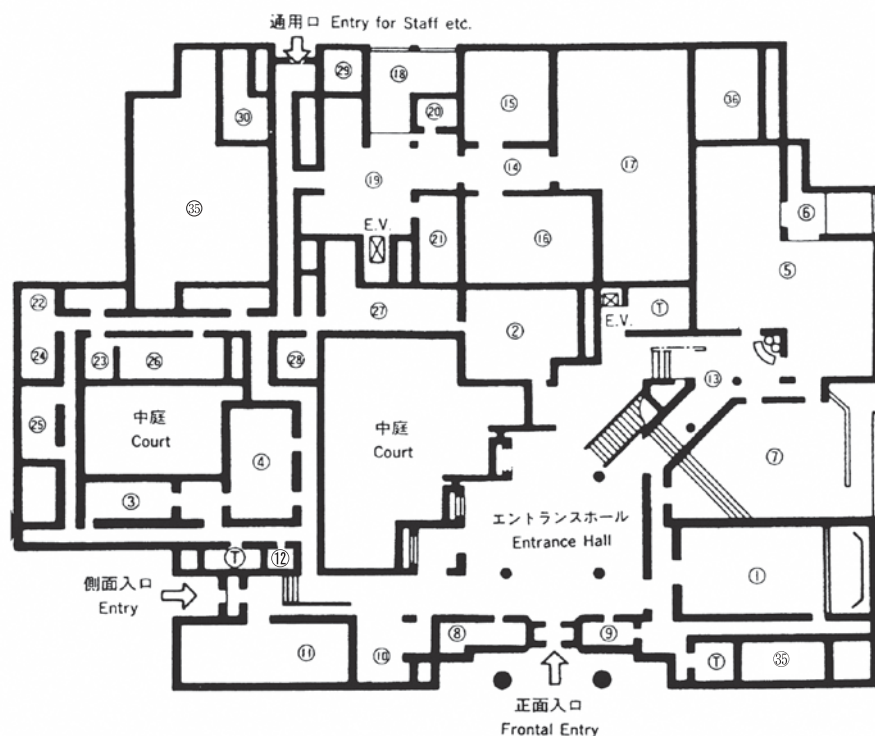
ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

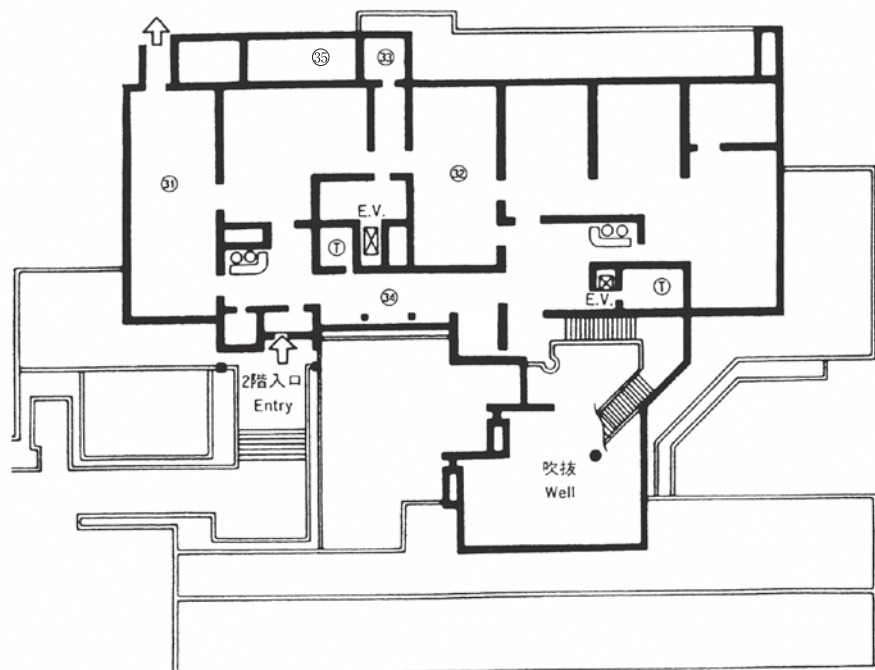
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ 情報コーナー Information Corner

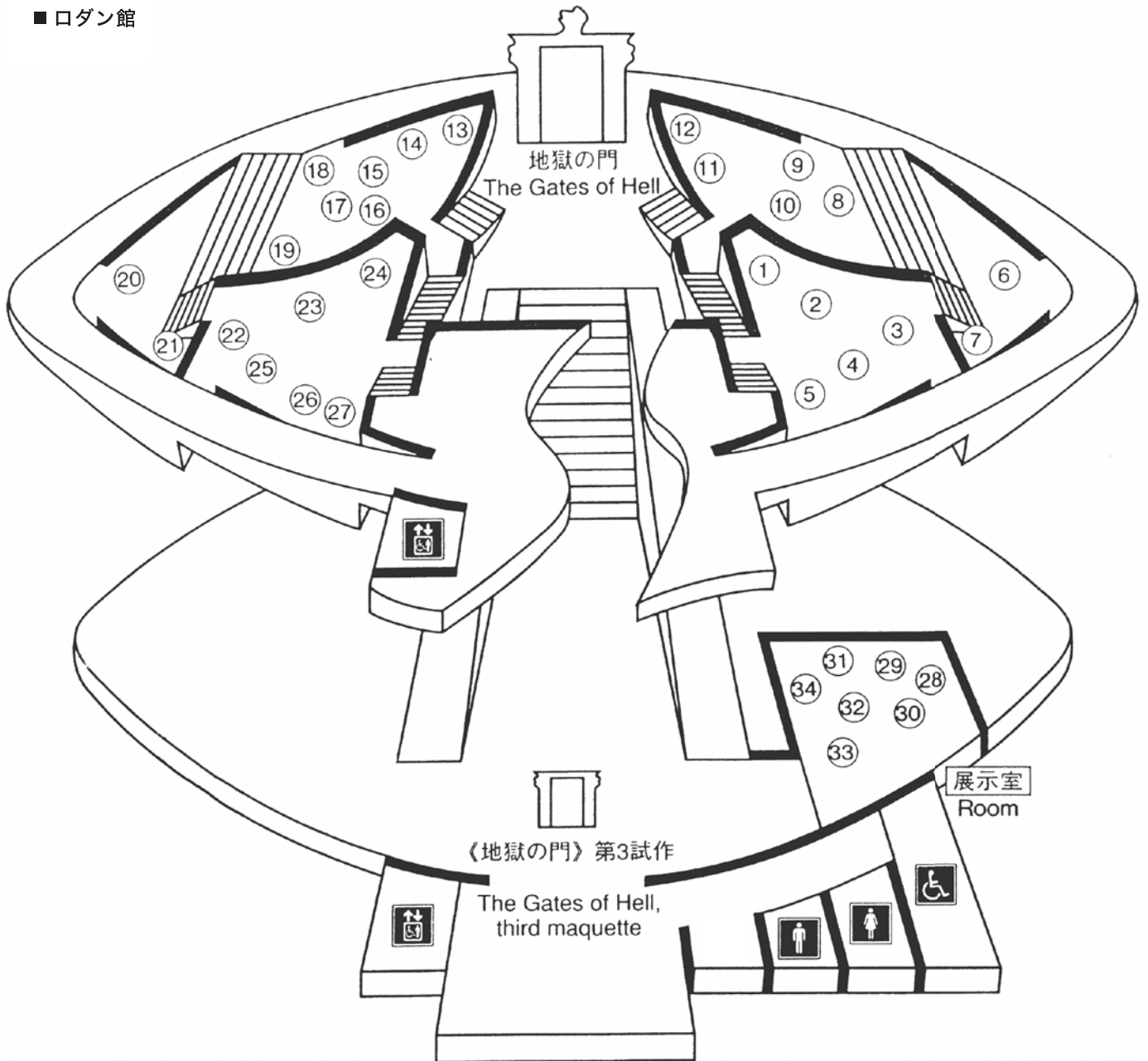
2階 Second Floor

⑩ (次頁へ)



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 授乳室 Nursing Room
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

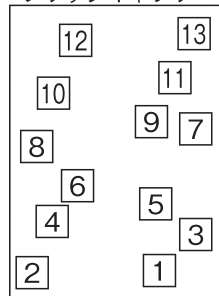
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレーの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室

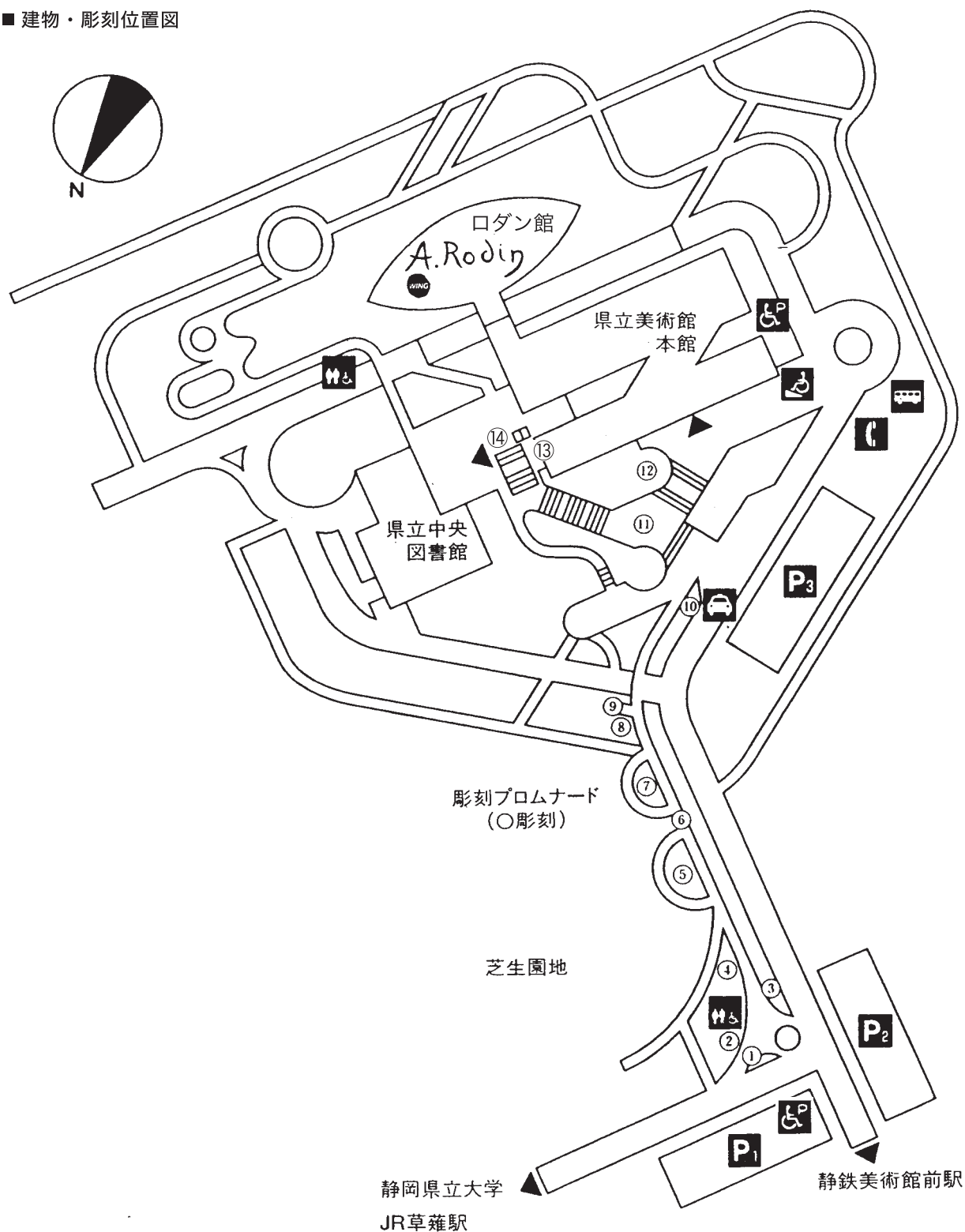
- ㉘ カルポー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシッツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式Ⅴ－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間

午前10時～午後5時30分

(展示室への入室は午後5時まで)

[夜間開館] 8月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

一般300円(団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学
大 展 示 室 展	300円 <200円>	無料	無料
兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～	1,500円 <1,300円>	800円 <700円>	800円 <700円>
絶 景 を 描 く —江戸時代の風景表現—	800円 <600円>	400円 <300円>	無料
みる誕生 鴻池朋子展	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無料
近 代 の 誘 惑 —日本画の実践—	800円 <600円>	400円 <300円>	無料

* < >内は前売及び20名以上の団体料金

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分		使 用 料
		10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講 堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分または静鉄バスで約3分

JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分

東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で15分、

新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課(TEL) 054-263-5755

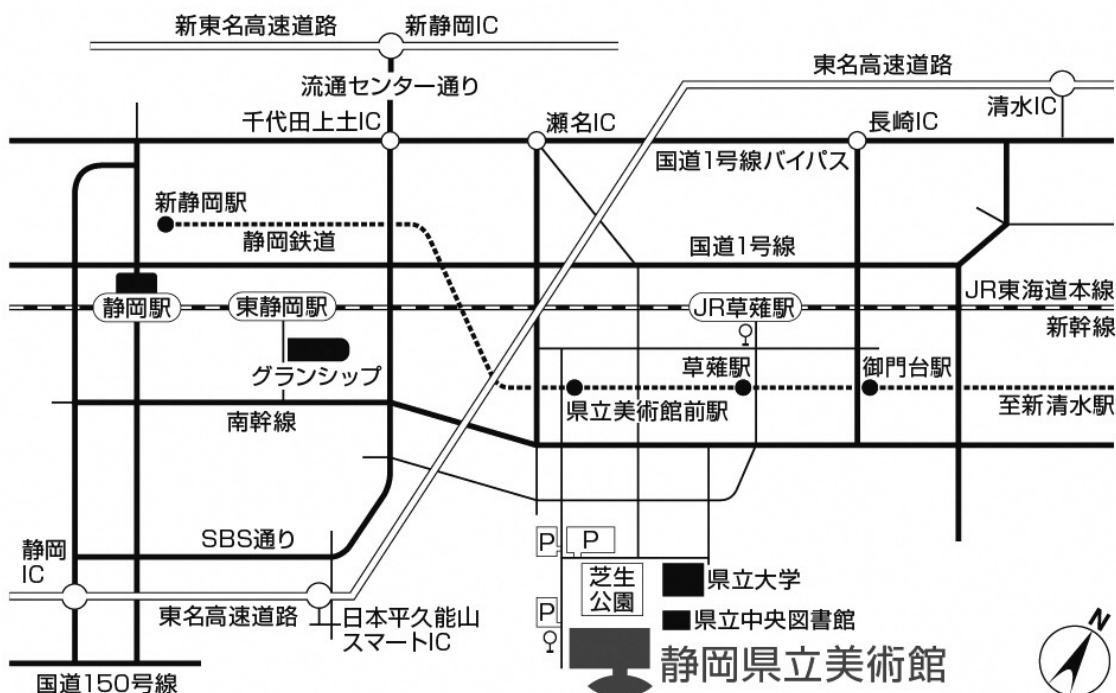
“(FAX) 054-263-5767

学芸課(TEL) 054-263-5857

“(FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926



令和 4 年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印 刷：有限会社橋本印刷所

〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島390

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2022

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by HASHIMOTO Printing Co., Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2023